九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

日本語学習動機づけに与える対日イメージの影響に関する研究 ： 韓国の大学における日本語学習者を事例として

金，元正

https://doi.org/10.15017/2534517

出版情報：Kyushu University, 2019, 博士（学術）, 課程博士
バージョン：
権利関係：

日本語学習動機づけに与える対日イメージの影響に関する研究

－韓国の大学における日本語学習者を事例として－

金　元　正

目　　次

第１章　序論 1
1.1　研究の背景 1
1.2　研究の目的と意義 6
1.3　用語の定義 6
1.3.1　対日イメージ 7
1.3.2　日本語学習動機づけ 7
1.4　理論的枠組み 8
1.4.1　対日イメージ 9
1.4.2　日本語学習動機づけ １０
1.5　論文の構成 １１
第２章　先行研究の概観 １４
2.1　日本語学習者の対日イメージと日本語学習動機づけに関する研究 １４
2.2　日本語学習者の対日イメージに関する研究 １９
2.3　日本語学習者の日本語学習動機づけに関する研究 ２８
2.4　先行研究の成果と問題点 ３７
第３章　本研究における課題と方法 ３９
3.1　本研究の課題 ３９
3.2　研究方法 ３９
3.3　予備的調査 ４０
3.3.1　予備的調査の概要 ４０
3.3.2　予備的調査の結果 ４１
3.4　本調査の概要 ４２
3.4.1　調査対象者 ４２
3.4.2　質問紙の作成とデータの収集 ４４
3.4.3　分析方法 ４５

第 4 章
2011 年以降の韓国人日本語学習者や日本語・日本関連専攻者などの減少要因..... ４７
4.1　2015 年調査における 2011 年以降の日本の韓国人留学生の減少原因..... ４７
4.1.1　調査の概要 ４７
4.1.2　調査方法と分析方法..... ４８
4.1.3　調査の結果 ４９
4.2　本調査における韓国人日本語学習者や日本語・日本関連専攻者などの減少 ５５
4.3　本章のまとめ ５６
第 5 章　韓国人日本語学習者が持つ対日イメージとその影響要因 ５９
5.1　韓国人日本語学習者の日本に対するイメージ..... ５９
5.2　韓国人日本語学習者の日本人に対するイメージ ６３
5.3　対日イメージに与える影響要因 ６８
5.4　本章のまとめ ７０
第 6 章　韓国人日本語学習者が持つ日本語学習動機づけ ７２
6.1　韓国人日本語学習者の日本語学習動機づけ ７２
6.2　日本語学習を始めた理由 ７８
6.3　日本語学習を継続している理由 ８１
6.4　日本語学習を将来にどう活かしたいか..... ８３
6.5　本章のまとめ ８６
第 7 章　対日イメージが日本語学習動機づけに与える影響 ８９
7.1　日本イメージが日本語学習動機づけに与える影響..... ８９
7.1.1　日本イメージと日本語学習動機づけの関連性 ８９
7.1.2　日本イメージが日本語学習を始める時に与える影響 ９１
7.1.3　日本語学習開始の前と後における日本イメージの変化..... ９４
7.2　日本人イメージが日本語学習動機づけに与える影響 ９８
7.2.1　日本人イメージと日本語学習動機づけの関連性..... ９８
7.2.2　日本人イメージが日本語学習を始める時に与える影響..... １００

7.2.3　日本語学習開始の前と後における日本人イメージの変化 １０２
7.3　本章のまとめ １０６
第 8 章　総合的考察及び結論 １１１
8.1　総合的考察 １１１
8.1.1
2011 年以降の韓国人日本語学習者や日本語・日本関連専攻者などの減少要因
..... １１１
8.1.2　韓国人日本語学習者が持つ対日イメージとその影響要因 １１３
8.1.3　韓国人日本語学習者が持つ日本語学習動機づけ １１５
8.1.4　対日イメージが日本語学習動機づけに与える影響 １１７
8.2　結論 １２１
参考文献 １２６
資料 1　現在の韓国社会における「就職難」に関するインタビュー １３３
資料 2-1（予備的調査：韓国語版） １３６
資料 2-2（予備的調査：日本語翻訳版） １４２
資料 3-1（本調査：韓国語版） １４８
資料 3-2（本調査：日本語翻訳版） １５４
謝　　辞 １６０

第１章　序論

本研究は、JFL（Japanese as a Foreign Language）環境における日本語学習の阻害要因となると考えられる「否定的な対日イメージが日本語学習動機づけに与える影響」について、韓国人日本語学習者（以下、韓国人学習者）を事例として明らかにするものである。本章では、本研究を行うにあたり、研究の背景、研究の目的、研究の意義、用語の定義、理論的枠組み、論文の構成について述べる。

1.1　研究の背景

国際交流基金の『海外の日本語教育の現状　2015 年度日本語教育機関調査結果』によると、海外の日本語学習者数[1]は 3,655,024 人である。そのうち、2015 年の韓国人学習者数は 556,237 人（15.2%）である。調査を実施した 1990 年、1993 年、1998 年、2003 年、2006 年、2009 年までは世界第 1 位であったが、2012 年から減少し始め、2015 年には 2009 年に比べその数は 4 割以上減少し第 3 位となった。また図 1 に示したように、日本語教育振興協会の『日本語教育機関の概況』によると、日本国内の日本語教育機関で学ぶ韓国人学習者数は、2018 年には 2010 年に比べ 7 割以上減少する事態となっている。そして、図 2 の韓国の教育統計サービスによると、韓国の大学における日本語・日本文学系専攻への志願者数は、2011 年以降前年度割れが続き、2018 年は 2011 年に比べ、一般大学[2]と専門大学[3]、大学院修士課程でそれぞれ 5 割以上、博士課程では 7 割以上減少している。

このような韓国人学習者や日本語・日本関連専攻者（以下、専攻者）などの減少に関わる要因として考えられるのは韓国国内の次のような事情である。

---

[1] 1990 年（447,610 人）、1993 年（820,908 人）、1998 年（948,104 人）、2003 年（894,131 人）、2006 年（910,957 人）、2009 年（964,014 人）、2012 年（840,187 人）、 2015 年（556,237 人）である（国際交流基金『海外日本語教育機関調査 1990 年～2015 年』による）。https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/index.html (2019 年 7 月 19 日アクセス)

[2] 韓国の一般大学とは、4 年制の正規大学を指す。

[3] 専門大学とは、中堅職業人を養成するために専門的な理論や技術を教授・研究する高等教育機関であり、1979 年従来の初級大学・実業高等専門学校・専門学校を一元化し再編成したもので、修業年限は通常 2～3 年である。

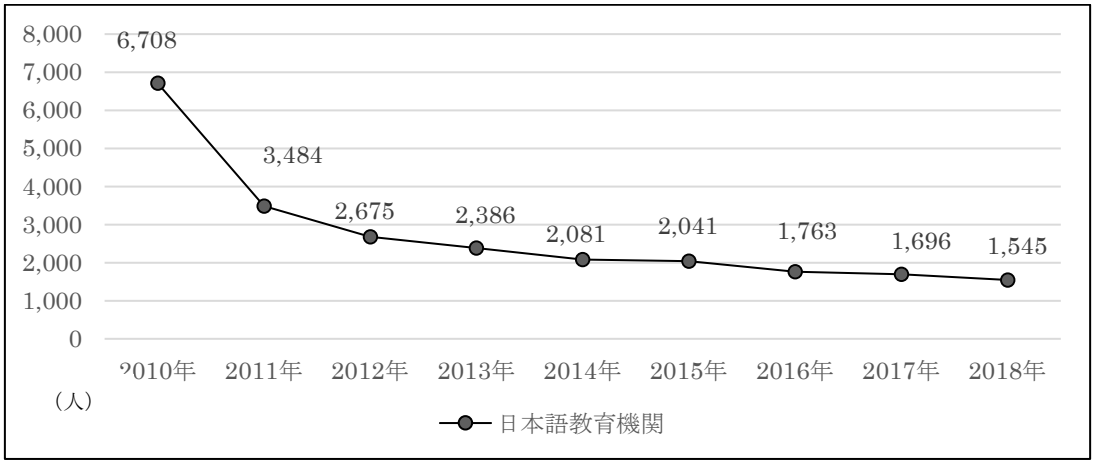

図 1　日本国内の日本語教育機関による韓国人日本語学習者数

出典：日本語教育振興協会『日本語教育機関の概況』により筆者作成
https://www.nisshinkyo.org/article/pdf/20190215s.gaikyo.pdf

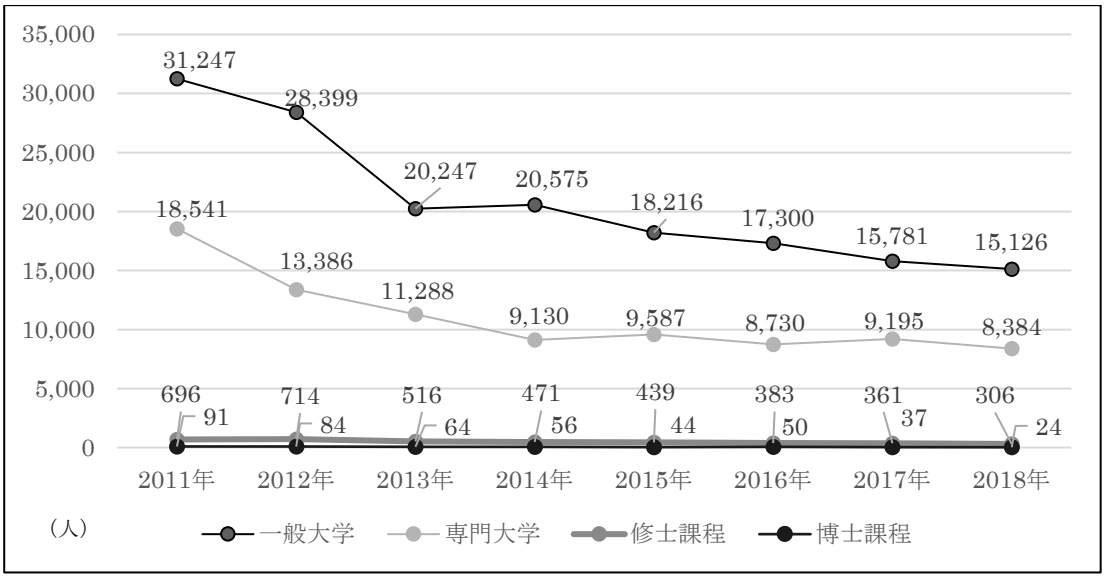

図 2　韓国の大学における日本語・日本文学系専攻への志願者数

出典：한국교육통계서비스（韓国の教育統計サービス）より筆者作成
http://kess.kedi.re.kr/index

2009 年 12 月、韓国の教育部[4]は「2009 年改訂教育課程[5]」を発表し、『中等教育課程の第二外国語』は必修科目から選択科目に改定された。つまり、2007 年改定の教育課程では中等教育課程の第二外国語が必修科目とされていたが、2009 年改定の教育課程では「生活・教養」という科目に統合され、日本語を含む 7 つの外国語もその中の選択科目となった。また、国際交流基金の資料によると、外国語選択に関連して、韓国における外国語としての日本語は、中国語との比較において次のように評価されている。「誰でも大した苦労もなく学べる言語であり、高校生などは優秀な学生ほど難しい中国語にチャレンジする」。さらに、「東日本大震災及び原発事故の発生により日本に対するイメージの悪化などの影響で将来性を考えれば、日本語より中国語を学習するべきだという雰囲気である」（国際交流基金の『日本語教育国・地域別情報　韓国（2014 年度）』）。

---

[4] 「教育部」は、韓国の人的資源開発政策と学校教育、生涯教育及び学術に関する事務を管掌する中央行政機関であり、日本の文部科学省に相当する。1948 年 7 月政府組織法に従って「文教部」が設置され、1990 年 12 月「教育部」に改称されたが、2001 年 1 月「教育人的資源部」に改編された。2008 年 2 月「教育科学技術部」に改編され、2013 年 3 月朴槿惠政府の発足と共に「教育部」に改編された。主要活動は、小・中・高等教育、生涯教育、人的資源開発政策、学術などに関する政策立案・施行や事務管掌、教育機関・所属機関・傘下団体の指揮や監督を行うことである。

また、韓国の教育制度は、初等学校 6 年、中学校 3 年、高等学校 3 年、大学校 4 年（専門大学 2～3 年）で構成され、初等学校と中学校は義務教育期間として無償教育が提供される。

[5] 2009 年 12 月 23 日、「2009 年改訂教育課程」（教育科学技術部 告示 第 2009-41 号）が発表された。「中等教育課程の編制」では、「基礎」（国語、数学、英語）、「探求」（社会（歴史、道徳）、科学）、「体育・芸術」（体育、芸術（音楽、美術））、「生活・教養」（技術・家庭、第二外国語、漢文、教養）の 4 つの領域に編制され、各科目の基本単位数は 5 単位で、各科目別 1 単位の範囲内で増減運営が可能で、可能な限り 1 学期に履修することになった。総計 116 単位のうち「生活・教養」（必修履修 16 単位）の中で選択履修できる第二外国語は、「ドイツ語Ⅰ・Ⅱ」、「フランス語Ⅰ・Ⅱ」、「スペイン語Ⅰ・Ⅱ」、「中国語Ⅰ・Ⅱ」、「日本語Ⅰ・Ⅱ」、「ロシア語Ⅰ・Ⅱ」、「アラビア語Ⅰ・Ⅱ」である。

「ncic 国家教育課程情報センター」

http://ncic.go.kr/mobile.dwn.ogf.inventoryList.do;jsessionid=4473429FFB7040B9ED0B1D48904961AA#（2019 年 7 月 19 日アクセス）

また、上田・瀧口・永野・山田（2014）では、韓国の大学に在籍する日本語専攻者を対象として調査を行った結果、「韓国で必要性を感じる外国語」という質問に対して、「英語」と「中国語」を選ぶ回答が最も多かったことを明らかにしている。

そして、韓国人学習者や専攻者のみならず、日本への韓国人留学者の数も大きく減少している。図 3 における日本の法務省の「在留外国人統計（旧登録外国人統計）」『都道府県別在留資格別在留外国人』によると、「日本への韓国の留学生総数」は 2010 年当時からみて 2017 年末には約 4 割減少している。ところが、2017 年から徐々に増加に転じ、2018 年 6 月末の統計では 17,097 人になり、前年に比べ約 1%増加している。これについては、第 8 章で述べる。

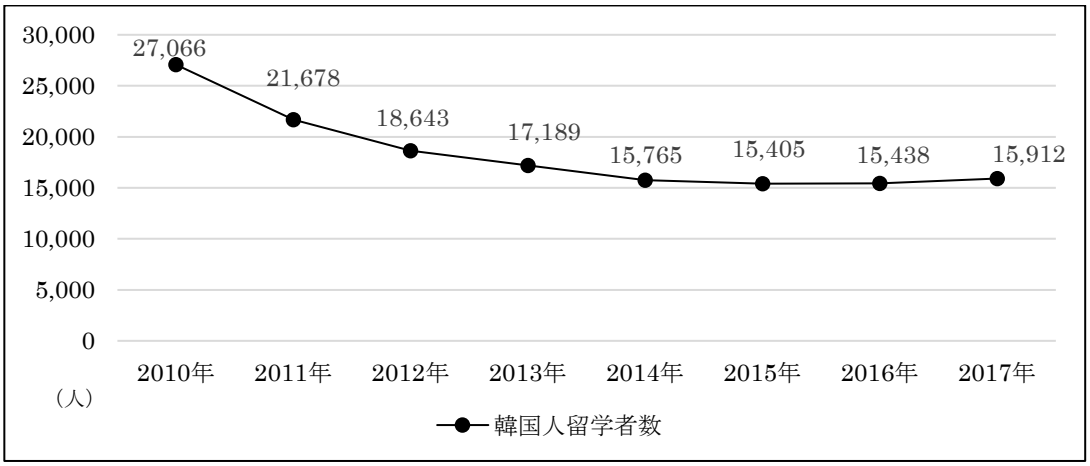

図 3　日本における韓国人留学者数

出典：法務省の「在留外国人統計（旧登録外国人統計）統計表」より筆者作成
http://www.moj.go.jp/housei/toukei/toukei_ichiran_touroku.html

こうした韓国人の日本への留学の減少をデータとして示すものが図 4 である。韓国の教育部による「国外高等教育機関韓国人留学生統計[6]」の『主要国別国外韓国人留学生の構成比』をみると、2017 年末には 2010 年に比べ、韓国人学生の日本への留学は 4.7%減少している（一方で中国は 5.0%増加）。このように日本への韓国人留学者数は、2011 年以降 2016 年までは前年度割れが続いていたが、しかしながら 2017 年から徐々に増え、2018 年には約 1%上がっている。この増加については、第 8 章で述べる。

[6] 2016 年までは「国外韓国人留学生情報公開」という資料名称であったが、2017 年名称が変更され「国外高等教育機関韓国人留学生統計」という題目となった。

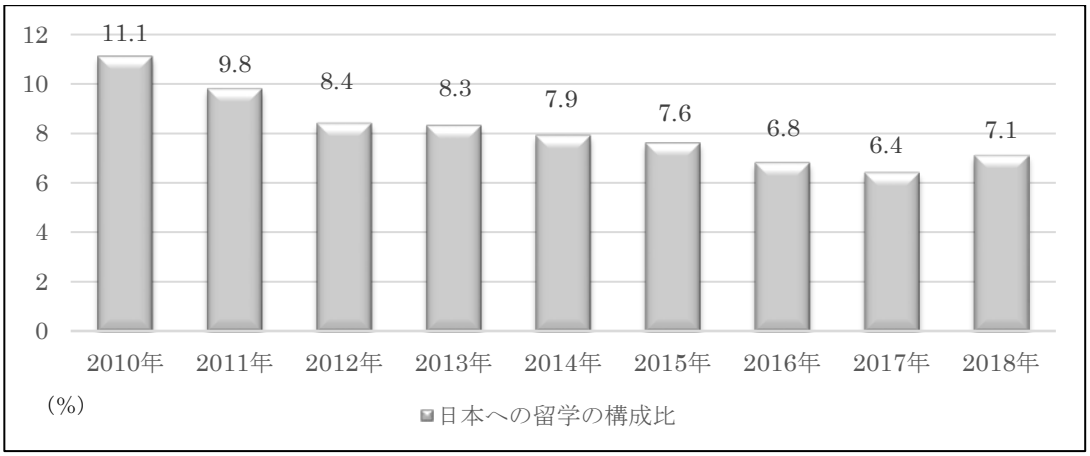

図 4　韓国人の日本への留学者の構成比

出典：한국 교육부 국외 고등교육기관 한국인 유학생 통계
（韓国の教育部「国外高等教育機関韓国人留学生統計」より筆者作成
http://www.moe.go.kr/boardCnts/list.do?boardID=350&m=040103&s=moe

以上の韓国人学習者や専攻者などの減少は、2011 年以降生じているという事実から、2011 年 3 月 11 日の東日本大震災（以下、3.11）の原発事故を背景とした日本に対する否定的なイメージが影響していると考えられる。加賀美・守谷・岩井（2014）では、「地震・放射能」が 3.11 後に生じた否定的イメージとして現在でも大きな影響力を持つことや、調査対象者のインタビューから、「津波の被害」、「原発事故の問題の深刻さ」、「放射能の危険」などの 3.11 後の日本が抱える事態の深刻さが否定的なイメージを構成していることを指摘している。また、加賀美・岡村・小松・朴（2013）では、3.11 は日本観測史上最も巨大で未曽有の被害を東北地方にもたらし、この地方だけではなく、関東、東京近郊の大学においても、多くの留学生は一時帰国し休学する学生もいたことを明らかにしている。調査対象者である留学生の自由記述では、「3.11 の経験は、これまでの人生では経験したことがない災害で衝撃的な出来事」であり、災害後の生活における継続的な不安、将来に対する不安を考える出来事であったことが明らかにされている。つまり、3.11 と原発事故が留学生に与えた影響が非常に大きかったことが分かる。

そして、日本語学習者は日本への興味を持ち、日本語学習の行為に移る（片田, 2016）ということを考えると、以上のような否定的な対日イメージは学習者の日本語学習動機づけに阻害となる要因でもあることが考えられる。しかしながら、学習開始時だけでなく、学習を継続するためにも、学習動機づけが非常に重要であることは言うまでもない。特に、日本国内ではなく、海外である JFL 環境においては、「習得に長い時間を要する外国語学習にとって、動機づけはきわめて重要な要因である」が、「韓国という JFL

環境においては、日本語学習動機づけを持続させるための方向づけは充分に行われていない」（李，2003：75）。また、田中（2012）も「動機づけが学習の成否に影響を及ぼすことが重要であるのに、韓国では学習動機づけにおける研究は進んでいない」と指摘しており、韓国における日本語学習動機づけの解明がまたれている。

以上のことから、日本に対する地震・放射能などの否定的なイメージと日本語学習動機づけとの関連性について研究を行う必要性があることは明白である。

1.2　研究の目的と意義

本研究は、韓国人学習者や専攻者、日本への韓国人留学生が 2011 年以降大幅に減少している事実に着目し、韓国という JFL 環境における日本語学習の観点から、韓国人学習者が持つ対日イメージと日本語学習動機づけについての関連を明らかにするものである。対日イメージの中でも、とりわけ日本語学習の動機づけに阻害要因となると考えられる「否定的な対日イメージが日本語学習動機づけに与える影響」について明らかにすることを本研究の目的とする。

本研究の意義は、以下の二つにまとめられる。

一つ目は、否定的な対日イメージが学習動機づけに与える影響を明らかにすることにより、JFL 環境における学習者が日本語を学習するあたり、目標言語の国に対する否定的なイメージをどのように受け止め、学習を継続するためにそのイメージをどのように処理するのかを理解することで、JFL 環境での日本語教育に新しい知見を提供できるものと考える。また、JFL 環境の現場で教えている日本語教員は、本研究で得られた知見を参考に指導を行うことで、学習者の日本及び日本人に対する否定的なイメージが学習動機づけに与える可能性のある負の影響を最小限にとどめることができるのではないかと考える。

二つ目は、このような否定的な対日イメージと日本語学習動機づけの関連を問う研究は、韓国のみならず、多くの国にも参考となると考える。例えば、日本人英語学習者のアメリカに対する否定的なイメージと英語学習動機づけ、日本人中国語学習者の中国に対する否定的なイメージと中国語学習動機づけなどのように、他の国や言語にも応用ができると考える。

1.3　用語の定義

本節では、対日（日本及び日本人）イメージと日本語学習動機づけについて用語の定

義を述べていく。

1.3.1　対日イメージ

イメージとは、「人が所属する社会の固定化した観念を共有しようとする際の共有化された観念のことである」（日本語教育学会（編）（2005）『新版日本語教育事典』p.497）。また、イメージはある対象について心のなかに像を作ることができ、実物がなくても思い浮かべ、過去の体験の中でも作られるもので、非現実的なこともあり、必要に応じて合成や比較、自分で操作することもできる（中沢，1979：11-14）。

つまり、対日イメージとは、日本（国）及び日本人に対して心に思い浮かべる像や、全体的に心に抱く印象などを指す。本研究では、韓国の大学における日本語学習者が日本及び日本人に対して持つ社会的・心理的に共有化された観念を指す。また、纓坂・内藤・泉・奥山（2008）、加賀美・守谷・岩井・朴・沈（2008）、呉（2008a,b）、夏（2010）、纓坂（2011）、加賀美・守谷・岩井（2014）など多くの先行研究では、日本に対するイメージを「日本イメージ」、日本人に対するイメージを「日本人イメージ」という表現を使っていることから、本研究でもそれらにならうこととする。

1.3.2　日本語学習動機づけ

動機づけについては、第二言語習得と教育心理学の立場に分類できる。まず、第二言語習得における動機づけは、「統合的動機づけ」と「道具的動機づけ」に分けられる。Gardner & Lambert（1959,1972）によると、「統合的動機づけ」（integrative motivation）は目標言語話者の集団や、文化、言語などについて知りたい、自分もその集団に溶け込み成員になりたいという動機づけである。「道具的動機づけ」（instrumental motivation）は、目標言語の習得を仕事や経済的な利益、社会的な地位などを得ることを目的とした道具としての動機づけである。

教育心理学の立場からは、「内発的動機づけ」（intrinsic motivation）と「外発的動機づけ」（extrinsic motivation）に分けられる。デシ（1980，安藤・石田訳）によると、「内発的動機づけ」は、当の活動以外には外的報酬が全くなく、その活動自体が目的であり、当の活動から喜びを引き出している動機づけである。「外発的動機づけ」は、報酬の獲得や、賞讃、罰の回避などという目的のための手段としての動機づけである。つまり、「内発動機づけは、学習者の内面から出てくる動機によって学習が誘発される状態で、学習者は学習すること自体に満足する。外発的動機づけは、外からの刺激（賞罰

や報酬など）や、自分の価値観によって、学習が誘発される」（近藤・小森（編）『研究社日本語教育事典』（2012：89‐90））ものである。

1.4　理論的枠組み

本研究は、対日イメージについては喬（2014）の「対日イメージ形成の理論」を、日本語学習動機づけについてはDeci&Ryan（2002）の「自己決定理論」を用いる。その理由を以下に述べる。

喬（2014）の対日イメージ形成の理論は、中国人日本語専攻者を対象として、「対日イメージの先入観」、「固定的イメージ化の段階」、「流動的イメージ化の段階」等、イメージの形成及び変化を理論化したものである。したがって当該理論は、韓国人学習者の日本語学習が進むにつれて対日イメージを形成し変化させることを説明するのに適していると考えられる。先行研究によると、韓国人学習者の対日イメージは日本及び日本人に対する肯定的なイメージと、歴史・政治、地震・放射能などの否定的なイメージを持つ（加賀美・守谷・岩井，2014）。日本語学習開始前に韓国のテレビ放送・新聞、中・高校の学校教育などを通して、日本及び日本人に対する肯定的・否定的なイメージが形成される（大江，2012）。このようなイメージ形成を通して韓国人学習者は日本人に対してステレオタイプを持つ（呉，2006）。このように、韓国人学習者は日本及び日本人に対して肯定的及び否定的なイメージや、先入観、固定観念などを持つ場合が多いと考えられる。また、大江（2012）、呉（2008）は、学習者は日本語を学習する中で、日本及び日本人との接触や日本語関連授業などを通して、日本の「植民地支配」、「いじめ社会」などという国に対する否定的なイメージが減少し、日本人の「二面的」、「礼儀正しい」、「親切・やさしい」などという人に対するイメージが増加し、流動的にイメージが変化していることを明らかにしている。つまり、対日イメージの形成と変化に着目する点から、図5に示した喬（2014）の対日イメージ形成の理論を本研究の理論的枠組みの一つとする。

日本語学習動機づけについては、Deci&Ryan（2002）の「自己決定理論」を理論的枠組みとする。その理由は、自己決定理論は心理的な立場として、学習動機づけは自己決定の観点から、無動機から外発的動機づけ、内発的動機づけへと段階的に発展するという理論であり、学習者の心理的な面や動機づけを段階別に説明するのに適していると考えられ、本研究の理論的枠組みの一つとする。

次に、理論的枠組みについて具体的に述べる。

1.4.1　対日イメージ

喬（2014）の対日イメージ形成の理論を図 5 に示す。図 5 の①の「対日イメージの先入観」は、「反日」と「親日」から構成される。これらは、子供の頃からすでに形成されるとされ、加賀美・守谷・岩井・朴・沈（2008）では、日本に対するイメージは小学生から形成されることを明らかにしている。②の「固定的イメージ化の段階」は、すでに持っていたイメージによってカテゴリー化される。海外における学習者は、日本語学習の初期段階で「日本のドラマ・映画・漫画・アニメ」、「メディアの放送やインターネット記事など」、「日本語授業での学習」などから日本に関する知識や情報を得ているが、「ステレオタイプ[7]の固定観念」が多く見られる。次の「流動的イメージ化の段階」における「個人の体験を通じた対日イメージの形成」では、日本及び日本人との交流から、共通性の認識や国の違いにこだわらないという類似性の認識、新たな人間関係が構築される。また、「能動的態度の形成」では、社会的自己から個人的自己へ、開かれた文化観の形成という概念が構成される（喬，2014：204 - 211）。

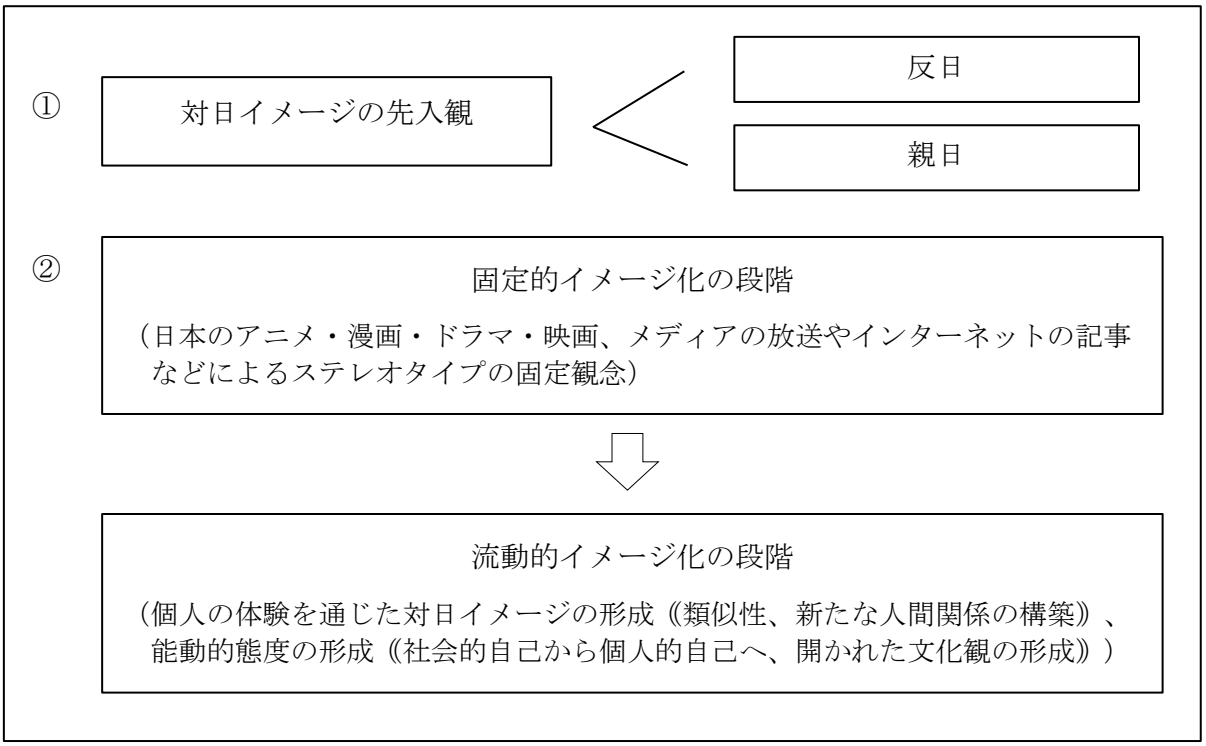

図 5　対日イメージの形成及び変化

喬（2014：204-213）を参考に筆者作成

[7] 呉（2006）では、ステレオタイプについて、「ある社会集団に対して持つイメージ」と定義している。

1.4.2　日本語学習動機づけ

教育心理学の立場における「外発的動機づけ」と「内発的動機づけ」については、「自己決定理論」が代表的理論である。「自己決定理論の下位項目」については、以下の 4 つが挙げられる。「認知的評価理論(Cognitive evaluation theory)」、「有機統合理論(Organismic integration theory)」、「因果志向性理論(Causality orientations theory)」、「基本的心理欲求理論(Basic psychological needs theory)」である（Deci&Ryan, 2002：9 - 27）。

近年は、自己決定理論の中で、特に「有機統合理論」を基にした研究が多く行われている。この理論の具体的な内容を示したものが表 1 である。

表 1　自己決定理論の段階性（「有機統合理論」）

Deci&Ryan（2002）、石塚（2007）、田中（2012）、小池（2012）、大西（2014）などより作成

行動	非自己決定的 ⟷					自己決定的
動機づけ	無動機づけ	外発的動機づけ				内発的動機づけ
調整段階	非調整	外的調整	取入れ的調整	同一視的調整	統合的調整	内発的調整
認知された因果律の所在	非自己的	外的	外的より	内的より	内的	内的
	やりたいと思わない	外部から強制されて「やらされているから」行動をしている状態	「しなくてはいけない」といった義務的な感覚を伴っている	「自分にとって重要だから」「将来のために必要だから」やるといった積極的な理由へと変わる	「自らやりたくて」その行動を選択している状態、自律的に動機づけられた状態	面白いから楽しいから、興味があるから、好きだから

表 1 における自己決定理論の段階性について、無動機づけは行動の意志がない状態であり、外的調整は報酬の獲得や罰の回避などであり、取入れ的調整は自己価値の維持や、罪の回避などである。同一視的調整は自分にとって重要なことや将来のため、行動価値を認識しており、統合的調整は外発的動機づけのうち、最も自己決定的であり、内発的調整は活動その自体に対する興味や関心、喜びを引き出している。(Deci&Ryan, 2002：

14-20；大西，2014：16；石塚，2007：147)。

以上の対日イメージと日本語学習動機づけの理論を踏まえ、この 2 つの理論を枠組みとして、本研究を行っていく。

1.5　論文の構成

本研究は、8 章で構成される。具体的な内容は図 6 に示す。

第 1 章　序論

研究背景、研究目的、研究意義、用語の定義、理論的枠組み、論文の構成

⇩

第 2 章　先行研究の概観

対日イメージと日本語学習動機づけに関する研究

先行研究の成果と問題点

⇩

第 3 章　本研究における課題と方法

本研究の課題、研究方法、本調査の概要（調査対象者、分析方法など）

⇩

第 4 章　2011 年以降の韓国人日本語学習者や日本語・日本関連専攻者などの減少要因

2015 年の調査、本調査

⇩

第 5 章　韓国人日本語学習者が持つ対日イメージとその影響要因

日本及び日本人に対するイメージの分析

対日イメージに与える影響要因

第 6 章　韓国人日本語学習者が持つ日本語学習動機づけ

日本語学習動機づけの分析

日本語学習を始めた理由、継続している理由

日本語学習を将来にどう活かしたいか

第 7 章　対日イメージが日本語学習動機づけに与える影響

日本イメージが日本語学習動機づけに与える影響

日本人イメージが日本語学習動機づけに与える影響

日本及び日本人イメージが日本語学習を始める時に与える影響

日本語学習開始の前と後における日本及び日本人のイメージの変化

第 8 章　総合的考察及び結論

総合的考察、本研究の結論、今後の課題

図 6　論文の構成図

第 1 章では、序論として本研究を行うことにあたっての背景や、研究の目的、このような研究を行うことの意義、理論的枠組みなどを述べる。

第 2 章では、対日イメージと日本語学習動機づけに関連する先行研究を概観した上で、先行研究の成果と問題点について述べる。

第 3 章では、本研究の課題について述べ、本研究を行うに当たっての研究方法及び本調査の概要（調査対象者の属性や、調査方法（質問紙の作成、データの収集）、分析方法）を述べる。

第 4 章では、2011 年以降、韓国人学習者や専攻者などが減少した要因について、2015 年に行った「2011 年以降の日本の韓国人留学生減少の要因」と 2017 年から 2018 年にかけて行った「2011 年以降の韓国人日本語学習者や日本語・日本関連専攻者などが減少した要因」について分析する。

第 5 章では、「韓国人学習者が持つ対日イメージ」に関して分析し、さらに専攻者と

非専攻者の比較をする。また、「対日イメージに与える影響要因」について分析する。

第 6 章では、「韓国人学習者が持つ日本語学習動機づけ」について分析し、さらに専攻者と非専攻者の比較を行う。また、「日本語学習を始めた理由」、「日本語学習を継続している理由」、「日本語学習を将来にどう活かしたいか」については、自由記述から得られたデータを分析する。

第 7 章では、「対日イメージが日本語学習動機づけに与える影響」について、第 5 章と第 6 章における因子分析の結果を用いて、重回帰分析を行う。その上で、韓国人学習者が持つ否定的な対日イメージが日本語学習動機づけに与える影響は何かについて明らかにする。また、「対日イメージが日本語学習を始める時に与える影響」と「日本語学習開始の前と後における対日イメージの変化」について自由記述から得られたデータを分析する。

第 8 章では、第 4 章・第 5 章・第 6 章・第 7 章で行った分析の結果について、総合的考察を行い、本研究の結論を述べる。最後に、本研究で課題として残された点については、今後の課題として述べる。

第 2 章　先行研究の概観

本章では、まず対日イメージと日本語学習動機づけの関連に焦点を当てた先行研究から概観していく。次に、対日イメージに関する研究を概観し、続いて日本語学習動機づけに関する研究を見ていく。最後に、概観した先行研究の成果と問題点について述べる。

2.1　日本語学習者の対日イメージと日本語学習動機づけに関する研究

対日イメージと日本語学習動機づけの関連に焦点を当てた研究に関して、韓国人日本語学習者と韓国人以外の日本語学習者に分けてまとめる。また、齊藤（2016）と片田（2016）以外の先行研究では、この二者の関連性を分析するにあたり、因子分析や相関分析、重回帰分析などが行われている。先行研究の概観を以下の表 2 に示す。

表 2　対日イメージと日本語学習動機づけに関する研究　（年度順）

対象者	研究者と調査地域	調査の概要と結果
韓国人日本語学習者	纓坂・奥山（2001）・韓国ソウル市	・韓国人の対日観と日本語学習動機の検討 ・大学における女子大学生日本語専攻者 85 名、大学生の両親 69 名 ・因子分析、相関分析 ・「日本（人）に対する認知」では、3 つの因子「親和性」「信頼性」「先進性」、日本語学習動機づけでは 3 つの因子「融合」「啓発」「教養」が抽出された。 ・大学生の両親は、子女の日本語学習に対して肯定的で、高く期待している。大学生は、テキストを通じた語学習得にとどまらず、「日本の理解」「日本人との交流」のような「統合的志向」が強い
	纓坂・奥山（2003）・韓国ソウル市	・韓国人大学生の対日観と日本語学習動機形成要因の検討 ・大学における日本語学習者 218 名（男性 62 名、女性 156 名） ・ｔ検定、重回帰分析 ・男子大学生は日本の信頼性により日本（人）との交流が志向されるが、女子大学生は日本の先進性が日本語知識の習得を促す。

	纓坂・内藤・泉・奥山（2008） ・ 韓国 ソウル市	・韓国の日本語教育状況の変化と大学生の日本語学習 ・大学における日本語学習者 222 名（日本語専攻者 108 名、非専攻者 114 名） ・因子分析、相関分析 ・日本語学習動機は4つの因子「道具的志向」「日本大衆文化志向」「誘発的志向」「内集団志向」、日本イメージは3つの因子「信頼性」「先進性」「活動性」、日本人イメージは3つの因子「勤勉性」「信頼性」「自律性」が抽出され、日本語学習動機は日本及び日本人のイメージとそれぞれやや高い正の相関及び高い正の相関が見られた。
	齊藤（2016） ・ 韓国	・日本語学習者と中国語学習者の学習動機とイメージ研究 ・大学における教養日本語の受講生 126 名、教養中国語の受講生 101 名 ・各質問項目が占める人数や割合の分析 ・日本語学習者は中国語学習者に比べ、「統合的動機づけ」が優勢であり、目標言語や相手国家に対しても良いイメージを持っている。
	김（金）（2019） ・ 韓国	・日本語学習動機づけ及び対日イメージと学業成就度との関連性 ・高等学校に在籍する日本語を第二外国語として選択している 110 名 ・質問紙調査とインタビュー調査 ・各質問項目が占める人数や割合の分析 ・日本語学習動機づけは「内的動機づけ」（42.7%）、対日イメージは「良い」（40.9%）が最も割合が高かった。また、対日イメージが肯定的な理由としては「日本文化に関心を持っているから」、対日イメージが否定的な理由としては「過去の歴史に対して反省をしないから」の割合が圧倒的に高かった。

	夏（2010） ・ 中国 北京及び 河北省	・中国における日本語専攻学習者の日本人イメージ ・3 つの大学における日本語専攻者 434 名 （1 年生 117 名、2 年生 106 名、3 年生 111 名、4 年生 100 名） ・因子分析、重回帰分析 ・日本人イメージは 6 つの因子「開放性」「親和性」「勤勉性」「寛容性」「先進性」「人間関係親密性」、日本語学習動機づけは 7 つの因子「日本文化理解」「日本語の向上」「日本語への興味」「日本への憧れ」「日本への留学・就労、就職の有用性、日本に関係ある人の存在」が抽出された。 ・「日本への憧れ」と「日本に関係ある人の存在」という動機づけが日本人イメージに正の影響を与えた。
韓国人以外の日本語学習者	纓坂（2011） ・ 香港、中国	・大学生の日本語学習動機と対日本イメージの検討-香港と中国間の比較 ・大学における日本語学習者の香港 92 名、中国 128 名 ・因子分析、相関分析 ・日本イメージについて香港群では 4 つの因子「活動性」「信頼性」「柔軟性」「先進性」、中国群では 4 つの因子「親和性」「先進性」「活動性」「 誠実性」、日本人イメージについて香港群では 4 つの因子「親和性」「信頼性」「誠実性」「自律性」、中国群では 4 つの因子「親和性」「信頼性」「非自律性」「誠実性」が抽出された。日本語学習動機づけについて香港群では 4 つの因子「統合的志向」「道具的志向」「誘発的志向」「啓発的志向」、中国群では 4 つの因子「日本大衆文化志向」「道具的志向」「統合的志向」「誘発的志向」が抽出された。 ・日本語学習動機の「統合的志向」と「日本大衆文化志向」は、日本及び日本人のイメージの「信頼性」「誠実性」「親和性」と相関が認められた。

	片田（2016） ・ 日本	・日本語を学ぶ動機と日本に対する意識について ・大学における日本語専攻者 65 名、短期交換留学生 38 名（中国、韓国、ベトナム、台湾、ネパール、香港、ウクライナ、アメリカ、タイ、インドネシア、ロシア、フランスなど） ・19 質問項目に対して占める回答の割合や内容を分析 ・日本語学習者はまず日本に興味を持ち、日本語を学ぶという行為に移る。
	王（2017） ・ 中国 浙江省	・中国人大学生の対日認識と日本語学習動機づけ ・大学における日本語専攻の 18 クラス 397 名（1 年 103 名、2 年 105 名、3 年 97 名、4 年 92 名） ・相関分析、パス解析 [8] ・肯定的な対日意識は外国語・第二言語（以下、L2）MSS（Motivational Self System）を高め、L2MSS の高さは動機づけられた学習行動を促進する関係にある。

韓国の大学における日本語学習者を対象としている主な先行研究のうち、纓坂・奥山（2001）では、大学生の両親群は子女の日本語学習に対して肯定的で高い期待を抱いているが、異文化交流の行動レベルは求めていなかった。これに対して、大学生群は日本語の語学習得にとどまらず、「日本の理解」と「日本人との交流」のような「統合的志向」が強いことが明らかになった。この結果から、より効果的な日本語学習を実践するためには、テキストにとどまらず、日本語学習環境の変化や主な動機づけとなっている日本理解と日本（人）との交流を考慮した上での指導や日本語教育が求められていることを指摘した。纓坂・内藤・泉・奥山（2008）では、日本語学習動機づけは「道具的志向」、「日本大衆文化志向」、「誘発的志向」、「内集団志向」の 4 因子、日本イメージは「信頼性」、「先進性」、「活動性」の 3 因子、日本人イメージは「勤勉性」、「信頼性」、「自律性」の 3 因子が抽出された。日本イメージと日本人イメージの「信頼性」は日本語学習

[8] パス解析は、変数間に影響関係が仮定されている場合の解析方法。回帰分析（単回帰分析、重回帰分析）を応用し、変数間の因 果関係を数量的に表した結果をパスダイアグラムにまとめたもの。パスに添えられた数値（標準偏回帰係数）をパス係数といい、因果関係の大きさを表す（纓坂・奥山，2003：193）。

動機の「道具的志向」と高い相関が認められた。そして、日本と日本人を信頼するイメージが高ければ、進路や地位の向上を学習理由とする日本語学習の「道具的志向」が強く、教育課程の早い時期に日本語学習を開始し、学習期間が長い学生ほど、「道具的志向」と「日本大衆文化志向」が強く動機づけられる傾向が顕著に見られた。しかし、上述した「信頼性」について、纓坂・奥山（2003）の男女大学生の比較では、男子大学生の場合は日本に対する「信頼性」と「親和性」が形成され、「信頼性」により日本（人）との交流を志向するが、女子大学生の場合は「信頼性」や「親和性」は日本語学習動機形成には関連がなく、日本の「先進性」への評価が日本語知識の学習を促すことが明らかになった。続いて纓坂・内藤・泉・奥山（2008）では、専攻者と非専攻者の比較で、専攻者にとっては日本語が就職や地位の向上のための役割を担っているが、非専攻者は漠然とした動機であったことが特徴的であった。非専攻者を対象としている研究である齊藤（2016）では、日本語学習動機について（教養）日本語学習者は「ほかの外国語より面白そうだ」と「単位が必要だ」が最も高かった。続いて、「日本・日本人・日本文化に興味がある」、「易しそうだ」、「日本の漫画・アニメに興味がある」の順であった。日本に対するイメージについては、「特に他の国と変わらない」、大学卒業後日本語を使ってしたいことについては、「観光旅行をしたい」がそれぞれ最も高かった。続いて、日本語学習者は「仕事上日本語を必要とする会社に就職したい」、「留学したい」、「娯楽（ゲーム）」が同様な順であった。

また、김（2019）では、以上のような大学生ではなく、日本語を第二外国語として選択している高校生を対象として調査を行った。その結果、日本語学習動機づけと対日イメージとの関連性ついて、内的動機づけを持っている学習者は肯定的な対日イメージを持っており、外的動機づけを持っている学習者は否定的な対日イメージを持っていることが明らかとなった。そして、日本語を選択した動機づけとしては外的動機づけ、対日イメージについては「良い」の割合が最も高かった。特に対日イメージについて肯定的な理由としては「日本文化に関心を持っているから」、否定的な理由としては「過去の歴史を反省しないから」が最も多かった。日本語学習動機づけと日本語の成績については、内的動機づけを持っている学習者ほど点数が高かった一方、対日イメージと日本語学業成就度との関連性は低かった。つまり、日本語の成績は、対日イメージの「良い」や「良くない」ということとあまり関係がなく、与える影響も大きくないということであり、成績については「個人の要因」が最も大きいことがわかった。

他方、非韓国人学習者を対象としたもののうち、纓坂（2011）では、表 2 に示すよう

に、中国群と香港群の日本及び日本人のイメージ、日本語学習動機づけについて、それぞれ４つの因子が抽出された。中国群は日本語学習動機づけの「日本大衆文化志向」は、日本イメージの「親和性」に比較的に強い正の相関、「誠実性」に弱い正の相関が見られ、日本人イメージの「親和性」とも弱い正の相関が見られた。香港群は、日本語学習動機づけの「統合的志向」は日本イメージの「信頼性」と日本人イメージの「誠実性」に弱い正の相関が見られ、「道具的志向」は日本イメージの「信頼性」、日本人イメージの「誠実性」に弱い正の相関が見られた。また、両群とも「活動的で先進的である」、「誠実で自律的」というイメージが強いことが明らかになった。

以上の先行研究によると、韓国人学習者の日本語学習動機づけでは、「日本・日本人・日本語への興味」という統合的動機づけの割合が高い傾向が見られた。また、日本及び日本人のイメージの「信頼性」が高く、日本語学習期間が長い学習者ほど、道具的動機づけの割合が高かった。しかしながら、非専攻者の場合は日本語学習動機づけが漠然としている傾向が見られた。以上概観したように、日本及び日本人のイメージと日本語学習動機づけの関連に焦点を当てた研究は非常に限られ、また韓国を対象とした先行研究では統合的・道具的動機づけに焦点を当てたものがほとんどで、本研究が枠組みとする内発的・外発的動機づけを中心とした研究はまだ少ない。特に、2011 年以降の韓国人学習者や専攻者減少、この 2 つの関連性を検討した研究はほとんど見当たらない。果たして、2011 年以降、韓国人学習者の日本及び日本人のイメージと日本語学習動機づけの関連性は、先行研究の結果と同様であるのだろうか。

2.2　日本語学習者の対日イメージに関する研究

対日イメージに関する研究について、韓国人日本語学習者と韓国人以外の日本語学習者に分けてまとめる。先行研究を調査方法で分類すると、呉（2006）、加賀美・守谷・岩井（2014）、喬（2014）、田中・岡村・加賀美（2015）、金（2016）では、質的調査としてインタビュー（面接）調査が行われ、それ以外の研究では量的調査として質問紙調査が行われている。先行研究の概観を以下の表 3 に示す。

表 3　対日イメージに関する研究　　（年度順）

対象者	研究者と調査地域	調査の概要と結果
韓国人 日本語 学習者	岩男・萩原 （1982） ・ 韓国 ソウル市	・韓国人大学生の対日イメージ ・大学に在籍する 556 名（男性 473 名、女性 83 名） ・質問紙調査、「好き嫌い」に対する分析、来日経験による対日イメージの変化 ・韓国人大学生は、日本に対して知識を大きく持っているが、好意的ではなく、日本に関する豊富な知識を持っているほど日本に対して否定的な評価をする傾向にあり、きわめて批判的である。
	齊藤（2004） ・ 韓国 ソウル市、 春川市	・韓国の大学生の日本、日本人、日本語に対する意識とイメージ形成に影響を与える要因について ・2 校の大学に在籍する 412 名（日本語関連学科学生 139 名、教養日本語学生 141 名、理工系 132 名） ・日本・日本人・日本語に対して「とてもよい」、「よい」、「特に他の国と変わらない」、「悪い」、「かなり悪い」という観点から人数と割合を分析 ・全体的に日本に対して比較的「よいイメージ」を持っており、日本人に対しては「特に他の国と変わらない」と回答した学生が多い
	中川・神谷・李 （2006） ・ 韓国 ソウル市、 天安市、 大邱市、 釜山市	・韓国における日本語学習者の日本と日本文化に対する意識 ・4 地域の大学に在籍する 335 名（日本語専攻者 166 名、非専攻者 169 名） ・日本と日本文化に対する人数と割合を分析（クロス集計 [9]） ・日本と日本人のイメージについて、専攻者は「経済大国」、非専攻者は「緻密な計画性」が最も高かった。日本語学習の目的について、両群とも「日本研究や日本への関心」が最も高かった。

[9] クロス集計とは、1 つの質的変数の単純集計を別の質的変数のカテゴリーごとに分割した 2 次元の集計表（クロス表）を作成することである。クロス表は、1 次元であった度数分布表を 2 次元に分割しているので、分割表とも呼ばれる（寺島・廣瀬(2015)『SPSS によるデータ分析』p.31）。

	呉（2006） ・ 韓国	・韓国人大学生の日本人ステレオタイプに関する質的研究 ・大学に在籍する 17 名（日本語専攻者 6 名、非日本語専攻者 6 名、非日本語学習者 5 名） ・半構造化面接法、PAC 分析[10]（自由連想、被験者による解釈） ・日本人に対するステレオタイプとして「独自的」、「二面的」、「用意周到的」、「利己的」、「性に開放的」、「配慮的」が見られる。
	齊藤（2008） ・ 韓国 ソウル市、 春川市	・韓国の大学生の日本、日本語に対するイメージ ・2 校の大学に在籍する 412 名（日本語関連学科学生 139 名、教養日本語学生 141 名、理工系 132 名） ・日本・日本人・日本語に対するイメージの調査 「とてもよい」、「よい」、「特に他の国と変わらない」、「悪い」、「かなり悪い」という観点から人数と割合を分析 ・親しい日本人がいると回答した学生の方が、日本・日本人・日本語に対して「よいイメージ」を持っている。
	呉（2008a） ・ 韓国 ソウル市、 大田市、 釜山市	・日本語学習者の日本人イメージにみられる特徴とその形成要因 ・3 校の大学に在籍する 527 名（日本語学習者 368 名、非日本語学習者 159 名） ・記述内容のカテゴリー化、カイ 2 乗検定 ・日本人イメージについて、「二面的・本心がわからない」が最も高かった。日本人イメージの形成要因について、学習者は「日本のドラマ」、非学習者は「韓国テレビのニュース、時事番組」が最も高かった。

[10] 呉（2006）では、PAC（Personal Attitude Construct 個人別態度構造）分析とは、当該テーマに関するインフォーマントの自由連想項目をクラスター分析にかけてカテゴリー化し、インフォーマントによるカテゴリーの解釈に基づいて個人の態度やイメージの構造を分析する方法である（内藤，1997）と定義している。

	呉（2008b） ・ 韓国 ソウル市、 大田市、 釜山市	・日本人イメージの形成に対する直接経験の影響 ・3 校の大学に在籍する 527 名（日本語専攻 31.6%、文系 35.9%、非文系《理・工・医学部など》32.6%） ・カイ 2 乗検定 ・日本人・日本人教師・日本人友人・滞日の（接触）経験による日本人イメージについて、経験者と未経験者の両方「二面的、本心がわからない」が最も高く、次に「親切、やさしい」であった。
	加賀美・守谷・岩井・朴・沈（2008） ・ 韓国のある地方都市	・韓国における小・中・高・大学生の日本イメージの形成過程―「9 分割統合絵画法」による分析から ・韓国在住の小・中・高・大学生 430 名（小学校 3 年 105 名、中学校 2 年生 105 名、高等学校 2 年生 113 名、大学 3 年生・4 年生 107 名） ・「9 分割統合絵画法」として、日本イメージについて思い浮かぶままに 1 から 9 まで描く。KJ 法[11]を用いて小・中・高・大学生別にカテゴリー化して分析、カイ 2 乗検定 ・肯定的イメージは、「日本の大衆文化」「先進国」「秩序・親近感」、否定的イメージは、「戦争・植民地支配」「歴史認識・領土問題」「反日感情」、中立的イメージは、「自然環境」「生活環境」「伝統文化」「日本の象徴」「日韓の接点」「スポーツ」であった。
	岩井・朴・加賀美・守谷（2008） ・ 韓国	・韓国「国史」教科書の日本像と韓国人学生の日本イメージ ・韓国の「国史」教科書のレビューと先行研究の結果を合わせ検討 ・国史教科書では、日本は「侵略者」「文化後進国」であり、韓国の学生の日本に対するイメージでは「肯定的」「否定的」「中立の混在」「過去と現在の混在」が見られた。

[11] 加賀美・守谷・岩井（2014）によると、KJ 法とは自由記述やインタビュー等から得た多くのデータを既成概念にとらわれることなく分類し、検討するのに有効な方法である（川喜田，1967）。分析手順としては、抽出されたデータを言及された内容の本質に基づいて単位化して「見出し」をつけ、それらの内容の類似性・関連性により相互の親近性を見出し、グループ化したうえで「表札」をつける。

	南（2009） ・ 韓国 牙山市	・韓国人大学生の日本及び日本人に対する認識 ・大学に在籍する日本語学習者 412 名、非日本語学習者 557 名 ・回答内容の頻度と割合の分析 ・日本語学習者を対象とした調査の結果では、日本語を学ぶ目的としては「日本語に興味があるから」が最も多く、両群を対象とした日本人イメージについては「本音と建前を使い分ける」、日本人に対する好感度では「好き」、日本に対する関心度では「ある」が最も高かった。
	加賀美・朴・守谷・岩井（2010） ・ 韓国のある地方都市	・韓国における小学生・中学生・高校生・大学生の日本イメージの形成過程：日本への関心度と知識と関連から ・小学生・中学生・高校生・大学生の 430 名 （小学生 105 名、中学生 105 名、高校生 113 名、大学生 107 名） ・因子分析（日本イメージ 19 項目、日本に対する関心度 17 項目、日本に関する知識 12 項目）、重回帰分析 ・日本イメージは 4 つの因子「親和性」「集団主義的先進性」「開放性」「強さ」、日本に対する関心度は 3 つの因子「日本との積極的接触」「国際社会問題」「日本文化」、日本に関する知識は 3 つの因子「一般的知識」「社会的関心に基づく知識」「個人的関心に基づく知識」が抽出された。
	大江（2012） ・ 韓国 ソウル市、 日本東京	・韓国人日本語学習者の対日イメージ ・韓国在住の韓国人大学生日本語学習者 97 名、日本在住の日本語学校の韓国人日本語学習者及び大学の留学生 65 名 ・日本及び日本人のイメージ 40 項目、理由・情報源 21 項目、異文化適応度 15 項目について、割合を分析 ・日本語学習開始前の対日イメージは「植民地支配」、開始後には「二面的」が最も多かった。情報源としては、開始前は「韓国のテレビ・新聞」、開始後には「日本語の授業・日本関連授業」が最も多かった。また、日本語上級者は初・中級者に比べ、「日本人の考え方・態度が好きではない」と「イライラすることが多い」という割合が高いことから、異文化適応度が低い。

	加賀美・守谷・岩井（2014） ・ 韓国 ソウル市	・韓国における 20 代の日本語上級話者の日本イメージ ・20 代の日本語上級話者 14 名（大学生 10 名、社会人 4 名） ・心理学の手法 20 答法「私は日本を____と思います」、1 対 1 の面接調査にいて、KJ 法を用いて分析 ・日本に対するイメージとして、肯定的は 9 つのカテゴリー「大衆文化の豊かさ」「日本社会・日本人気質への好意的理解」「経済・産業の発展」「多様性受容」「社会的環境整備」「日本への親近感」「世界からの期待・国際的存在感」「伝統の継承重視」「食文化の豊かさ」、否定的は 6 つのカテゴリー「歴史・政治」「地震・放射能」「人間関係困難」「現在社会事情」「日本社会・日本人気質への違和感」「経済の衰退」、中立的は 1 つのカテゴリー「地理・自然環境」、不詳 1 つが抽出された。
	上田・瀧口・永野・山田（2014） ・ 韓国 大邱市	・韓国における日本語専攻者の日本語学習意識 ・大学に在籍する日本語関連専攻者 38 名 ・アンケート調査 17 項目、各項目に対する人数を分析 ・日本語に関心を持った契機は「日本に興味があった」、理由としては「日本語が好きで」、日本語学習で最も難しい/簡単な項目については「文法/聞き取り」が最も多かった。日本語学習による生活の変化については「日本大衆文化に以前より接するようになった」であり、日本語授業に期待することについては「会話力の向上」が最も多かった。また、韓国で必要性を感じる外国語については「英語」、「中国語」であり、韓国で必要性を感じる資格については「IT 関連」が最も多かった。
	金（2016） ・ 日本 東京都	・日本の韓国人留学生受入れ促進戦略への提言：対日イメージと韓国の大学をめぐる現状に焦点を当てて ・大学に在籍する韓国人留学生 10 名 ・インタビュー調査（1 名あたり 1 時間～1 時間半）を行い、内容についてカテゴリー化して分析 ・「日本」、「日本人」、「日本の大学」、「日本留学」、「その他（3.11・放射能、留学生政策）という 5 つのカテゴリーが生成

韓国人以外の日本語学習者	見城・三村（2010） ・ 中国 安徽省、 湖南省、 湖北省、 上海市、	・現代中国における大学生の「日本」イメージ ・大学に在籍する 1452 名（日本語専攻生 571 名、日本語学習生 555 名、日本語非学習生 326 名） ・11 カテゴリーに対する人数と割合を分析 ・日本イメージについて、「現代日本文化」が最も高く、続いて「歴史認識」、「自然環境」、「現代日本社会」、「伝統文化」などの順であった。
	喬（2014） ・ 中国 上海市	・中国の日本語教育と大学日本語専攻生の対日認識の形成に関する研究 ・大学に在籍する日本語専攻者 12 名 ・半構造化インタビュー[12]（1 名 2 回）、M-GTA[13]（木下 2003,2007） ・対日認識形成の理論的ストーリーラインとして、①対日イメージの先入観（反日、親日）②「日本語学習態度」③均質かつ画一化された「日本文化観」④日本語学習における対日イメージの生成

[12] 喬（2014）によると、半構造化インタビューとは一定の質問に従い、面接を進めながら、被調査者の状況や回答に応じて面接者が何らかの反応を示したり、質問の順序や内容を臨機応変に変えたりすることのできる面接法である（保坂他，2002）と定義されている。

[13] M-GTA とは、グレイザーとシュトラウスによって提唱された GTA（Grounded Theory Approach/グラウンデッドセオリーアプローチ）を「木下」が修正（Modified）を施した分析手法である。まず、研究者（観察者）の問いを明らかにした上で、インタビューや観察を行い、その結果を書き起こしたテキストを分析し、最終的にデータに立脚した（データにグラウンデッドな）仮説や理論を構築する。テキスト分析のプロセスでは、研究者は研究者の注意を引くキーワードやキーセンテンスをコード化し、データ化する。そして、データを構造化し、概念やカテゴリーなどの関係を捉え、暫定的なモデルを構築する分析方法である（喬, 2014：142）。

	田中・岡村・ 加賀美（2015） ・ 日本 東京都、 東京近郊	・日本における台湾出身者の日本イメージ ・日本に在留する台湾人 12 名（交換留学生（学部生）3 名、大学院生 5 名、社会人 4 名） ・面接調査、自由記述 20 答法、KJ 法 ・「肯定的なイメージ」について、学部生 61%、大学院生 44%、社会人 35%、「否定的イメージ」は学部生 30%、大学院生 47%、社会人 56%、「中立的イメージ」は 学部生 7%、大学院生 6%、社会人 4%が見られた。

表 3 には、韓国人学習者を対象とした日本及び日本人のイメージに対する主な研究を示した。岩男・萩原（1982）では、韓国の大学生は日本についての知識は豊かであるが、好意的な評価はしていない。そして、日本に関する豊富な知識を持っているほど日本に対して否定的な評価をする傾向があり、きわめて批判的である。韓国人学習者の日本人イメージについて、呉（2008a）では「二面的、本心がわからない」（5 割）が最も高かった。また、大江（2012）では、韓国在住学習者の日本語学習開始後と日本在住の韓国人学習者の来日後のイメージについて両群とも「二面的」が最も高く、特に韓国人学習者の来日後には日本人に対する否定的イメージが増加し好感度は減少していた。一方、齊藤（2004）では、日本語を学習している学生は、学習していない学生に比べ、日本と日本人に対して良いイメージを持っており、学習期間が長くなるほどイメージは比較的よくなる傾向が見られ、前述した否定的な評価やイメージの結果とは異なる。また、中川・神谷・李（2006）では、日本及び日本人に対するイメージについて、専攻者は「経済大国」、非専攻者は「緻密な計画性」が最も高く、次に「高品質の製品」、「礼儀正しい」、「勤勉、働き者」などであり、肯定的なイメージを持っていた。加えて、南（2009）によると、日本人に対する好感度について「好き」（34.4%）、日本に対する関心度については「ある」（60.5%）が最も多かった。

そして、日本イメージについて大学生のみならず、小・中・高も含めて調査している加賀美・守谷・岩井・朴・沈（2008）では、小学生の場合は「日本の大衆文化」、中学生は「生活環境」、高校生は「歴史認識・領土問題」、大学生は「歴史認識・領土問題」のイメージが最も多かった。また、肯定的イメージは大学生、否定的イメージは中学生、中立イメージは高校生が最も多く、特に否定的イメージが強調されやすいのは「過去の

植民地支配」と「政治関係」、「学校教育」などで、中学校 2 年生で最も強くなり、小学生 3 年生から形成されることが分かった。加えて、岩井・朴・加賀美・守谷（2008）の韓国の国史教科書に現れる日本に関する記述分析の結果では、日本のイメージは「侵略者」と「文化後進国」であり、否定的な日本のイメージと国史教科書の日本像には「侵略者」という点で近似性があることが明確にされた。そして、加賀美・朴・守谷・岩井（2010）では、小学生から大学生までで、学年が上がるほど「日本や国際社会問題」に関心を持つ傾向が見られた。「日本イメージと日本に対する関心度との関連」については、日本イメージの「親和性」は関心度の「日本との積極的接触」と「日本文化」に、「集団主義的先進性」は「日本との積極的接触」と「国際社会問題」に、「開放性」は「日本との積極的接触」に正の影響を与えていた。また、日本との積極的接触や日本文化に関心があるほど「親和的」という日本のイメージが形成され、「一般的知識」を持っていれば「集団主義的先進性」というイメージを持ちやすく、「親和性」イメージは持ちにくいことが明らかになった。

以上を踏まえ、韓国人学習者が持つ日本及び日本人に対するイメージの形成要因についてまとめる。呉（2008a）では、学習者の場合は「日本のドラマ」が最も高く、次に「日本の漫画、アニメ」、「中、高校の学校教育」などの順であり、学習者間でも「日本語能力の高い学習者は低い学習者より、日本人に対して対人関係のあり方に関する認識をもちやすく、国家イメージから派生した認識をもちにくい」ことが明らかになった。齊藤（2004）では、「日本映画、アニメ」が最も高く、続いて「日本製品」、「過去の韓日関係」、「両国間の領土問題」などが高く、専攻分野の日本語関連学科に所属している学生、教養日本語学生、理工系の学生の順に日本語に対して肯定的なイメージを持っていた。大江（2012）では、韓国在住の日本語学習者の日本の国家・社会に対するイメージの形成は、学習開始の前は「韓国のテレビ放送・新聞」が最も高く、次に「中・高校の学校教育」であり、学習開始の後は「日本語の授業・日本関連授業」が最も高く、次に「日本のドラマ・映画・漫画・アニメ」であった。

他方、非韓国人学習者の対日イメージについては、田中・岡村・加賀美（2015）では、台湾人の日本に対する肯定的イメージについて、学部生（61%）が最も多く、大学院生（44%）、社会人（35%）の順、否定的イメージは社会人（56%）が最も多く、 大学院生（47%）、学部生（30%）の順、中立的イメージは学部生（7%）、大学院生（6%）、社会人（4%）の順であった。分類されたカテゴリーで見ると、学部生は「日本社会・日本人気質への好意的理解」と「経済・産業の発展」が最も多く、大学院生は肯定的イ

メージでは「日本社会・日本人気質への好意的理解」、否定的イメージでは「日本社会・日本人気質への違和感」が最も多かった。社会人は、「日本社会・日本人気質への違和感」という否定的イメージが圧倒的に多く、大学院生よりも肯定的イメージが減少し、否定的イメージを多く持っていた。

以上の先行研究の概観から、韓国人学習者は日本及び日本人に対して肯定的と否定的の両方を持っていることがわかる。特に、日本に対して知識を持つ学習者や日本語学習期間が長い学習者は、否定的なイメージ、あるいは肯定的なイメージへ変化する両方の場合があった。また、日本及び日本人のイメージの形成要因としては、日本のドラマ、漫画、映画、アニメが多く、続いて韓日関係、両国間の領土問題、中・高校の学校教育、日本製品などが多かった。

このような日本及び日本人の肯定的なイメージや否定的なイメージは、日本語学習を開始するにあたり、どのような影響を与えるのだろうか。また、2011 年以降の日本及び日本人のイメージは、先行研究の結果と同様であるのかを検討する必要がある。

2.3　日本語学習者の日本語学習動機づけに関する研究

日本語学習動機づけに関する研究について、韓国人日本語学習者と韓国人以外の日本語学習者に分けてまとめる。また、統合的動機づけと道具的動機づけに関する研究では、李（2003）、郭･大北（2001）、郭･全（2006）があり、内発的動機づけと外発的動機づけに関する研究では、縫部・狩野・伊藤（1995）、石塚（2007）、小林（2008）、최（2014）、大西（2014）、山下（2016）、장（2016）が挙げられる。両方に関する研究では田中（2012）がある。

そして、調査方法から見ると、石塚（2007）、朴（2007）では、質的調査としてインタビュー調査が行われ、その以外の研究では量的調査として質問紙調査が行われている。さらに、量的調査に対する分析では、主に因子分析、相関分析、重回帰分析などが行われている。先行研究の概観を次の表 4 に示す。

表 4　日本語学習動機づけに関する研究　　（年度順）

対象者	研究者と調査地域	調査方法と結果
韓国人 日本語 学習者	李（2003） ・ 日本、韓国	・第 2 言語および外国語としての日本語学習者における動機づけの比較 ・日本における日本語学校、外国語専門学校、東京都内の国立大学の日本語科 139 名（JSL《Japanese as a Second Language》）、韓国における外国語学院（語学スクール）、短期大学の日本語科の学習者 164 名（JFL《Japanese as a Foreign Language》） ・因子分析（バリマックス回転）、t 検定、相関分析、一元配置分散分析 ・JFL の学習者は JSL の学習者より動機づけが高かったが、自己効力感を持ちにくい。
	石塚（2007） ・ 韓国 釜山	・韓国人大学生の日本語学習動機と自律性 ・大学に在籍する日本語学習者 84 名（1 年生 21 名、2 年生 20 名、3 年生 22 名、4 年生 21 名）（男性 23 名女性 61 名） ・構造化インタビュー（学習開始時の動機、現在の学習動機、日本語学習の自律性、自己決定の段階性） ・「日本語学習開始時の動機」では「日本関連動機（日本、日本人、日本語、日本文化への興味）」、「現在の学習動機」では「実用関連動機（成績、資格、就職、進学のため）」、「自己決定の段階性」では同一視的調整段階が最も多かった。

	朴（2007） ・ 韓国、 日本	・日本語学習者の社会文化的要因と動機付けについて ・韓国と日本の大学における日本語学習者それぞれ 2 名、韓国における日本語教師として働いている者 1 名（JSL と JFL の両方経験がある者） ・インタビュー調査 ・日本語という言語については、最も易しく接しやすいものとして感じているが、日本という国に対しては漠然とした距離感を持っている。
	田中（2012） ・ 韓国	・韓国人大学生の日本語学習動機づけに関する研究 ・大学に在籍する一般教養課程で日本語を選択した大学生 174 名（男性 69 名、女性 105 名） ・因子分析、重回帰分析、t 検定 ・6 つの因子、統合的動機づけとして「親和志向」「大衆文化」「伝統文化」、内発的動機づけとして「向上志向」「自尊志向」、外発的動機づけとして「誘発志向」が抽出された。
	上田・瀧口・永野・山田（2014） ・ 韓国 大邱	・韓国における日本語専攻者の日本語学習意識 ・大学に在籍する日本語関連専攻者 38 名 ・アンケート調査、質問項目に対する回答の割合の分析 ・日本語に関心を持った契機は「日本に興味があった」、日本語専攻の理由としては「日本語が好きで」、「日本語学習で最も難しい/簡単な項目」については「文法/聞き取り」が最も多かった。「日本語学習による生活の変化」については「日本大衆文化に以前より接するようになった」、「日本語授業に期待すること」については「会話力の向上」が最も多かった。
	최（崔）（2014） ・ 韓国 ソウル	・일본어학습자의 학습동기와 상급학습자에 대한 태도（日本語学習者の学習動機と上級学習者に対する態度） ・大学の日本語通翻訳学に在籍する専攻者 101 名（男性 30 名、女性 71 名） ・要因分析、相関分析

		・3 つの要因「能力と成功のイメージ」、「異国的または、マイナスのイメージ」、「社会経済的イメージ」が抽出された。特に、無動機状態の学習者ほど自己評価の日本語レベルが低かった。
	山下（2016） ・ 韓国	・日本語学習における動機づけと自己調整学習ストラテジーの関係 ・日本語学習者 385 名（高校生 201 名、大学生 184 名） ・因子分析、パス係数 ・動機づけは、4 つの因子「高揚感」「達成感・満足感」「外発的動機づけ」「取り入れ的動機づけ」、自己調整学習ストラテジーは、5 つの因子「意欲調整」「メタ認知調整」「遂行調整」「環境調整」「学習継続調整」が抽出された。 ・動機づけの「達成感・満足感」は、自己調整学習ストラテジーの「意欲調整」「遂行調整」「環境調整」に影響を与えている。
	장（張）（2016） ・ 韓国 京畿道	・初級日本語学習者の学習動機づけ及び動機づけ喪失要因 ・3 校の高等学校に在籍する初級日本語科目を履修している 288 名 ・質問紙調査、t 検定、一元配置分散分析 ・日本語学習に最も大きい影響を与えている要因は「内発的動機づけ」であり、日本語学業成就度が高い生徒ほど日本語学習に対する興味が高い。また、日本語学習動機づけの喪失要因として「日本語に対する否定的な態度」が最も大きなものであることが分かった。

韓国人以外の日本語学習者	縫部・狩野・伊藤（1995） ・ ニュージーランド	・大学生の日本語学習動機に関する国際調査 ・大学に在籍する日本語学科の 1 年生～3 年生 107 名（男性 35 名、女性 72 名） ・因子分析、2 要因分散分析[14] ・6 つの因子「日本理解」「国際意識」「学習への興味」「統合的志向」「誘発的志向」「道具的志向」が抽出された。2 要因分散分析の結果では、第 4 因子「統合的志向」と第 6 因子「道具的志向」について評定値が異なった。
	郭･大北（2001） ・ シンガポール	・シンガポール華人大学生の日本語学習の動機づけについて ・大学の日本研究学科に在籍する 2 年生 125 人（男性 25 名、女性 105 名） ・質問紙調査、因子分析、ステップワイズ回帰分析 ・6 つの因子「自己満足因子」「交流志向因子」「仕事因子」「現在日本あこがれ因子」「伝統文化因子」「語学学習志向因子」が抽出された。ステップワイズ回帰分析の結果は、「語学学習志向因子」、「自己満足因子」、「仕事因子」の順で日本語学習の成績に影響を及ぼしていた。
	郭･全（2006） ・ 中国 ハルビン	・中国人大学生の日本語学習の動機づけについて ・大学に在籍する日本語科 250 名 ・質問紙調査、因子分析、ステップワイズ回帰分析 ・6 つの因子「日本留学志向因子」「語学学習志向因子」「仕事因子」「自己尊重因子」「日本大衆文化因子」「日本理解因子」が抽出された。ステップワイズ回帰分析の結果は、「仕事因子」が日本語学習の成績に影響を及ぼしていた。

[14] 2 要因分散分析では、性別と来日経験の有無の 2 つの要因について、それぞれの評定値の平均に差があるかどうかを判定した（縫部・狩野・伊藤，1995：170）。

	小林（2008） ・ 日本	・日本語学習者のコミュニケーション意欲と学習動機づけの関連 ・大学・大学院 9 校に在籍する留学生 325 名（男性 156 名、女性 169 名、対象者の母語は中国語 160 名、韓国語 63 名、その他 102 名） ・質問紙調査、因子分析、パス解析 ・5 つの因子、内発的動機づけとして「日本語学習への興味」、外発的動機づけとして「現代日本文化への興味」「日本理解志向」「道具的志向」「誘発的志向」が抽出された。
	大西（2014） ・ ウクライナ	・日本語学習者の動機づけに関する縦断的研究 ・大学に在籍する 1 年生～5 年生の日本語専攻者 127 名 ・自由記述、KJ 法、因子分析、回帰分析、相関分析 ・低学年は 3 つの因子「日本語日本文化志向」「将来実用志向」「挑戦志向」、高学年は 3 つの因子「日本語日本文化志向」「キャリア志向」「語学学習志向」が抽出され、低学年と高学年では動機づけの構造が異なる。

表 4 の韓国人学習者の日本語学習動機づけについて先行研究を概観する。まず、「自己決定理論」に基づいている研究として、石塚（2007）、田中（2012）、최（2014）、山下（2016）などが挙げられる。최（2014）では、日本語学習の必要性を感じられない学習者ほど内発的な動機づけが少なく、日本語が自己啓発や成長に役に立つと考える学習者ほど内発的に動機づけられることが明らかになった。「外的調整」（周りからの期待感、卒業や就職のため）と「取入れ的調整」（外国語ができないと劣等感（自己否定感）をもつから）、「外的調整」と「同一視的調整」（自己啓発や成長につながるという動機）の間に有意な正の相関が認められた。特に、無動機と内発的動機づけ（自己満足のため）の間には負の相関が認められ、同一視的調整と内発的動機づけの間に正の相関が認められた。さらに、無動機状態の学習者ほど「自己評価した日本語レベル」、上級日本語話者への「能力と成功のイメージ」が低かったが、これは、上級日本語話者を自分と掛け離れた存在として捉えているからであると見られる。したがって、上級日本語話者の学習方法や失敗経験などを初中級者と共有し、それが動機づけにつながるようにする日本

語教師の役割の必要性が示唆された。山下（2016）では、日本語学習動機づけと自己調整学習ストラテジーの関係について調査を行った。動機づけは Deci and Ryan（2002）の自己決定理論の枠組みを使用し、18 項目を 7 段階尺度で評価し、自己調整学習ストラテジーは Dörnyei（2001）の自己動機づけストラテジーを使用し、20 項目を 5 段階尺度で行った。その結果、動機づけの因子「達成感・満足感」は、自己調整学習ストラテジーの「意欲調整」「遂行調整」「環境調整」に影響を与えていることが明らかになった。これは、韓国人学習者は「達成感・満足感」に学習を動機づけ、日本語学習を継続させることを示唆している。田中（2012）では、内発的・外発的動機づけと統合的・道具的動機づけの両方を用いている。まず、因子分析の結果では、統合的動機づけとして「親和志向」、「大衆文化」、「伝統文化」、内発的動機づけとして「向上志向」、「自尊志向」、外発的動機づけとして「誘発志向」という 6 つの因子が抽出された。ステップワイズ回帰分析による因子と学習成績との関係を見ると、「自尊志向」、「親和志向」の順で学習成績に影響が見られた。また、成績上位群は内発的・外発的動機づけ、成績中位群は統合的・道具的動機づけを持っている学習者が多い傾向が見られた。さらに、学習を継続している学習者は、外発的動機づけが自律的なものに変化しており、統合的志向を合わせ持っている学習者ほど学習を継続していることがわかった。このことから、自己決定理論を基盤とした内発的動機づけを高めるためには、日本語教師は学習者の動機づけ段階の把握や、能力、情意面への配慮が大切であることが指摘されている。

そして、장（2016）では、以上のような大学生ではなく、日本語を第二外国語として選択している高校生を対象として調査を行った。その結果、日本語学習に最も影響を与えている要因は「内発的動機づけ」であり、日本語の成績が高い学習者は低い学習者に比べ、日本語学習自体に対する興味が高かった。具体的な内発的動機づけのアンケート項目について「私は日本語という言語を学びたいという好奇心（日本語としては違和感がありますが）がある」と「新しい能力をもつという感じである」、外発的動機づけの項目では「日本語能力が高くなると今後進学や就職に役に立つと思う」と「成績のために日本語学習をする」が最も高かった。また、学習動機づけの最も大きい喪失要因は、「日本語に対する否定的な態度」であり、続いて教室状況、授業教材などという「不適切な学習環境」、内的要因の一つである「自信の不足」であった。項目を見ると「教室外で日本語を使う機会が不足している」が学習動機づけの喪失要因として最も大きかった。

一方、日本の大学・大学院における留学生（韓国人含む）を対象とした小林（2008）

では、自己決定理論に基づき分析を行った結果、内発的動機づけとして「日本語学習への興味」、外発的動機づけとして「現代日本文化への興味」、「日本理解志向」、「道具的志向」、「誘発的志向」という 5 の因子が抽出された。その外発的動機づけのうち、「『日本理解志向』は内発動機づけに近く、自己決定性の高い外発的動機づけである可能性がある一方、『道具的志向』は内発的動機づけに遠く、自己決定性の低い外発的動機づけである」（小林，2008：249）と指摘している。

石塚（2007）では、「自己決定の段階性」のうち、同一視的調整段階が最も多く、日本語学習をやらなければならないが、自分で価値を認めて行っている学習者が多かった。また、日本語学習を授業、就職、卒業などとの関係で義務化している反面、その学習が自分にとって必要・価値があるものとして捉えていることが分かった。つまり、学習者は動機づけの段階的な差はあるものの、日本語学習への価値を自分なりに見出していることを明らかにしている。「日本語学習開始時の動機」では、日本関連動機（日本、日本人、日本語、日本文化への興味）」が最も多く、これは南（2009）の「日本語を学ぶ目的」として「日本語に興味があるから」が最も多かった結果とも一致する。続いて、対人関係関連動機（他人からの勧誘、友人が上手でうらやましかった）が多く、この 2 つとも 3 年生が占める割合が最も大きかった。「現在の学習動機」では、実用関連動機（成績、資格、就職、進学のため）が最も多く、続いて充実動機（日本語が楽しいから）、義務・責任関連動機（始めてしまったから、専攻だから）の順であった。上田・瀧口・永野・山田（2014）では、「日本語に関心を持った契機」について「日本に興味があった」が最も多く、続いて「進学」・「アニメ・ドラマ」、「第 2・3 外国語の習得」・「J-POP」の順であった。「日本語専攻の理由」としては「日本語が好きで」が最も多く、次に「日本留学」・「韓国一流企業への就職」・「日本の大衆文化が好きで」であった。この点は、中川・神谷・李（2006）の日本語学習の目的として、専攻者と非専攻者の両群とも「日本研究や日本への関心」が最も高く、次に「留学や就職に有利」という結果と合致している。しかしながら、就職については、「日本語を学ぶ目的」として「就職のため」はわずか約 1 割程度で少なかった南（2009）の結果とは大きく異なる。続いて、朴（2007）では、「日本語選択の動機づけ」に関して、「日本アニメや J - POP などの大衆文化への関心」が多く、これは「韓国語の翻訳ではなく日本語で読みたい」、「日本語を直接味わいたいという欲求」であることが分かった。また、韓国人学習者は、日本語という言語には「最も易しく接しやすいもの」として親密さを感じているが、日本という国については距離感を持ったまま日本語を選択していることが分かった。上田・瀧口・永野・山

田（2014）では、「日本語学習による生活の変化」について、「日本大衆文化に以前より接するようになった」が最も多く、次に「海外に大いに関心を持つようになった」、「日本人の友達ができた」の順であった。「日本語授業に期待すること」については「会話力の向上」が最も多く、続いて「日本人との交流」、「文法能力の向上」、「資格習得」の順であった。「日本語ネイティブ教員に期待すること」については、「日本の様々な情報提供」が最も多かった。

さらに、JSL 環境と JFL 環境にある学習者を比較した先行研究として、李（2003）では、動機づけの因子分析の結果、第 1 因子として「統合的動機づけ」、第 2 因子として「道具的動機づけ」が抽出され、JSL の学習者は統合的動機づけが高く、JFL の学習者は道具的動機づけが高いことが明らかになった。つまり、JFL の学習者は日本語を実生活において役に立たせたいという功利的な価値を学習目的としており、JSL の学習者より道具的動機づけが高い一方、自己効力感を持ちにくいことが指摘された。そして JFL 環境における学習者に関して、「習得に長い年月を要する外国語学習にとって、動機づけはきわめて重要な要因である」（李，2003：75）と強調している。また、滞在期間が長ければ長いほど日本の社会へ同化され、目標言語集団への同化を目的とする統合的動機づけも低くなっている。

他方、非韓国人学習者の調査では、縫部・狩野・伊藤（1995）が、ニュージーランドの大学に在籍する日本語学科の学生を対象とした調査の回答について因子分析を行った結果、動機づけを「外発的動機（統合的動機《統合的志向》）」、「道具的動機（道具的志向）」、「誘発的動機（誘発的志向）」と「内発的動機（好奇心《日本理解》、関心《日本語学習への興味》、仲間との相互作用《国際意識》、モデルとの同一視《不明》）」に分類した。「統合的志向」は滞日経験がある方や学習期間が長い方が高く、「道具的志向」は学習期間によって異なり、学習期間の長い方が高いことが明らかになった。大西（2014）では、ウクライナの大学に在籍する日本語専攻者に調査を行った結果、低学年は「日本語日本文化志向」、「将来実用志向」、「挑戦志向」、高学年は「日本語日本文化志向」、「キャリア志向」、「語学学習志向」で因子構造が異なった。また、低学年の「将来実用志向」と高学年の「キャリア志向」の下位項目を見ると、「日本語ができると給料が高くて良い仕事が見つかりやすくなる」、「日本語は見込みのある言語だ」があり、現在日本語の影響力が弱い韓国社会の環境とは大きい差が見られる。

郭･大北（2001）では、シンガポールの大学に在籍する日本研究学科の学生を対象として調査した結果、「統合的動機づけ」として「交流志向因子」、「現在日本あこがれ因

子」、「伝統文化因子」、「道具的動機づけ」として「仕事因子」、「エリート主義」として「自己満足因子」、「語学学習志向因子」に分類している。「動機づけと学習成果との関係」については、エリート主義の「語学学習志向因子」、「自己満足因子」、道具的動機づけの「仕事因子」の順で日本語学習の成績に影響を及ぼしていることが明らかになった。また、郭・全（2006）では、中国の大学に在籍する日本語科の学生を対象として調査を行った結果、「統合的動機づけ」として「日本留学志向因子」、「日本大衆文化因子」、「日本理解因子」、「道具的動機づけ」として「仕事因子」、「エリート主義」として「語学学習志向因子」、「自己尊重因子」に分類できた。「動機づけと学習成果との関係」については、「仕事因子」が日本語学習の成績に影響を及ぼしていることが明らかになった。これに対して、田中（2012）では、韓国人学習者の「成績に与える動機づけの要因」について、「自尊志向」という「自分の能力を積極的に評価する態度」や日本人との「親和志向」が正の影響を及ぼしていることを指摘している。

以上の先行研究では、動機づけと日本及び日本人に対する肯定的な面との関連性に注目しているものがほとんどであると言える。

2.4　先行研究の成果と問題点

先行研究を概観した結果、以下のような成果がもたらされている。これまでの対日イメージの研究によって、日韓両国関係の面で、日本語学習によって相互理解の促進や、日本及び日本人に対する文化の理解などが進んできたということが明らかとなっている。また、韓国では学習動機づけにおける研究は少ないながらも、韓国人大学生を対象とした研究を行うことにより、韓国人学習者が持つ日本語学習動機づけが少しずつ明確となっている。

対日イメージと日本語学習動機づけとの関連に焦点を当てた研究では、纓坂・奥山（2001，2003）、纓坂・内藤・泉・奥山（2008）、齊藤（2016）が挙げられる。結果から見ると、特に日本及び日本人のイメージの「信頼性」、「親和性」、「誠実性」などの肯定的なイメージが日本語学習動機づけと関連性が見られた。このように、従来の対日イメージと学習動機づけの研究は、当該国への肯定的なイメージとの関連性を指摘するものがほとんどであり、否定的イメージとの関連性についての具体的解明は進んでいない。

2011 年以降の韓国人学習者の否定的な対日イメージについては、日本語学習動機づけとの関連に焦点を当てた研究はまだ少なく、特に日本語学習者減少をとりあげた研究はほとんど見当たらない。そのため、2011 年以降の日本語学習者減少期について、対

日イメージと学習動機づけの関連を探ることは非常に重要であると思われる。加賀美・守谷・岩井（2014）では、「地震・放射能」は 3.11 後に生じたイメージとして現在でもそれらが大きな影響力を持っていることを明らかにしている。したがって、地震・放射能などの否定的なイメージと日本語学習との関連性、また日本語学習に与える影響などについて明らかにする必要があると思われる。

また、日本語学習動機づけについては、李（2003）は JFL 環境における日本語学習者は「習得に長い年月を要する外国語学習にとって、動機づけはきわめて重要な要因である」と述べている。したがって、JFL 環境における韓国人学習者にとって重要な学習動機づけが、2011 年以降どのような影響を受けているのか、それは対日イメージとどのような関連があるのかは、韓国人学習者減少の実態を明らかにする上で極めて重要である。

他方、日本語学習動機づけに対する研究のうち、石塚（2007）では、JFL 環境の日本語学習者の日本語学習開始・継続の理由については明らかにしているが、日本語学習を将来にどう活かしたいかという最終的な動機づけには言及されておらず、学習開始・継続・将来についての学習動機づけ 3 つを統合として全体的に分析している研究はほとんど見当たらない。

以上の先行研究の概観を踏まえ、第 3 章では本研究の課題と方法について述べていく。

第 3 章　本研究における課題と方法

本章では、第 2 章において概観した先行研究とその成果及び問題点を踏まえ、本研究の課題を述べ、続いて研究方法について述べる。そして次に、本調査を行うに先立ち予備的に行った調査について述べ、続いて本調査の概要（調査時期、調査対象者、質問紙の作成、データの収集、得られたデータの分析方法《統計処理、自由記述のカテゴリー化など》）について述べる。

3.1　本研究の課題

前章で述べた先行研究の問題点を踏まえ、本研究の課題を設定する。

まず、韓国人学習者が持つ日本及び日本人に対するイメージと、そのイメージの影響要因について明らかにする。次に、韓国人学習者が持つ日本語学習動機づけについて明らかにする。最後に、以上の 2 つの結果を基にし、韓国という JFL 環境における日本語学習の阻害要因となると考えられる「否定的な対日イメージが日本語学習動機づけに与える影響」について明らかにする。本研究の課題は以下に示す。

課題 1.　韓国人日本語学習者が持つ対日イメージとその影響要因は何か。（第 5 章）
課題 2.　韓国人日本語学習者が持つ日本語学習動機づけは何か。（第 6 章）
課題 3.　否定的な対日イメージが日本語学習動機づけに与える影響は何か。（第 7 章）

3.2　研究方法

2011 年以降、韓国人学習者や専攻者などが減少している事実に焦点を当て、まずその減少要因について検討することを目的として、質的調査と量的調査を行った。質的調査として、2015 年の日本の大学に在籍する韓国人留学生を対象としてインタビューを実施し、量的調査としては 2017 年から 2018 年にかけて韓国の大学に在籍する日本語学習者（専攻者と非専攻者）を対象として質問紙調査を行った。質問紙の配布や回収などについては、各大学の日本語教員と相談した上で実施した。以上の手続きを経て実施した質問紙調査を統計的に処理するため、課題 1 及び課題 2 については因子分析、t 検定、カイ 2 乗検定を行う。その上で、課題 3 の「否定的な対日イメージが日本語学習動機づけに与える影響」については相関分析と重回帰分析を行う（具体的な調査の概要については、次の 3.4 に示す）。加えて、質的調査として自由記述式も加え、回答をカテゴリー化し分析する。最後に、否定的な対日イメージと日本語学習動機づけの関係に関

するモデルを示す。

3.3　予備的調査

本調査を行うに先立ち、上述した研究の課題に対してまず予備的調査を行う。調査の概要、調査結果などについて述べ、この結果を基に、本調査で改善すべき点について述べていく。

3.3.1　予備的調査の概要

2017 年 5 月下旬、韓国の釜山にある釜慶大学において、日本語学習者 50 名（20 代の日本語・日本関連専攻者）を対象に対日イメージと日本語学習動機づけについて、質問紙調査を行った。質問紙は授業の際に担当教師が配布し、その場で回収した。その結果、日本及び日本人のイメージについては記入漏れがないが、日本語学習動機づけについて 3 名の記入漏れがあり、有効回答は 47 であった。対象者の日本語レベル（初級・中級・上級）については、休みの期間を除く日本語学習期間及びレベルの自己申告をもとにすると、初級 32 名（64%）、中級 13 名（26%）、上級 5 名（10%）であった。また性別は、女性 37 名（74%）、男性 13 名（26%）であった。

質問紙の作成は、日本及び日本人イメージについては呉（2008a,b）、大江（2012）、加賀美・守谷・岩井（2014）、金（2016）などを、日本語学習動機づけについては縫部・狩野・伊藤（1995）、田中（2012）、大西（2014）などを参考にして作成した。質問項目は、「日本イメージ」19 項目、「日本人イメージ」16 項目、「日本語学習動機づけ」36 項目である。

分析方法については、SPSS 24 を用いて日本及び日本人のイメージ、日本語学習動機づけについてそれぞれ因子分析[15]（主因子法、プロマックス回転）を行い、その際、因

[15] 因子分析とは、複数の変数間の関係から変数の共通性や独立性を推定する統計手法であり、観測された複数のデータの背後に共通要因が潜在しているとするものである。バリマックス法は、各因子の負荷を拡散させるよう修正するもので、これよりどの因子にも高い負荷がかかっている（つまり解釈しにくい）変数を減らすことができる直交回転を行う手法である。プロマックス法とは、先にバリマックス回転を行ってある程度の単純構造を得た後で、因子負荷をべき乗するなどして単純構造をより強調した因子パターンを作ってターゲット行列（目標行列）に指定し、その目標に近づくよう斜交回転を行わせる手法であり、最近では多くの統計専

子負荷量[16]の絶対値が 0.35 以下の項目は除外することにした。質問項目についてのデータ処理は、「1=全然そう思わない、2=そう思わない、3=どちらともいえない、4=そう思う、5=とてもそう思う」の 5 件法で求めた。そして、因子分析を行った結果をもとにし、日本及び日本人のイメージと日本語学習動機づけとの関連性を検討するため相関分析[17]を行った。この際、前述したように、日本語学習動機づけについて得られたデータは 47 であったため、47 人で分析を行った。また、自由記述（複数回答可）から得た「2011 年以降の韓国人学習者や専攻者などの減少要因」については、それぞれの内容を EXCEL で整理した上でカテゴリー化して分析した。

3.3.2　予備的調査の結果

まず、「2011 年以降の韓国人学習者や専攻者などの減少要因」については、「地震・放射能の問題」、「日韓関係の問題（政治・外交など）」、「中国語志向の影響」がそれぞれ 12 答（22.2%）で最も多かった。また、日本及び日本人のイメージについて、日本イメージでは「好条件」、「不安定」、「信頼性」、「個性的」の 4 つの因子、日本人イメージでは「信頼・興味・関心」、「規範的」、「二面的」の 3 つの因子、日本語学習動機づけについては「統合的」、「内発的」、「道具的」、「外発的」の 4 つの因子が抽出された。そこで、因子名を命名する際、特に「統合的」と「内発的」、「道具的」と「外発的」の下位項目の中に類似している項目が見られたため、本調査ではこのような判別が困難になる項目について再検討する必要性が認められた。

そして、日本及び日本人のイメージと日本語学習動機づけの関連性については、上述した 2011 年以降の韓国人学習者や専攻者などの減少要因について、最も多かった回答

門家が斜交回転を推奨している（石川・前田・山崎（編）(2010)『言語研究のための統計入門』p.219, p.229）。

[16] 因子負荷量とは、共通因子が観測変数に与える影響の「重み」、すなわち「因子にかかる負荷の量」である（石川・前田・山崎（編）(2010)『言語研究のための統計入門』p.221）。

[17] 相関分析とは、複数の変数がどの程度の強さで相互に関係しているか、つまり、一方が変化すれば他方もそれにつれて変化するという直線的な関係がどの程度の強さで見られるかを調べる統計的分析方法である。相関係数（ｒ）は、相関の強さであり、相関係数が絶対値で 0.2 以下の場合は、「相関なし」、0.2 より大きければ「弱い相関」、0.4 より大きければ「中程度の相関」、0.7 より大きければ「強い相関」があるとされる（石川・前田・山崎（編）(2010)『言語研究のための統計入門』pp.85-86）。

は「地震・放射能の問題」であったにも拘らず、その日本イメージの「不安定」は日本語学習動機づけと相関が見られなかった。また、日本人イメージでは「信頼・興味・関心」が日本語学習動機づけの「内発的」に唯一、相関が見られた程度で、他の因子には相関が見られなかった。この結果を鑑みて、日本及び日本人の肯定的イメージ、すなわち、先行研究に示されたように、対日のプラスイメージのみに相関があるのではないかという疑問が生じた。さらに、日本及び日本人のイメージと日本語学習動機づけには相関が見られはしたものの、その因子の数は少なかった。他方、対象者が日本語・日本関連専攻者であるため、例えば日本語学習を始めた理由として「専攻であるから」などという専攻者の観点からの回答が多く見られた。

以上の結果から、本調査では、調査対象者として日本語関連専攻者のみならず非日本語専攻者（以下、非専攻者）も加え、調査を行う必要性が認められた。

次は、以上の予備的調査の結果を踏まえ、本調査の概要を述べていく。

3.4　本調査の概要

調査の時期は、2017 年 11 月中旬から 2018 年 3 月下旬にかけ、韓国のソウル大学（ソウル市）、ソウル神学大学（富川市）、又松大学（大田市）、忠南大学（大田市）、釜慶大学（釜山市）の 5 校（表 5 参照）において、日本語学習者（専攻者及び非専攻者）361 名を対象に質問紙調査を行った。最終的に記入漏れの多い 6 名を除く、355 名のデータを得た。質問紙の配布については、ソウル大学を除く大学では、日本語教員が授業時間に質問紙を配布し、その場で回収した。一方、ソウル大学の場合は、日本語教員がまず授業で調査についてアナウンスし、回答は期日までにメールで提出する方法を採った。ソウル大学で調査対象となったのは、新設の「アジア言語文明学部の日本言語文明」で、その専攻者は 20 名程度である。そのうち 10 名程度が韓国の徴兵制度に従い軍隊入隊のため休学しているため、最終的に協力を得られたのは 6 名である。新設である学科であるため、近年の対日イメージと日本語学習動機づけについてより明確にできると判断し、少ない数ではあるが、データとして採用することにした。

3.4.1　調査対象者

対象者の属性について、学校別、性別、専攻別、日本語のレベル別に分類したものを、次の表 5、表 6、表 7、表 8 に示す。

まず、表 5 における「学校別」の内訳は、前述したように韓国の大学 5 校である。ま

た、表 6 における「性別」の学校別の内訳は、釜慶大学では男性 56 名、女性 73 名であり、又松大学では男性 69 名、女性 53 名、忠南大学では男性 25 名、女性 36 名、ソウル神学大学では男性 12 名、女性 25 名、ソウル大学では男性 1 名、女性 5 名である。

表 5　学校別

大学名	人数	割合（%）
釜慶大学（釜山市）	129	36.3
又松大学（大田市）	122	34.4
忠南大学（大田市）	61	17.2
ソウル神学大学（富川市）	37	10.4
ソウル大学（ソウル市）	6	1.7
合計	355	100

表 6　性別

性別	人数	割合（%）
男性	162	45.6
女性	193	54.4
合計	355	100

表 7　専攻別

専攻	人数	割合（%）
専攻者	176	49.6
非専攻者	179	50.4
合計	355	100

表 7 における「専攻別」の学校別の内訳は、釜慶大学では専攻者 73 名、非専攻者 56

名であり、又松大学では専攻者 8 名、非専攻者 114 名、忠南大学では専攻者 52 名、非専攻者 9 名、ソウル神学大学では専攻者 37 名、非専攻者 0 名、ソウル大学では専攻者 6 名、非専攻者 0 名である。

表 8　日本語のレベル別

レベル	人数	割合（%）
初級	191	53.8
中級	122	34.4
上級	38	10.7
不明	4	1.1
合計	355	100

表 8 における「日本語のレベル別」の学校別の内訳は、釜慶大学では初級 52 名、中級 61 名、上級 16 名であり、又松大学では 初級 86 名、中級 29 名、上級 7 名、忠南大学では初級 35 名、中級 20 名、上級 4 名、不明 2 名、ソウル神学大学では初級 18 名、中級 12 名、上級 5 名、不明 2 名、ソウル大学では上級 6 名である。

3.4.2　質問紙の作成とデータの収集

調査に当たり、まず調査協力者に対して「ご協力のお願い」を読んでもらった上で、フェイスシートに性別、年齢、専攻（学科、学年）、メールアドレスを記入してもらった。また、日本語学習期間（休んでいた時期を除いた実際の学習期間）を尋ねた上で、日本語レベル（初級・中級・上級）と JLPT（日本語能力試験，Japanese Language Proficiency Test）のレベルを自己申告してもらった。

質問紙の質問項目は、対日イメージについては、金（2016）の回答で出現頻度が多かった「3.11・放射能の問題」、「日韓関係」、「生活環境の良さ」、「就職率が高い」、「親切さ」、「仕事に徹底的」、「二面的（表と裏がある）」、「外国人に対する差別」などを基本に、大江（2012）と加賀美・守谷・岩井（2014）における「日本社会」や「大衆文化」などに関連する項目、呉（2008a,b）における「親切・優しい」、「二面的、本心が分からない」などの日本人イメージに関する項目と対日イメージに与える影響要因の項目を参考にし、肯定的及び否定的イメージなどを偏りなく選定して作成した。日本及び日本

人に対するイメージについてはそれぞれ 20 項目、対日イメージの影響要因については 21 項目を作成した。日本語学習動機づけについては、縫部・狩野・伊藤（1995）、小林（2008）、郭･大北（2001）、郭･全（2006）、纓坂・内藤・泉・奥山（2008）、田中（2012）、大江（2012）、大西（2014）などを参考にし、動機づけに関して 35 項目を作成した。また、本調査に先立ち、2017 年 5 月韓国の釜慶大学において行った予備調査の結果も参考にした。つまり、日本語学習者 50 名の対日イメージや学習動機づけに関して得たデータの因子分析を整理し、自由記述の内容を項目に加えた。

そして、「2011 年以降の韓国人学習者や専攻者などの減少要因」や、「日本及び日本人のイメージは日本語学習を始める時に与える影響」、「日本語学習開始の前と後における日本及び日本人のイメージの変化」、「日本語学習を始めた理由」、「日本語学習を継続している理由」、「日本語学習を将来にどう活かしたいか」については、自由記述（複数回答可）で回答を得た（資料 3 を参照）。

3.4.3　分析方法

本調査で得られたデータは SPSS24 を用いて、対象者全体の分析と、専攻者と非専攻者に分けて比較分析を行う。つまり、対象者全体の因子分析を行った上で、さらに専攻者と非専攻者の比較のため t 検定[18]を行う。日本及び日本人のイメージ、日本語学習動機づけについては、それぞれ因子分析（主因子法、プロマックス法）を行う。この際、因子負荷量の絶対値が 0.35 以下の項目は除外し、再回転した。また、対日イメージと日本語学習動機づけの関連性を検討するため、「日本イメージと日本語学習動機づけ」と「日本人イメージと日本語学習動機づけ」のそれぞれについて相関分析を行い、さらに「日本及び日本人のイメージが日本語学習動機づけに与える影響」を明らかにするため、重回帰分析[19]を行う。質問項目についてのデータ処理は、「1=全然そう思わない、

---

[18] t 検定とは、対象（サンプル）から得られた平均値をもう 1 つの対象の平均値と 1 対 1 で比較する方法である（米川・山崎（2010）『超初心者向け SPSS 統計解析マニュアル統計の基礎から多変量解析まで』p.20）。そこで、「M」は「平均値」、「SD」は「標準偏差」である。

[19] 重回帰分析とは、説明変数が 2 つ以上あり、ある要因を他の要因によって説明・予測する統計分析である。重回帰分析により、独立変数全体での影響の大きさをあらわす重相関係数と他の変数の影響を取り除いたときの独立変数の影響の大きさと向きをあらわす標準偏回帰係数が算出される。他に偏回帰係数と回帰定数が算出される。重回帰分析ではデータに対する予測

2=そう思わない、3=どちらともいえない、4=そう思う、5=とてもそう思う」の 5 件法で求めた。「対日イメージに与える影響要因」については、各項目が占める割合を分析するため、カイ 2 乗検定[20]を用いた。

以上の本研究における課題と方法に基づいて、第 4 章では本研究の課題を解決するに先だち、2011 年以降韓国人学習者や専攻者などが減少している事実から、まずその減少要因について検討していく。

式による予測・説明精度を表す指標として、重相関係数の 2 乗を決定係数とする。各説明変数が非説明変数に及ぼす影響力は、各説明変数の偏回帰係数の大きさにより決まる（纓坂・奥山，2003：193）。回帰分析は、原因となる変数と結果となる変数の間の関係を量的に分析する統計手法である。単に関係の有無や強弱を示すだけではなく、1 つの変数で別の変数を具体的に説明するという点に回帰分析の特徴である。そこで、説明変数が 2 つ以上の場合を重回帰分析と呼ぶ（石川・前田・山崎（編）（2010）『言語研究のための統計入門』pp. 105-106）。

[20] カイ 2 乗（χ^2）分布と呼ばれる理論上の分布に漸近的従う検定統計量（この場合、χ^2）を用いた統計的仮説検定の総称である。クロス集計表についての検定（独立性の検定、chi-square test of independence とも呼ばれる）や適合度検定、（chi-square goodness of fit test）（一様性の検定、chi-square test of homogeneity とも呼ばれる）など種々の検定が含まれる。例えば、日本語学習者の出身国が中国であるかアメリカであるかといったカテゴリーの違いによって、日本留学経験といった現象の有無（頻度）が有意に異なるか否かを考えるとする。カイ 2 乗検定は、このようにカテゴリーの違いという質的変数同士の関係（質的変数の場合は「連関（association）」と呼ぶ）の有意性を統計的に検討する手法である。この例で言えば、「学習者の出身国によって留学経験に違いはない（連関が全くない）」という帰無仮説が検定の対象となる（近藤・小森（編）（2012）『研究社　日本語教育事典』p.319）。

第 4 章　2011 年以降の韓国人日本語学習者や日本語・日本関連専攻者などの減少要因

本章では、本研究の研究課題に対する調査を行うに先立ち、2011 年以降韓国人学習者や専攻者などが減少している事実から、その減少要因について検討する。調査は、JSL 環境と JFL 環境の双方の傾向を探るため、日本と韓国の双方で実施した。まず、2015 年に日本在住韓国人留学生を対象として行ったインタビュー調査「2011 年以降の日本の韓国人留学生の減少原因」について分析する。次に、2017 年から 2018 年にかけての本調査である韓国の大学における韓国人学習者を対象として行った質問紙調査（自由記述式）「2011 年以降の韓国人学習者や専攻者などの減少要因」について分析する。

4.1　2015 年調査における 2011 年以降の日本の韓国人留学生の減少原因

4.1.1　調査の概要

2015 年 5 月から 7 月にかけて東京でインタビュー調査を実施した。対象の地域を東京に設定した理由は、調査時法務省の 2014 年の「在留外国人統計（旧登録外国人統計）統計表」によると、日本の留学生総数 214,525 人のうち、74,332 人（約 35%）が東京であり、韓国人留学生総数 15,765 人のうち、東京が 6,813 人で構成比 43.2%を占め、最も多かったためである。韓国人留学生数の 2011 年以降の急激な変化を探るため、調査対象者は表 9 の対象者の属性で示すように、2011 年以降来日している 20 代の韓国人大学生を中心とした。2011 年直後に来日している者を主な対象者とした理由は、韓国人学習者や専攻者などの減少は 2011 年の 3.11 以降であるという仮定を立て、その対象者は日本への留学や韓国の大学における日本語学習、日本語関連専攻などの状況に詳しいという判断からであった。そして、この際、2011 年前後の状況を比較するため、2011 年以前に来日している韓国人大学生 3 名を調査対象に加えた。

また、大学生を対象とした理由は、留学生数が最も多い教育機関は大学（学部）であることによる。具体的には、表 10 に示すように、2014 年 5 月の日本学生支援機構（JASSO）による『平成 26 年度外国人留学生在籍状況調査結果』での「在学段階別・国公私立別留学生数」では、大学院は 39,979 人であり、大学（学部）は 65,865 人、短期大学は 1,433 人、高等専門学校は 484 人、専修学校（専門課程）は 29,227 人、準備教育課程は 2,197 人、日本語学校などの日本語教育機関では 44,970 人である。

表 9　対象者の属性[21]

対象者	年齢	性別	来日時期	専攻	学年
B さん	23	女	2010.4	福祉学	3 年
K さん	23	女	2010.4	国際政策文化学	4 年
J さん	24	女	2011.1	観光･ビジネス学	4 年
G さん	29	男	2011.4	社会学	4 年
L さん	22	女	2011.7	社会学	3 年
J1 さん	22	女	2012.1	商業・貿易学	3 年
K1 さん	22	女	2012.3	経営学	4 年
C さん	23	女	2013.3	法律学	3 年
J2 さん	22	女	2013.3	国際学	3 年
G1 さん	24	男	2013.4	社会学	3 年

表 10　在学段階別・国公私立別留学生数　（2014 年 5 月統計）

在学段階	国立		公立		私立		計	
	留学生数	構成比	留学生数	構成比	留学生数	構成比	留学生数	構成比
大学（学部）	10,844 人	16.5%	1,755 人	2.7%	53,266 人	80.9%	65,865 人	100.0%
短期大学	0 人	0.0%	13 人	0.9%	1,420 人	99.1%	1,433 人	100.0%
高等専門学校	408 人	84.3%	0 人	0.0%	76 人	15.7%	484 人	100.0%
専修学校（専門課程）	0 人	0.0%	10 人	0.03%	29,217 人	99.97%	29,227 人	100.0%
準備教育課程	0 人	0.0%	0 人	0.0%	2,197 人	100.0%	2,197 人	100.0%
日本語教育機関	0 人	0.0%	0 人	0.0%	44,970 人	100.0%	44,970 人	100.0%
計	35,898 人	19.5%	3,521 人	1.9%	144,736 人	78.6%	184,155 人	100.0%

出典：日本学生支援機構(JASSO)平成 26 年度外国人留学生在籍状況調査結果 p .5 より引用
http://www.jasso.go.jp/statistics/intl_student/documents/data14.pdf（2015 年 11 月 22 日アクセス）

4.1.2　調査方法と分析方法

調査は、質的調査として、1 名 1 時間から 1 時間半程度の半構造化インタビューの形

[21] 「年齢」、「専攻」、「学年」は 2015 年調査時のものである。

式で実施した。質問項目は、「韓国人留学生が減少していることを感じているのか、その減少の理由は何だと思うか」、「日本留学を決めた際、家族や周りの反応はどうだったのか、もし、反対があった場合はどのように解決したのか」、「日本留学のメリットとデメリットは何だと思うか」などである。また、研究者と研究対象者が韓国語母語話者であるため、韓国語でインタビューを行い、内容はすべて録音した。録音データはまず韓国語で文字化した上で、さらに日本語に翻訳した。分析は、得られたインタビューの内容に基づき、表 11 に示すようにカテゴリー化した。

4.1.3　調査の結果

上述したインタビュー調査から得られた調査対象者の回答に対して、4 つのカテゴリーが生成された。具体的な内容は表 11 に示す。

表 11　2011 年以降の日本の韓国人留学生の減少原因

減少要因	回答人数
3.11 や放射能の問題など	10
日本に対する韓国メディア・インターネットでの悪い影響	8
韓国の家族・周囲の日本留学に対する反応	6
日本留学のデメリット	8

表 11 における「2011 年以降の日本の韓国人留学生の減少原因」について、インタビュー調査の具体的な内容を述べる。まず、「3.11 や放射能の問題など」のカテゴリーについて、対象者の 10 名が言及しており、次はその具体的な例である。

B さん　・昔に比べると、近年では韓国人留学生が非常に減少しており、**最も大きな原因は、3.11 や放射能の影響**だと思います。留学生が減少したのは、そのぐらい両国間での交流ができていないという意味だと思います。また、私の場合、3.11 当時韓国へ帰らなかった理由は、まず、東京で 3.11 を経験し、日本と日本人に対してさらに肯定的なイメージを持つようになったこと、日本で大学の入学を準備している状態であったため、韓国へ帰ってしまうともったいな

いと思ったこと、また韓国へ帰ってもすぐにできることがなかったことから、帰らなかったのです。

Kさん　・近年、毎年韓国人留学生の新入生が減少しているようですが、確かに3.11以降大きく減少していると思います。私が3.11当時韓国へ帰らなかった理由は、放射能は怖いけど、アルバイトにも慣れており、学校でも奨学金をもらっていて、また韓国へ帰ってもすぐできることが何もなかったからです。

・また、ワーキングホリデーについての法律が変わった点や、最近韓国では中国への関心が高まっており、中国語学習者や中国への留学者が増えている点だと思います。

・現在若者の数が減少しており、少子化も関連があると思います。

Jさん　・3.11以降、韓国人留学生がほぼ韓国へ帰ってしまい、その後から全体的に韓国人留学生が減少したと思います。しかし私の場合は、3.11の時点で韓国へ帰ると、最終学歴が高校卒業になってしまい、日本語能力も高くないレベルで中途半端になってしまうため、韓国へ帰るのが日本に残るよりもっと怖かったので、帰りませんでした。

G さん　・3.11 後に韓国人留学生が激減している原因としては、放射能の問題もありますが、3.11 以前に持っていた反日感情と 3.11 の事件が相まって日本に対する認識がさらに悪くなったからではないかと思います。

L さん　・3.11 が最も大きな原因で、日本の韓国人留学生が減少していると思いますが、それに加えて韓国人は、日本の方が政治的な面で反韓感情を持っていると思うので、日本へ留学をしない場合もあると思います。

J1 さん　・現在、私の学部では韓国人留学生が全部で 20 人程度しかおらず、特に 3.11 以降に韓国人留学生が激減していることについて先輩から聞き、私も現在それを感じています。

K1さん　・私の学校の場合は、2011年以前には韓国人留学生の新入生が60人以上でしたが、2012年に私が入学した際には20人程度でした。2011年の3.11の影響で日本の大学への進学をやめて、韓国の大学に進学しようとした私の友達も多かったです。

Cさん　・韓国人留学生が減少した最も大きな理由は、放射能の問題と、現在中国が急成長していることで中国留学のメリットが高まっていること、一方、日本留学のメリットはもうなくなったと思っている人が多いからだと思います。

また、韓国では、放射能の影響が非常に大きいと思っているため、日本へ留学する明確な機会がないと、あまり来ないと思います。

J2さん　・日韓関係や政治的な問題などと3.11が相まって日本のイメージがさらに悪くなり、結局、韓国社会で日本語の影響力が弱くなったからだと思います。

G1 さん　・韓国人留学生の減少は、政治的な面での両国の摩擦や 3.11 が大きい要因だと思いますが、特に放射能の場合は、目に見えないため極めて危険だと思います。また、両国の関係が改善できない状態では留学生が増えるのは難しいので、政治問題が改善できれば、それにつれて両国間での交流を通して留学生も増えるのではないかと思います。

以上のように、特に「3.11 や放射能の問題など」の影響は深刻であることがうかがえる。また、3.11 を経験し、当時韓国へ帰らなかった理由としては、すでに日本の生活に慣れており、大学からの奨学金ももらっていること、韓国へ帰ってもすぐに自分でできることが何もないことであった。減少の要因として、さらに日韓関係や反日感情、近年中国への関心が高まり、中国語学習者や中国への韓国人留学者の増加などの様々な要因があった。

次に、「日本に対する韓国メディア・インターネットでの悪い影響」については、対象者の 8 名が言及しており、以下はその具体的な例である。

B さん　・韓国では、現在も放射能についてテレビで報道されており、悪化した認識が良いイメージに戻るのは難しいと思います。

・20 代の女性専用のインターネット上のサイトでは、放射能の心配の声や、Face book でも根拠のない放射能の噂なども流れています。

・韓国のあるお店では、「日本製品、放射能ご注意」と書かれており、「日本は放射能の国」だと認識されていると思います。

K さん　・最近では、3.11 当時に比べると放射能の話が少し減っているが、韓国のインターネットをみると、現在も放射能の影響についての噂が続いています。また、日本留学のメリットがないと、放射能がある国に、わざわざ来ないと思います。

J さん　・韓国では、現在でもメディアやインターネットで放射能の影響について話をしており、特にインターネットをよく利用している韓国人の若者は放射能に

ついての記事を読むと、日本に留学することが確かに難しくなると思います。

L さん　・3.11 が最も大きな原因で日本の韓国人留学生が減少していると思います。特に誇張された韓国メディアの報道が問題だと思います。

J1 さん　・韓国の私のお兄さんの場合も、スマートフォンで日本の情報にいつも接しており、放射能や様々な問題で、大学を卒業したら、早く韓国へ帰るように勧めています。

K1 さん　・Face book では、日本でものを製造すれば、放射能が入っているという噂が大きくなっているため、私の韓国人留学生の友達は、放射能に対する心配で女性用の品物も韓国から郵便で送ってもらっています。

J2 さん　・Face book やインターネットのサイトなどでは、日本に対して悪口を話していると思います。

G1 さん　・韓国メディアの日本の悪い情報をそのまま伝えるのは、 特に年寄りの場合は、昔からの反日感情があるので、さらに放射能の影響などの悪い情報に接すると、日本のイメージはもっと悪くなると思います。

以上のように、日本在住韓国人留学生は「3.11・放射能」に対するイメージとして、「韓国メディアの報道やインターネットによる影響」が深刻であることを指摘している。特に、現在でも Face book や 20 代の女性専用のインターネット上のサイトなどで、放射能の影響についての噂が非常に多く出回っているため、女性用の品物まで韓国から郵便で送ってもらっている場合もあった。

続いて、「韓国の家族・周囲の日本留学に対する反応」については、対象者の 6 名が言及しており、以下はその具体的な例である。

J1 さん　・日本留学について、3.11 のような地震や放射能の影響の心配や、一人で生活ができるかという心配で、親やお兄さん、お姉さんに強く反対されました。特に、韓国では、親の意見が重要であり、反対している親を説得し、日本へ留学をするのが非常に難しく、私は 2011 年度の大学修学能力試験も受けず、長い時間をかけて日本語の勉強だけを頑張りました。それで、親は私のその姿をみて、日本への留学を認めてくれました。

G1 さん　・お父さんとおばあさんには強く反対されたが、その理由は、やはり、3.11 以降の目に見えない放射能の問題が大きいからです。私の弟も 2010 年、日

本で高校 2 年に在籍していましたが、3.11 後、おばあさんの反対で 3 年生に進学できず、韓国へ帰ることになりました。また、お父さんを説得するために、留学する条件として、最初だけ学費を援助してもらうなどの強い意志を長い時間かけて訴えました。

J さん　・お父さんは高齢であり、祖父の職業も昔軍人で、日韓の戦争にも参加しました。そのため、日本に対して反日感情を持っているので、日本留学を強く反対されましたが、私は日本留学のメリットについて長い時間にわたって両親を説得し、結局認めてもらいました。

G さん　・日本に来る前には、周りからの反対がすごかったです。英語圏ではなく、なぜ日本に行くのかと言われましたが、私はやりたいことを達成するために、強い意志を持って来日しました。

C さん　・やはり放射能の問題が、現在韓国社会では影響が大きいため、ずっと不安感を持っており、日本への留学は家族から反対されると思います。しかし、私の強い意志を長い時間にわたり訴え、最終的には日本の大学の入試に合格でき、家族から日本留学を認められました。また、私の友達は、放射能の影響が心配で、私に何度も忠告しました。

J2 さん　・3.11 の当時おばさんが仙台にいましたが、何日間か連絡がとれなくて、私も家族に日本留学を反対されました。しかし、結局お母さんを説得し支援を得て、他の家族にも日本留学を認められました。

このように、「3.11・放射能」の影響が大きいことと「反日感情」などで、日本留学に対する親・家族の反対が強く、特に「韓国では親の意見が重要」であるため、日本留学への強い意志を訴え、長い時間にわたり親を説得し、日本への留学ができるようになった留学生が多い。また、高齢者の場合は、以前から持っている反日感情と放射能の影響の情報が相まって日本に対するイメージはさらに悪化していることがうかがえる。

次の「日本留学のデメリット」については、対象者の 8 名が言及しており、以下はその具体的な例である。

B さん　・留学生の立場から見ても、円安の状況が続いているのにもかかわらず、日本に留学する韓国人留学者が少ないのは、やはり放射能のイメージが大きな原因だと思います。

K さん　・最近韓国では、中国への関心が高まり、また国内に日本語が上手な人が多いので、もう日本留学に対するメリットを感じられないと思います。また、放射能の問題や、現在日本は経済的に大きく発展しているわけでもなく、将来のことを考えてみると、自分が日本に来て何らかの利益がないとわざわざ日本に来ないと思います。

J さん　・現在、韓国では有名な大学を卒業し、英語が流暢であり、さらに日本語まで上手に話せる人も多いため、日本の大学を卒業したとしても、その人たちとの競争相手にならないため、日本留学のメリットはあまりないと思います。また、留学生の立場として、安全の問題や日韓関係などの様々な問題を考えてみると、日本は留学先のリストから除外されると思います。

L さん　・日本留学のメリットがもうなくなり、日本より他の国を選択し、最近では、特に中国への留学を選んでいると思います。

K1 さん　・近年韓国では、中国ブームが起こっているため、中国語学習者や中国への留学者が増加しており、韓国社会で日本語が与える影響力が弱くなったと思います。また、中・高校での第 2 外国語としての日本語のクラスがなくなり、全クラスが中国語のクラスに変わった学校もあります。このように、学校ですら日本語を教えないことは、そのぐらい日本語のメリットがなくなったと思います。

C さん　・現在中国が急成長しているため、中国留学に対するメリットが高まっており、一方、日本留学のメリットはもうなくなったと思っている人が多いと思います。

J2 さん　・最近韓国では、日本で大学を卒業したとしても昔のように認めてくれず、韓国では教育熱が高いため、その人たちと競争するのは、難しいと思います。また、日本の経済不振や日韓関係、政治的な問題などと 3.11 が相まって日本のイメージがさらに悪くなって、結局韓国社会では日本語の影響力が弱くなったと思います。

G1 さん　・最近では、円安で観光客は多いけれども、日本留学のメリットはあまりなく、さらに 3.11 当時の恐怖感も大きいため、日本留学を選択するのは、リスクが大きいのではないかと思います。また、韓国では儒教思想を持っており、親の意見も非常に重要であると思います。

このように、2011 年以降、日本の韓国人留学生が減少していることに関連して、放射能の影響や現在韓国で日本語の上手な人が多く、中国への関心度が高まっており、韓国社会での日本語の影響力は弱くなっているという意見が見られた。また、「日本留学のデメリット」について、3.11 以降、特に「放射能の問題」の影響が少なくないことがうかがえる。

以上は、「2011 年以降の日本の韓国人留学生の減少要因」について、2015 年にインタビュー調査を行った結果である。それでは、韓国人留学生を送り出す韓国の大学の状況はどうなっているのであろうか。次は、2015 年の調査から約 3 年後の 2017 年 11 月中旬から 2018 年 3 月下旬にかけて、韓国の大学に在籍する日本語学習者（専攻者及び非専攻者）を対象として調査を行った結果をまとめる。

4.2　本調査における韓国人日本語学習者や日本語・日本関連専攻者などの減少要因

前述したように、2015 年に行ったインタビュー調査の結果では、「2011 年以降の日本の韓国人留学生の減少要因」として、対象者の言及が最も多かった要因は「3.11・放射能」であった。本節では、その調査から約 3 年が経っている 2018 年の本調査での結果を見ていく。調査は、「韓国人学習者や専攻者などの減少要因」について、自由記述式の回答である。回答は複数回答可で計 459 答が得られ、意味が類似している回答は整理した上でカテゴリー化し、回答数と割合を分析した。その結果を表 12 に示す。

表 12 に示す「2011 年以降の韓国人学習者や専攻者などの減少要因」について、最も多かった回答は「地震・放射能の問題」（104 答、22.7%）であり、3.11 から 7 年の月日が経っているにも拘わらず、現在も韓国人学習者や専攻者の減少の大きな要因として認識されていることが分かった。続いて、「中国語志向の影響」（63 答、13.7%）、「日韓関係の問題（政治・歴史・慰安婦問題など）」（61 答、13.3%）、「日本語学習のメリットの減少」（60 答、13.1%）、「日本経済の停滞（26 答、5.7%）」、「就職の問題（23 答、5.0%）」などの順で高かった。その他（50 答、10.9%）の回答では「反日感情」、「外国人差別」、「少子化」、「国際社会での弱勢」、「女性の人権が低い」、「硬いイメージ」などがあった。また、「2011 年以降の韓国人学習者や専攻者などの減少要因」については、他にも様々な要因があるかもしれないが、本研究では表 12 のような要因にまとめられる。

表 12　2011 年以降の韓国人学習者や専攻者などの減少要因

減少要因	回答数	割合（%）
地震・放射能の問題	104	22.7
中国語志向の影響	63	13.7
日韓関係の問題（政治・歴史・慰安婦問題など）	61	13.3
日本語学習のメリットの減少	60	13.1
日本経済の停滞	26	5.7
就職の問題	23	5.0
日本人の嫌韓	17	3.7
英語中心	15	3.3
無回答	40	8.7
その他（反日感情、外国人差別、少子化など）	50	10.9
合　計	459	100

4.3　本章のまとめ

まず、2015 年に行った日本在住韓国人留学生を対象としたインタビュー調査の結果、「2011 年以降の日本の韓国人留学生の減少要因」として、「3.11・放射能」という要因に調査対象者の全員 10 名が言及している。それ以外の要因としては、「日韓関係」、「中国語志向の影響」、「メディアの報道」、「Face book やスマートフォンなどでのインターネットのサイトの影響」、「日本経済の停滞」、「少子化」、「反日・反韓感情」、「日本留学に反対する親と家族などの影響」などがあった。特に、「日本に対する韓国メディア・インターネットでの悪い影響」が深刻で対象者の 8 名が言及しており、現在でも Face book や 20 代の女性専用のインターネット上のサイトなどで、根拠のない放射能の影響、日本製品に対する放射能の注意、また誇張された韓国メディアの噂や情報が非常に多く出回っていた。また、高齢者の場合は、以前から持っている反日感情と 3.11・放射能の影響の情報が相まって日本に対するイメージはさらに悪化していた。このようなことから、「韓国の家族・周囲の日本留学に対する反対」という影響が大きく、親や家族

を長期間にわたり説得し、日本留学に対する自分の強い意志を訴え、来日するようになった調査対象者は 6 名もいた。このような要因から「日本留学のデメリット」については、「日本は留学先のリストから除外される」、「日本留学を選択するのは、リスクが大きい」、「日本留学に対するメリットが感じられない」、「韓国社会で日本語が与える影響力が弱くなった」、「日本より中国への留学を選んでいる」、「中・高校での第 2 外国語として日本語のクラスがなくなった」、「日本で大学を卒業したとしても昔のように認めてくれない」など、調査対象者の 8 名が述べている。このように、2011 年の 3.11 は、日本における韓国人留学生の減少の要因として大きい影響を与えていた。特に、韓国のメディアやインターネットでのマイナスイメージの情報は深刻な影響を与えていた。

次に、2017 年から 2018 年にかけて実施した本調査の結果では、「2011 年以降の韓国人学習者や専攻者などの減少要因」として、「地震・放射能の問題」が最も高い割合を占めた。この結果から、2011 年の 3.11 から 7 年も経過しているにも拘わらず、「地震・放射能」という「災害への不安」が減少の最も大きな要因として捉えられていることが明らかになった。これは、2015 年に行った結果とも一致している。続いて、「中国語志向の影響」、「日韓関係の問題（政治・歴史・慰安婦問題など）」、「日本語学習のメリットの減少」、「日本経済の停滞」、「就職の問題」などの順で高かった。特に、「中国語志向の影響」については、2015 年調査の対象者のインタビュー内容から見ても、最近の韓国社会では就職するにあたり、日本語の影響力が弱く、中国語が評価される傾向にある。それに伴い、現在韓国では中国語学習者や中国語専攻者、中国への韓国人留学者の数が増加しており、中国語学習ブームだと言っても過言ではない。この点につき、上田・瀧口・永野・山田（2014）でも、「韓国で必要性を感じる外国語」として「英語」が最も多く、次に「中国語」であることが指摘されている。これにより、様々な要因の中で、2011 年の 3.11 以降、「日本語学習のメリット」が減少している要因と、中国語への関心が高まっていることが関連づけられると考えられる。また、「日韓関係の問題」については、世代が変わっても依然として解決が難しい敏感な問題であることが見て取れる。そして、2015 年の調査では見られなかった「就職の問題」が新たに浮上してきており、これは上述したように、現在韓国社会では「就職難」が深刻であり、韓国の若者たちが最も深刻に捉えている大きな問題であると考えられる。この点について、現在「日本語学習のメリットの減少」と、韓国社会における「日本語の影響力の弱さ」という点から、特に日本語関連の専攻者は「就職」をめぐって厳しい状況に置かれていることがうかがえる。

以上のように、「2011 年以降の韓国人学習者や専攻者、日本の韓国人留学生の減少要因」としては、JSL 環境で学ぶ日本在住韓国人留学生と JFL 環境で学ぶ韓国人学習者の双方とも「地震・放射能の問題」が最も多く、「日韓関係の問題（政治・歴史など）」、「日本語学習のメリットの減少」、「中国語志向の影響」などが見られた。これは、JSL 環境における韓国人留学生は、日本へ留学する韓国人留学生の数が減少していることを日本という現場で留学しながら実感していることや、また韓国の友達や知人などから情報を得ていることなどが考えられる。そして、JFL 環境である韓国人学習者は、「地震・放射能」については 3.11 当時日本でその事態を経験した友達・知人や、メディアの放送、インターネットでの噂などから得、またこのような雰囲気を韓国の大学などで実際に感じていることなどが考えられる。

以上のような減少の要因を含め、第 5 章では JFL 環境である韓国人学習者が日本に対して持つイメージはどうなっているのについて明らかにしていく。

第 5 章　韓国人日本語学習者が持つ対日イメージとその影響要因

本章では、第 4 章で述べた「2011 年以降の韓国人学習者や専攻者などの減少要因」の結果を踏まえ、韓国人学習者が持つ対日イメージとその影響要因は何かについて明らかにする。本調査に先立て実施した予備的調査では、専攻者のみを対象として調査を行ったため、韓国の大学における日本語学習者全体の認識とは言えないことから、本調査では専攻者のみならず非専攻者も加え調査を行い、この 2 つの群の比較も行う。まず、韓国人学習者が持つ日本及び日本人に対するイメージについて、各項目が占める割合を分析する。次に、対象者全体について因子分析を行い、その上で専攻者と非専攻者の比較のため、ｔ検定を行う。最後に、「対日イメージに与える影響要因」について各項目が占める割合を分析する。

5.1　韓国人日本語学習者の日本に対するイメージ

まず、日本に対するイメージのそれぞれ項目が占める割合について分析する。分析については、5 段階の尺度の中で「そう思う・とてもそう思う」と「そう思わない・全然そう思わない」の二つに分類して行った。その結果を図 7 に示す。

図 7 に示したように、「そう思う・とてもそう思う」については、最も割合が高かったのは「地震が多い国である」（95.6%）であった。続いて、「規則・時間を遵守する」（91.0%）、「先進国である」（89.9%）、「伝統を継承重視する」（84.9%）、「生活環境が良い」（80.3%）、「放射能の国である」（73.3%）、「社会システムが良い（福祉、サービスなど）」（70.5%）、「留学するにあたって良い国である（日常生活・学校生活など）」（70.2%）の順で高く、日本に対する肯定的なイメージが多かった。「そう思わない・全然そう思わない」については、「地理・自然環境が良い」（29.4%）が比較的多く、その他の項目が占める割合は概ね低い傾向にある。

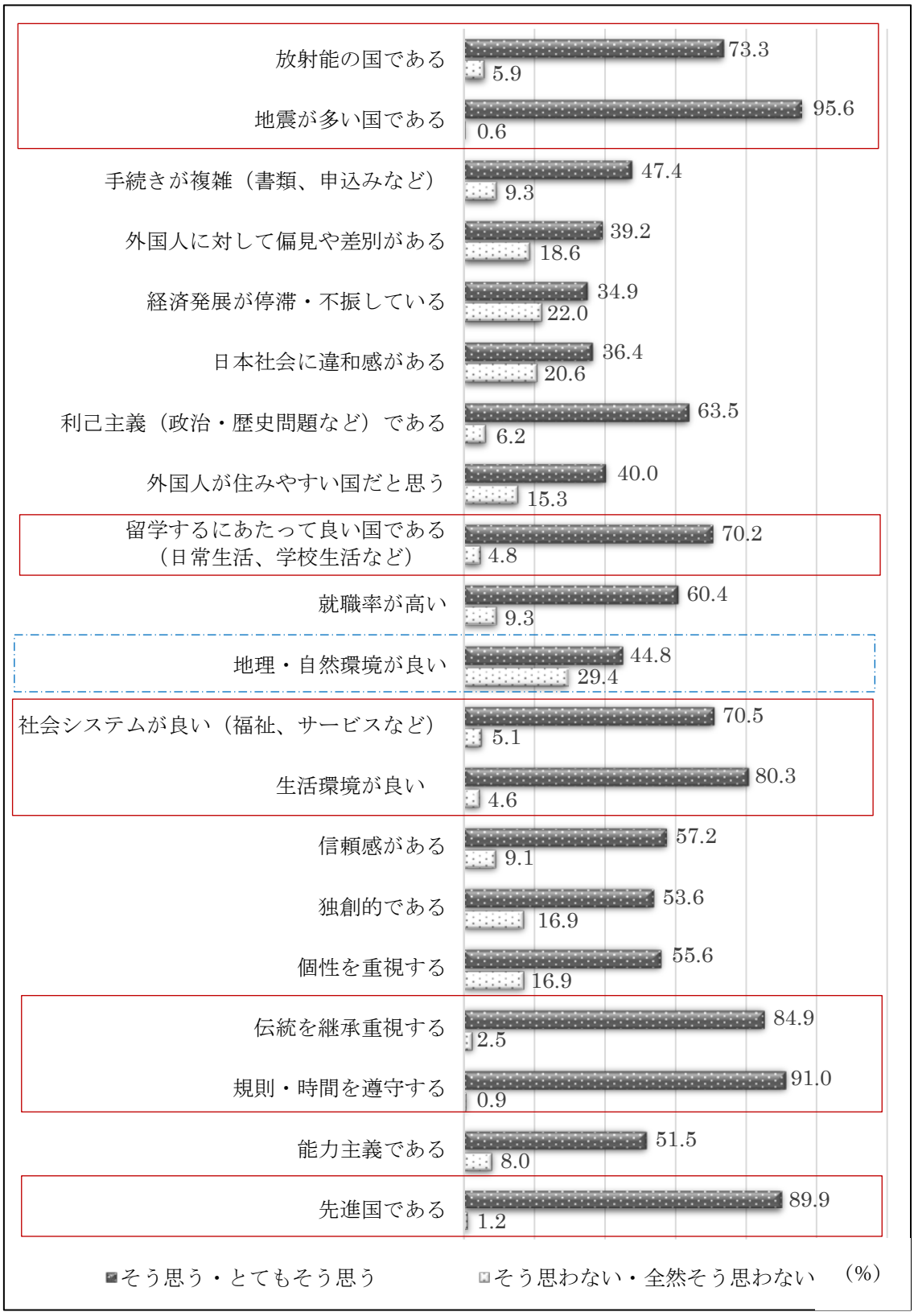

図 7　日本イメージの項目別の割合

表 13　日本イメージの因子分析の結果

質問項目	1因子 信頼性	2因子 日本への違和感	3因子 環境の良さ	4因子 災害への不安	5因子 個性重視
3.規則・時間を遵守する	**.751**	-.034	-.104	.115	-.029
1.先進国である	**.640**	-.106	.058	.090	.002
2.能力主義である	**.481**	-.037	-.043	.088	-.002
4.伝統を継承重視する	**.476**	.190	.034	.014	.048
7.信頼感がある	**.381**	.002	.136	-.277	.045
17.外国人に対して偏見や差別がある	.039	**.700**	-.145	-.180	.017
15.日本社会に違和感がある	-.160	**.543**	.045	.195	.099
16.経済が停滞・不振である	-.120	**.461**	-.006	.125	-.063
14.利己主義（政治・歴史問題など）である	-.025	**.447**	.106	.368	-.058
18.手続きが複雑（書類、申込みなど）	.172	**.427**	.011	-.081	-.106
13.外国人が住みやすい国だと思う	-.195	-.172	**.747**	.129	.018
12.留学するにあたって良い国である（日常生活、学校生活など）	.029	.069	**.732**	-.110	-.055
8.生活環境が良い	.170	-.073	**.411**	-.068	.000
11.就職率が高い	.163	.177	**.368**	-.081	.070
19.地震が多い国である	.354	-.022	.033	**.655**	-.066
20.放射能の国である	.070	.066	-.028	**.628**	.138
10.地理・自然環境が良い	.116	.100	.100	**-.393**	.069
6.独創的である	.066	-.033	-.032	.025	**.808**
5.個性を重視する	-.047	-.036	.025	.003	**.711**
寄与率[22]（%）	14.827	10.552	5.633	4.564	4.086
累計寄与率（%）	14.827	25.380	31.012	35.576	39.662

因子抽出法: 主因子法
回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

表13は、日本イメージについて因子分析を行った結果であり、5つの因子が抽出された。第1因子は「規則・時間を遵守する」（因子負荷量：.751）、「先進国である」（.640）、

[22] 寄与率とは、全測定変数の散らばりに関してそれぞれの因子が説明している量である（寺島・廣瀬(2015)『SPSS によるデータ分析』p.252）。

「能力主義である」（.481）、「信頼感がある」（.381）などの項目から、日本は規則と時間をしっかり遵守することと、先進国であるなどという日本に対する信頼を持っていることが見られ「信頼性」と命名した。第2因子は「外国人に対して偏見や差別がある」（.700）、「日本社会に違和感がある」（.543）、「利己主義（政治・歴史問題など）である」（.447）、「手続きが複雑（書類、申込みなど）」（.427）などの項目から、日本という国と日本社会への違和感を持っていることがうかがわれるため「日本への違和感」、第3因子は「外国人が住みやすい国だと思う」（.747）、「留学するにあたって良い国である」（.732）、「生活環境が良い」（.411）などの項目から、外国人や留学生が日本での生活を評価していることがうかがわれるため「生活環境の良さ」と命名した。第4因子は「地震が多い国である」（.655）、「放射能の国である」（.628）、「地理・自然環境が良い」（-.393）の項目から、「災害への不安」と命名した。これは、特に2011年の3.11以降持つようになったと見られるイメージである。第5因子は「独創的である」（.808）、「個性を重視する」（.711）の項目から「個性重視」と命名した。

表 14　因子相関行列

	1因子 信頼性	2因子 日本への違和感	3因子 環境の良さ	4因子 災害への不安	5因子 個性重視
1因子 信頼性	1.000				
2因子 日本への違和感	-.019	1.000			
3因子 環境の良さ	.484	-.174	1.000		
4因子 災害への不安	-.124	.310	-.157	1.000	
5因子 個性重視	.284	.085	.200	-.063	1.000

続いて、表14では、因子間の相関について分析を行った。「信頼性」は「環境の良さ」との間に中程度の正の相関、「個性重視」との間には弱い正の相関が見られた。「日本への違和感」は「災害への不安」との間に、「環境の良さ」は「個性重視」との間に、

弱い正の相関が見られた。

そして、前述した因子と項目について、専攻者と非専攻者の比較のため、因子別及び項目別についてt検定を行った。その結果を表15に示す。まず、因子別では専攻者と非専攻者の有意な差は見られなかった。一方、項目別のM（平均値）とSD（標準偏差）の結果では「規則・時間を遵守する」の項目について、専攻者が非専攻者より有意に高かった（t=2.983, df=339, p<.01）。これは、日本や日本人との接触機会が比較的少ない非専攻者に比べて、専攻者は日本との直接経験が多いため、その経験が直接日本へのイメージに結びついていることがうかがえる。

表 15　日本イメージに対する専攻者と非専攻者の t 検定の結果（項目別）

	専攻者			非専攻者			t 値
	N	M	SD	N	M	SD	
規則・時間を遵守する	176	4.53	.575	179	4.31	.773	2.983**

*p<.05　**p<.01　***p<.001

5.2　韓国人日本語学習者の日本人に対するイメージ

まず、日本人イメージのそれぞれ項目が占める割合について分析する。分析については、「そう思う・とてもそう思う」と「そう思わない・全然そう思わない」の二つに分類した。その結果を図 8 に示す。

図 8 における「そう思う・とてもそう思う」については、「迷惑をかけない」（94.4%）が最も割合が高かった。続いて「礼儀正しい」（89.6%）、「親切・やさしい」（87.6%）、「日本人に見習うことが多い」（84.0%）、「本音をよく言わない」（78.4%）、「仕事する際、緻密で徹底的である」（77.0%）、「日本人についてもっと知りたい」と「友達として付き合いたい」（76.9%）の順で高かった。「そう思わない・全然そう思わない」については、「情がない・冷たい」（42.0%）が最も割合が高かった。続いて「けちである」（35.3%）、「決断力がない」（33.5%）、「融通が利かない」（33.2%）などの順であった。これは、「そう思う・とてもそう思う」に多くあがった項目の割合に比べると、高いとは言えず、日本人に対しては肯定的なイメージが多く見られる。このようなイメージは日本語学習者が日本語学習を開始する際、影響を受けやすい要因であることが考えられる。

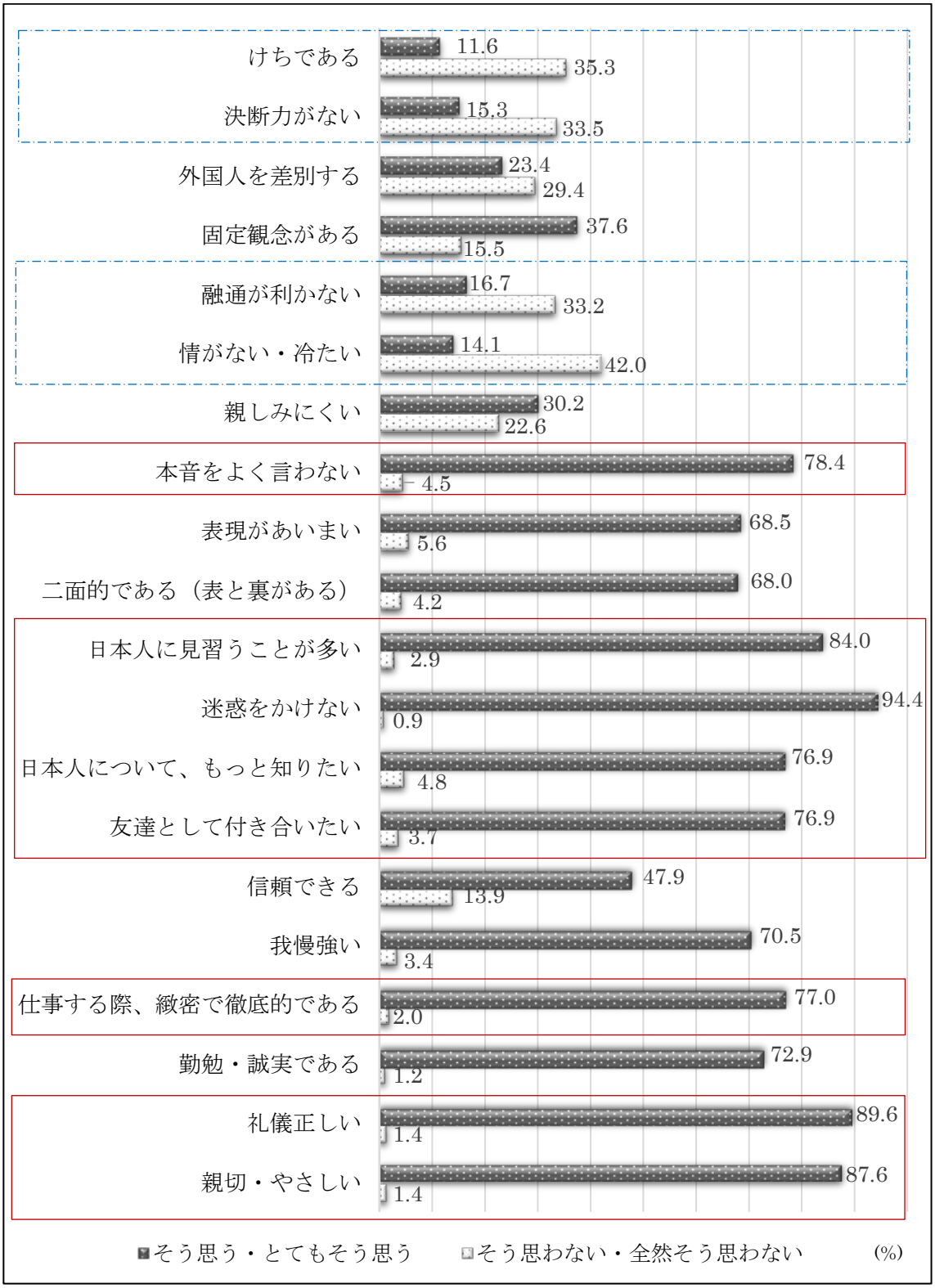

図 8　日本人イメージの項目別の割合

次に、日本人イメージについて因子分析を行った結果、4 つの因子が抽出された。そ

の詳細は表 16 に示す。

表 16　日本人イメージの因子分析の結果

質問項目	1 因子 信頼性	2 因子 冷たさ	3 因子 二面性	4 因子 興味・関心
3.勤勉・誠実である	**.856**	-.025	-.085	-.078
2.礼儀正しい	**.767**	-.064	.025	-.018
1.親切・やさしい	**.764**	-.015	-.022	-.034
4.仕事する際、緻密で徹底的である	**.725**	-.002	.011	-.012
6.信頼できる	**.454**	.158	-.294	.248
5.我慢強い	**.407**	.061	.206	.077
20.けちである	-.010	**.746**	-.134	.124
15.情がない・冷たい	.119	**.706**	-.016	-.161
16.融通が利かない	.140	**.685**	.033	-.113
19.決断力がない	-.142	**.673**	.008	.119
18.外国人を差別する	-.132	**.518**	-.013	.078
14.親しみにくい	.060	**.485**	.299	-.117
17.固定観念がある	-.093	**.421**	.248	.077
13.本音をよく言わない	.033	.031	**.778**	.024
11.二面的である（表と裏がある）	-.037	-.008	**.770**	-.019
12.表現があいまい	-.031	.039	**.722**	-.031
9.迷惑をかけない	.339	-.097	**.356**	.167
7.友達として付き合いたい	-.012	-.026	-.009	**.830**
8.日本人について、もっと知りたい	.036	.085	-.019	**.788**
10.日本人に見習うことが多い	.278	-.092	.169	**.373**
寄与率（%）	21.203	17.397	6.088	4.598
累計寄与率（%）	21.203	38.600	44.689	49.287

因子抽出法: 主因子法
回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

表 16 に示すように、第 1 因子は「勤勉・誠実である」（因子負荷量：.856）、「礼儀正しい」（.767）、「親切・やさしい」（.764）、「仕事する際、緻密で徹底的である」（.725）、「信頼できる」（.454）などの項目から、日本人に対して信頼するイメージを持ってい

ることがうかがえるため「信頼性」、第 2 因子は「けちである」（.746）、「情がない・冷たい」（.706）、「融通が利かない」（.685）、「決断力がない」（.673）、「外国人を差別する」（.518）などの項目から、会計する時比較的奢る場合が多く、融通が良く利く韓国人と比較していることがうかがえ、「冷たさ」と命名した。第 3 因子は「本音をよく言わない」（.778）、「二面的である（表と裏がある）」（.770）、「表現があいまい」（.722）などの項目から、建前と本音の使い分けのイメージが見られ「二面性」と命名した。第 4 因子は「友達として付き合いたい 」（.830）、「日本人について、もっと知りたい」（.788）などの項目から、日本人への関心が見られ「興味・関心」と命名した。

以上の結果から、日本人に対する「信頼性」と日本人への「興味・関心」という「肯定的イメージ」も見られたが、その反面「冷たさ」と「二面性」という「否定的イメージ」も同時に見られた。イメージが肯定的か否定的であるかの点について、「二面性」の下位項目である「本音をよく言わない」と「表現があいまい」という項目は、「文化的な面」とも捉えられるため、必ずしも否定的なイメージであるとは言えないかもしれない。しかし金（2016）によると、韓国人学習者はこの 2 つ（「本音をよく言わない」と「表現があいまい」）について韓国人と比較し、否定的なイメージとして捉えていることが分かっている。

また、表 17 に示した因子間の相関については、「信頼性」は「二面性」との間に弱い正の相関、「興味・関心」との間に中程度の正の相関、「冷たさ」は「二面性」との間に弱い正の相関、「興味・関心」との間に弱い負の相関が見られた。

表 17　因子相関行列

	1 因子 信頼性	2 因子 冷たさ	3 因子 二面性	4 因子 興味・関心
1 因子 信頼性	1.000			
2 因子 冷たさ	-.108	1.000		
3 因子 二面性	.299	.330	1.000	
4 因子 興味・関心	.506	-.218	.100	1.000

次に、前述した因子と項目について、専攻者と非専攻者の比較を行った t 検定の結果を表 18 と表 19 に示す。まず、表 18 における因子別の結果では、第 3 因子の「二面性」について、専攻者が非専攻者より有意に高かった（t=3.704, df=353, p<.001）。これは、専攻者の方が日本語を学習する中で日本人との接触機会が多く、日本人との直接経験を通して形成されたイメージであることがうかがえる。

表 18　日本人イメージに対する専攻者と非専攻者の t 検定の結果　（因子別）

	専攻者			非専攻者			t 値
	N	M	SD	N	M	SD	
第 3 因子．二面性	176	16.85	2.338	179	15.88	2.558	3.704***

*p<.05　**p<.01　***p<.001

表 19　日本人イメージに対する専攻者と非専攻者の t 検定の結果　（項目別）

	専攻者　N=176		非専攻者　N=179		t 値
	M	SD	M	SD	
仕事する際、緻密で徹底的である	4.15	.677	3.91	.846	2.987**
親しみにくい	3.26	.978	3.04	.932	2.135*
外国人を差別する	2.84	.856	3.05	.869	－2.348*
本音をよく言わない	4.20	.748	3.91	.895	3.294**
表現があいまい	4.02	.848	3.72	.850	3.414**
迷惑をかけない	4.58	.560	4.41	.708	2.537*
二面的である（表と裏がある）	4.05	.880	3.85	.890	2.089*

*p<.05　**p<.01　***p<.001

続いて、表 19 における項目別の結果では、「外国人を差別する」（t= - 2.348, df=353, p<.05）について、非専攻者が専攻者より有意に高かった。それ以外の項目である「仕事する際、緻密で徹底的である」（t=2.987, df=339, p<.01）、「親しみにくい」（t=2.135,

df=353，p<.05)、「本音をよく言わない」(t=3.294，df=344，p<.01)、「表現があいまい」(t=3.414，df=352，p<.01)、「迷惑をかけない」(t=2.537，df=337，p<.05)、「二面的である」(t=2.089，df=353，p<.05）については、専攻者が非専攻者より有意に高かった。非専攻者の場合は、日本人との直接経験が少なく、日本人は「外国人を差別する」という先入観を持っているのだろうか。また、専攻者の場合は、出会った日本人との直接経験から形成されたイメージであることがうかがえ、特に「二面性」という因子の全下位項目が非専攻者より高いのは、専攻者は日本人に対して「二面性」というイメージが強いことが確認された。

5.3　対日イメージに与える影響要因

前述した日本及び日本人のイメージに与える影響要因について分析を行う。分析については、「そう思う・とてもそう思う」と「そう思わない・全然そう思わない」の二つに分類し、項目それぞれが占める割合を分析する。その結果を図 9 に示す。

まず、「そう思う・とてもそう思う」については、「日本の漫画、アニメ」(75.6%）が最も割合が高かった。続いて、「日韓関係（政治・歴史など)」(74.2%)、「日本語・日本関連授業(日本語教師の話や教材など)」(72.7%)、「日本のドラマ、映画、音楽(J-POP)」(71.9%)、「日本を旅行した経験」(69.4%)、「中・高校の学校教育(歴史など)」(64.9%)、「インターネットの日本動画」(61.2%）の順で高かった。また、「そう思わない・全然そう思わない」については、「韓国のファッション雑誌、書籍」(35.8%）が最も割合が高かった。続いて「親・友達の影響」(33.3%)、「日本のファッション雑誌、書籍」(31.0%)、「日本で生活した経験（語学研修など)」(27.6%)、「日本のテレビ放送（NHK など)」(27.4%)、「韓国の小説、ドラマ、映画」(26.5%）の順で高かった。

特に、「地震」と「放射能」については、それぞれが 5 割以上を占めており、2011 年の 3.11 以降現在もその「災害への不安」の影響が少なくないことが注目される。他方、「韓国のファッション雑誌、書籍」の割合が最も低かったのは、現在の若者たちは書籍よりインターネットを頻繁に利用しており、必要な情報はインターネットを通して即時に得られる場合が多いからであると考えられる。

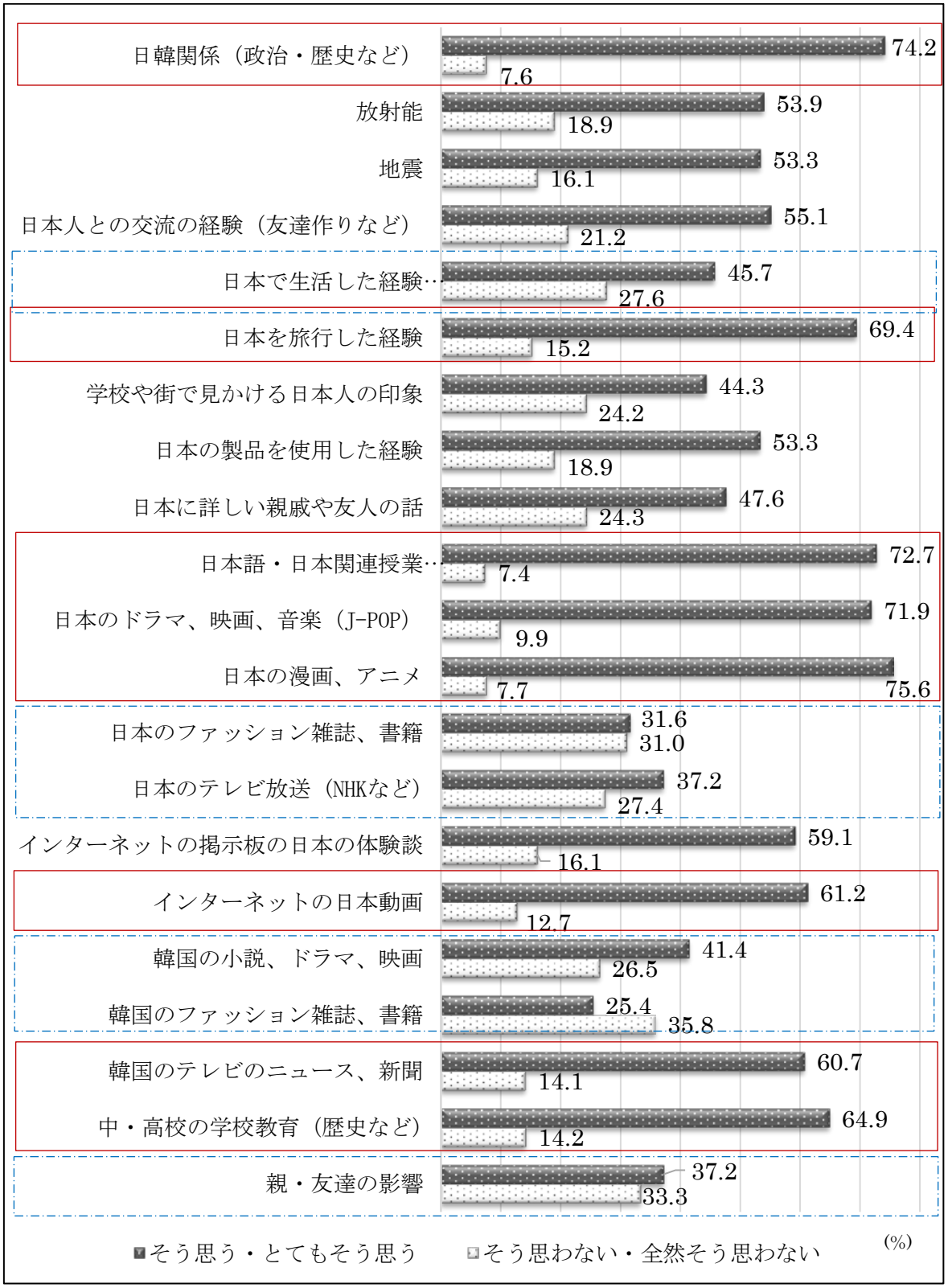

図 9　対日イメージに与える影響要因

5.4　本章のまとめ

本章では、韓国人学習者が持つ対日イメージについて分析を行った。また、そのイメージに与える影響要因について分析した。

まず、韓国人学習者は日本に対して肯定的なイメージを持つものの、3.11 以降、「地震及び放射能の国」、「地理・自然環境が良くない」という否定的なイメージも同様に持っていることが分かった。このような結果は、第 4 章で述べたように「2011 年以降の韓国人学習者や専攻者などの減少要因」として、「地震・放射能の問題」が最も高かったという結果と同様である。これにより、3.11 から 7 年が経過している現在も「地震・放射能」のような「災害への不安」の意識を多く持っていることがうかがえる。また、「規則・時間を遵守する」という項目については、専攻者が非専攻者より有意に高かったが、専攻者の場合は、非専攻者より日本に対する接触機会が多く、その直接経験から形成されたイメージであることがうかがえる。

次に、日本人イメージについては、「迷惑をかけない」という回答が最も多く、続いて「礼儀正しい」、「親切・やさしい」、「日本人に見習うことが多い」、「日本人についてもっと知りたい」、「友達として付き合いたい」などのような肯定的なイメージを多く持っていることが分かった。また、専攻者と非専攻者を比較した t 検定の結果では、「二面性」という因子とその下位項目である「本音をよく言わない」、「表現があいまい」、「二面的である」について、非専攻者に比べ、専攻者が有意に高かった。これは、岩男・萩原（1982）で、韓国人学習者は日本に関する豊富な知識を持っていればいるほど日本に対して否定的な評価や批判的な傾向であるという結果と一致する。つまり、日本人に対する「二面性」というイメージは、日本人に対する知識や経験などが豊富である専攻者の方が非専攻者より強いということになる。加えて、呉（2008a,b）の日本語学習者・専攻者は「二面的、本心がわからない」、大江（2012）では日本語学習開始の前より後の方が「二面的」というイメージがより強くなる結果とも同様である。この点について、第 1 章で示した図 5 の対日イメージの形成理論に照らし合わせると、専攻者の場合、日本語を学習する過程で日本人との接触機会が増える場合が多く、その実際体験を通じて、日本人に対して韓国人とは異なる新たなイメージが形成されると考えられる。

他方、「外国人を差別する」については、非専攻者が専攻者より有意に高かったが、これは先入観であるのか、メディアによる情報から生成されたイメージなのか、知人から聞いた情報であるのかその理由については明確になっていない。

最後に、以上のような日本及び日本人のイメージに与える影響要因としては、「日本の漫画、アニメ」が最も割合が高く、続いて「日韓関係」、「日本語・日本関連授業」、「日本語のドラマ、映画、音楽（J-POP）」であった。この結果は、以下の先行研究の結果と同様である。齊藤（2004）では、対日イメージを形成する際に与える影響要因として「日本映画、アニメ」が最も高かった。また、呉（2008a）では、日本人イメージの形成要因として「日本のドラマ」が最も高く、次いで「日本の漫画・アニメ」が高かった。そして、本研究で注目する「地震」と「放射能」について、それぞれ 5 割以上を占めていることから、3.11 から 7 年が経過しているにも拘らず、依然「災害への不安」による影響が少なくないことが確認された。

他方、「親・友達の影響」について影響が弱かったのは、親や周囲などの意見より自分の意志で判断する現在の韓国の若者像がうかがえる。また、「日本で生活した経験（語学研修など）」と「日本人との交流の経験（友達作りなど）」にあまり影響を受けていないことについては、本研究の対象者として非専攻者が 5 割程度であり、まだ日本と日本人との直接経験や知識が少ないことによる結果であることが考えられる。

以上のように、韓国人学習者は日本及び日本人に対して肯定的なイメージを持っているものの、同時に否定的なイメージも少なからず持っていることが分かった。また、「日本の漫画、アニメ」、「日韓関係（政治・歴史など）」、「中・高校の学校教育（歴史など）」、「放射能」、「地震」などという要因が対日イメージに影響を与えていた。それでは、韓国人学習者は肯定的及び否定的なイメージを持っているが、日本語を学習する時にはどのような動機づけを持っているのかについて明らかにしていく。

第 6 章　韓国人日本語学習者が持つ日本語学習動機づけ

本章では、韓国人学習者が持つ日本語学習動機づけについて明らかにする。まず、質問紙調査を行った結果について、日本語学習動機づけの各項目が占める割合を分析する。次に、対象者全体の因子分析を行った上で、専攻者と非専攻者を比較するため、因子別と項目別の t 検定を行う。最後に、「日本語学習を始めた理由」、「日本語学習を継続している理由」、「日本語を学習して将来にどう活かしたいか」の自由記述回答について、対象者全体及び専攻者と非専攻者の比較を行う。

6.1　韓国人日本語学習者の日本語学習動機づけ

まず、韓国人学習者の日本語学習動機づけについて質問紙調査の結果をもとに、それぞれ項目が占める割合について分析を行う。分析については、「そう思う・とてもそう思う」と「そう思わない・全然そう思わない」の二つに分類した。その結果を図 10 に示す。

図 10 における「そう思う・とてもそう思う」については、「日本を旅行したい」(89.6%)が最も割合が高かった。続いて、「日本語の実力向上が嬉しい」(86.5%)、「地震に関係なく、日本語学習が好き」(78.9%)、「語学学習のためである 」(78.4%)、「自分の視野を広げるために良い」(78.1%)、「日本人と交流をしたい（友達作りなど)」(77.8%)、「日本の食べ物が好き」(77.5%)、「日本の漫画・アニメなどが好き」(75.0%)、「日本をより理解したい」(73.3%)、「日本に留学したい(短期留学、交換留学など)」(73.0%)、「日本語が好きだから」(72.5%)、「日本語の学習が楽しい」(72.2%)、「放射能に関係なく、日本語学習が好き」(71.9%）などの順で高かった。

一方、「そう思わない・全然そう思わない」については、「親・友達の影響があった」（70.7%）が最も割合が高かった。続いて、「大学に入学するため、必要であった」(66.7%)、「卒業のための必修科目である」(45.2%)、「日本のファッションが好き」(41.9%)、「資格習得のためである」(39.4%)、「専攻であるから」(35.3%)、「就職・昇進に有利だから学習したい」(30.7%)、「日本の新聞や雑誌を読みたい」(25.6%）などの順で高かった。

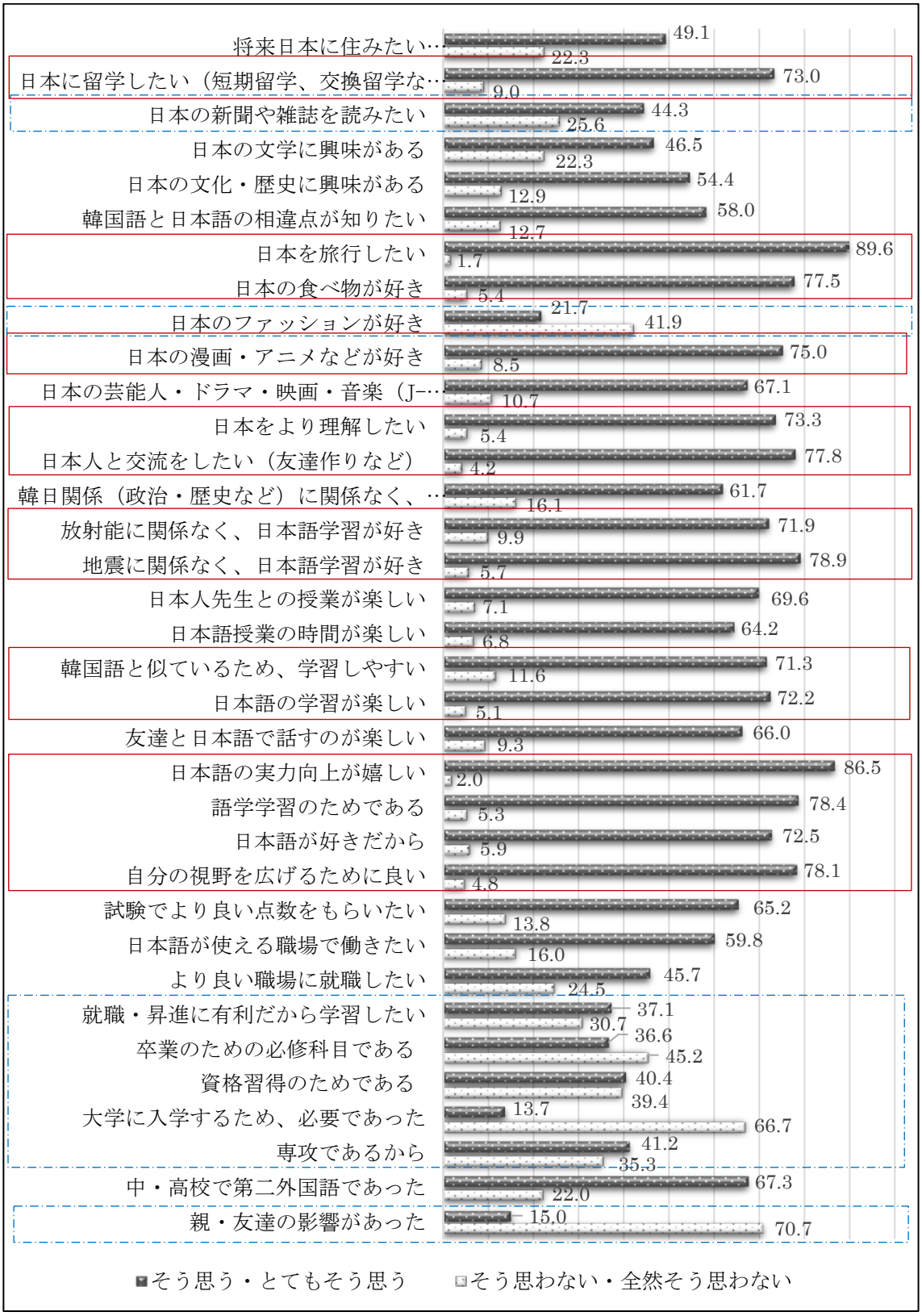

図 10　日本語学習動機づけの項目別の割合

以上の結果から、日本語学習動機づけとして、内発的動機づけの下位項目を選んだ割合が高いことが分かる。また、日本語を学習するにあたって、「親・友達の影響」の割合が非常に低く、漫画・アニメ・J-POP に比べ、新聞・雑誌のような紙媒体による影響は弱いということが言える。そして、「卒業のための必修科目である」、「専攻であるから」などの割合が低かったのは、非専攻者の場合、日本語の授業が必修科目ではなく、教養科目である場合がほとんどであり、自分の専攻でもないということにより、非専攻者の回答が多く反映されているのではないかと考えられる。

次に、表 20 に示すように、日本語学習動機づけについて因子分析を行った結果、6 つの因子が抽出された。第 1 因子は「語学学習のためである」（因子負荷量：.895）、「日本語の実力向上が嬉しい」（.859）、「日本語の学習が楽しい」（.705）、「自分の視野を広げるために良い」（.696）、「日本人と交流をしたい（友達作りなど）」（.668）、「日本を旅行したい」（.665）、「日本語授業の時間が楽しい」（.609）、「日本をより理解したい」（.603）、「友達と日本語で話すのが楽しい」（.582）などの項目があり、日本語学習に対して、「日本・日本人・日本語」に対して内発的であることから「統合的志向」と命名した。第 2 因子は「より良い職場に就職したい」（.952）、「就職・昇進に有利だから学習したい」（.856）などの項目があり、日本語学習は将来の仕事・就職のためであるという動機づけと考えられる。しかし、韓国人学習者にとって就職は非常に重要な位置を占め、単なる道具とは区別して捉える必要がある。そこで第 2 因子は「キャリア志向」と命名し、第 4 因子とは区別をした。第 3 因子は「日本の文学に興味がある」（.764）、「日本の文化・歴史に興味がある」（.688）、「日本の新聞や雑誌を読みたい」（.560）などの項目があり、日本の文化や文学に興味があることから「日本文化・文学への興味」、第 4 因子は「専攻である」（.887）、「卒業のための必修科目である」（.711）、「大学に入学するため、必要であった」（.683）、「資格取得のためである」（.402）の項目があり、日本語学習を何かの目的のための道具として捉えているという点から「道具的志向」と命名した。第 5 因子は「日本に留学したい（短期留学、交換留学など）」（.688）、「将来日本に住みたい（就職、日本人との結婚など）」（.650）、「日本語が使える職場で働きたい」（.631）の項目から「日本への憧れ」、第 6 因子は「放射能に関係なく、日本語学習が好き」（.797）、「日韓関係に関係なく、日本語学習が好き」（.755）、「地震に関係なく、日本語学習が好き」（.538）の項目から、自然災害や日韓関係にも関係なく、日本語学習が好きということがうかがわれるため「日本語学習志向」と命名した。

表 20　日本語学習動機づけの因子分析の結果

質問項目	1因子 統合的志向	2 因子 キャリア志向	3 因子 日本文化・文学への興味	4 因子 道具的志向	5 因子 日本への憧れ	6 因子 日本語学習志向
13.語学学習のためである	**.895**	.115	.025	.014	-.145	-.209
14.日本語の実力向上が嬉しい	**.859**	.054	-.053	.021	.049	-.092
16.日本語の学習が楽しい	**.705**	-.022	.072	.018	-.051	.160
11.自分の視野を広げるために良い	**.696**	.142	.125	-.050	-.040	-.150
23.日本人と交流をしたい（友達作りなど）	**.668**	-.141	-.103	-.007	.253	.043
29.日本を旅行したい	**.665**	-.076	-.092	-.194	.303	-.096
18.日本語授業の時間が楽しい	**.609**	-.062	.106	.075	-.163	.292
24.日本をより理解したい	**.603**	-.096	.124	-.011	.174	.051
15.友達と日本語で話すのが楽しい	**.582**	-.108	.016	.102	.193	.084
12.日本語が好きだから	**.562**	-.028	.039	-.038	.117	.190
17.韓国語と似ているため、学習しやすい	**.550**	.159	.017	-.030	-.187	.014
28.日本の食べ物が好き	**.545**	.008	-.027	-.076	.012	.023
19.日本人の先生との授業が楽しい	**.472**	-.050	.017	.051	-.046	.289
8.より良い職場に就職したい	-.006	**.952**	-.038	-.080	.114	.034
7.就職・昇進に有利だから学習したい	-.087	**.856**	.044	-.040	.015	.060
10.試験でより良い点数をとりたい	.461	**.474**	-.170	.136	-.005	-.055
32.日本の文学に興味がある	-.033	-.065	**.764**	-.034	.205	-.071
31.日本の文化・歴史に興味がある	.167	-.063	**.688**	.048	-.035	-.035
33.日本の新聞や雑誌を読みたい	-.088	.051	**.560**	.032	.285	-.001
30.韓国語と日本語の相違点が知りたい	.343	.083	**.531**	-.056	-.173	.027
3.専攻であるから	.040	-.161	-.059	**.887**	.117	-.093
6.卒業のための必修科目である	.010	.111	-.015	**.711**	-.007	-.077
4.大学に入学するため、必要であった	-.175	-.017	.073	**.683**	-.094	.092
5.資格取得のためである	.043	.362	.041	**.402**	.000	.024
34.日本に留学したい（短期留学、交換留学など）	.207	.008	.065	-.001	**.688**	-.086
35.将来日本に住みたい（就職、日本人との結婚など）	-.049	.002	.082	-.009	**.650**	.024
9.日本語が使える職場で働きたい	-.093	.319	.068	.087	**.631**	.130
21.放射能に関係なく、日本語学習が好き	.048	.067	-.025	-.085	.041	**.797**

22.日韓関係（政治・歴史など）に関係なく、日本語学習が好き	.079	.047	-.048	.003	-.002	**.755**
20.地震に関係なく、日本語学習が好き	.457	-.033	-.041	.027	.021	**.538**
寄与率（%）	35.711	10.747	3.940	3.487	2.730	2.399
累計寄与率（%）	35.711	46.458	50.398	53.884	56.614	59.013

因子抽出法: 主因子法
回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

また、表 21 に示すように因子間の相関について、「統合的志向」は、「キャリア志向」との間に弱い正の相関、「日本文化・文学への興味」、「日本への憧れ」、「日本語学習志向」との間に中程度の正の相関が見られた。「キャリア志向」は、「道具的志向」との間に、「日本文化・文学への興味」は、「日本への憧れ」と「日本語学習志向」との間に、「日本への憧れ」は、「日本語学習志向」との間に、それぞれ中程度の正の相関が見られた。

表 21　因子相関行列

	1因子 統合的志向	2 因子 キャリア志向	3 因子 日本文化・文学への興味	4 因子 道具的志向	5 因子 日本への憧れ	6 因子 日本語学習志向
1因子 統合的志向	1.000					
2 因子 キャリア志向	.220	1.000				
3 因子 日本文化・文学への興味	.571	.194	1.000			
4 因子 道具的志向	.085	.480	.115	1.000		
5 因子 日本への憧れ	.608	.169	.491	.121	1.000	
6 因子 日本語学習志向	.637	-.036	.512	-.078	.456	1.000

続いて、表 22 と表 23 は、日本語学習動機づけについて、専攻者と非専攻者の比較のため t 検定を行った結果である。因子別では、第 4 因子の「道具的志向」（t=13.582, df=353, p<.001）と第 5 因子の「日本への憧れ」（t=3.737, df=353, p<.001）について、

専攻者が非専攻者より有意に高い傾向が見られた。

表 22　日本語学習動機づけに対する専攻者と非専攻者の t 検定の結果（因子別）

	専攻者　N=176		非専攻者　N=179		t 値
	M	SD	M	SD	
第 4 因子　道具的志向	13.17	3.730	7.97	3.487	13.582***
第 5 因子　日本への憧れ	11.69	2.735	10.55	3.004	3.737***

*p<.05　**p<.01　***p<.001

表 23　日本語学習動機づけに対する専攻者と非専攻者の t 検定の結果（項目別）

	専攻者　N=176		非専攻者　N=179		t 値
	M	SD	M	SD	
日本語の実力向上が嬉しい	4.40	.702	4.17	.871	2.744**
友達と日本語で話すのが楽しい	4.09	.958	3.74	1.137	3.120**
日本の文化・歴史に興味がある	3.78	.992	3.46	1.196	2.700**
日本の新聞や雑誌を読みたい	3.43	1.169	3.14	1.280	2.201*
試験でより良い点数をとりたい	3.93	1.106	3.54	1.246	3.074**
専攻であるから	3.98	1.058	1.70	.994	20.924***
大学に入学するため、必要であった	2.50	1.251	1.65	.961	7.138***
資格取得のためである	3.15	1.310	2.60	1.459	3.738***
卒業のための必修科目である	3.55	1.347	2.02	1.243	11.115***
日本語が使える職場で働きたい	3.96	1.033	3.34	1.236	5.174***
日本に留学したい（短期留学、交換留学など）	4.20	.946	3.85	1.144	3.192**

*p<.05　**p<.01　***p<.001

また、項目別の結果では、特に「道具的志向」の下位項目である「専攻であるから」（t=20.924, df=353, p<.001）、「大学に入学するため、必要であった」（t=7.138, df=328, p<.001）、「資格取得のためである」（t=3.738, df=350, p<.001）、「卒業のための必修科

目である」（t=11.115, df=353, p<.001）については、専攻者が非専攻者より有意に高かった。他に、「日本語が使える職場で働きたい」（t=5.174, df=344, p<.001）、「日本に留学したい（短期留学、交換留学など）」（t=3.192, df=343, p<.01）、「日本語の実力向上が嬉しい」（t=2.744, df=339, p<.01）、「友達と日本語で話すのが楽しい」（t=3.120, df=344, p<.01）、「日本の文化・歴史に興味がある」（t=2.700, df=343, p<.01）、「日本の新聞や雑誌を読みたい」（t=2.201, df=353, p<.05）、「試験でより良い点数をとりたい」（t=3.074, df=349, p<.01）についても専攻者が非専攻者より有意に高かった。

以上の結果から、専攻者は非専攻者に比べ、特に「大学に入学するため、必要であった」、「資格取得のためである」、「卒業のための必修科目である」などという何かの目的達成のために日本語を学習しているという点から、専攻者の方が「道具的志向」という外発的動機づけが高いことが分かった。

6.2　日本語学習を始めた理由

このような動機づけは韓国人学習者の現在の状況を示したものである。自己決定理論に従えば、動機づけは調整により変化すると考えられる。そこで、「日本語学習を始めた理由」について分析する。対象者全体の回答数（複数回答可）は、計 361 であった。自由記述の回答を EXCEL で整理し、カテゴリー化した上で、それぞれのカテゴリーが占めている人数と割合を分析した。その結果を図 11 に示す。

図 11 に示されたように、最も多かった回答は、「アニメ、漫画、J-POP、芸能人への興味」（82 答、22.7%）であった。続いて、「中・高校で第二外国語であった」（65 答、18.0%）、「日本語・日本文学・日本文化に興味・関心」（38 答、10.5%）、「親・家族・友達の影響」（25 答、6.9%）、「専攻であるから」（21 答、5.8%）、「大学の入学のため」（12 答、3.3%）、「語学学習のため」（11 答、3.0%）、「旅行」（9 答、2.5%）、「就職に有利」（8 答、2.2%）、「単位取得」（10 答、1.9%）などの順であった。また、「その他」（40 答、11.1%）、「無回答」（30 答、8.3%）であった。

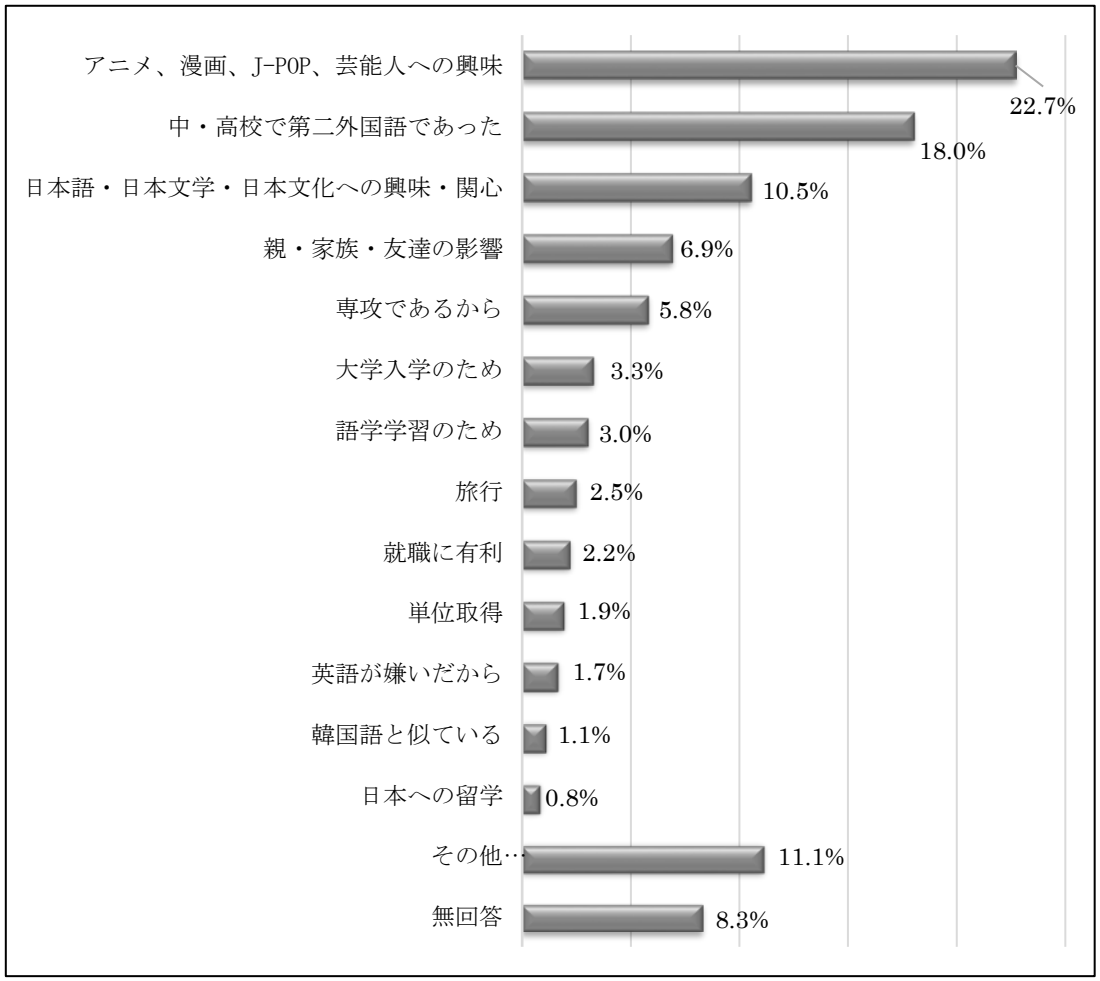

図 11　日本語学習を始めた理由（対象者全体）

続いて、「日本語学習を始めた理由」について、専攻者と非専攻者の比較を行った結果を図 12 に示す。

図 12 の「日本語学習を始めた理由」について、専攻者の回答数（複数回答可）は計 179、非専攻者は計 182 であった。両群とも最も多かった回答は「アニメ、漫画、J-POP、芸能人への興味」であり、専攻者は 36 答（20.1%）、非専攻者は 46 答（25.3%）であった。次に、「中・高校で第二外国語であった」について専攻者は 31 答（17.3%）、非専攻者は 34 答（18.7%）であった。続いて、専攻者の場合は「専攻であるから」（21 答、11.7%）、「日本語・日本文学・日本文化への興味・関心」（19 答、10.6%）、「親・家族・友達の影響」（18 答、10.1%）、「大学入学のため」（10 答、5.6%）、「語学学習のため」（6 答、3.4%）の順であった。その他（23 答、12.8%）では、「進路」、「旅行」、「高校卒業の試験」、「趣味」、「先生の影響」、「日本のメディアの影響」、「ホームステイ」、「学

習誌」などがあり、「無回答」（11 答、6.1%）もあった。非専攻者の場合は、「日本語・日本文学・日本文化への興味・関心」（19 答、10.4%）、「就職のため」「単位習得」「親・家族・友達の影響」がそれぞれ（7 答、3.8%）、「英語が嫌いだから」（6 答、3.3%）、「言語学習のため」と「旅行」（5 答、2.7%）があった。その他（24 答、13.2%）では「資格習得」、「日本に住みたい」、「日本料理を専攻したい」、「好きなゲーム」、「英語以外の外国語が学びたかった」などがあり、「無回答」（19 答、10.4%）もあった。

以上の結果から、日本語学習を始める時には、両群とも「アニメ、漫画、J-POP、芸能人に興味」という内発的動機づけを多く持っていることが分かった。また、非専攻者では専攻者には見られなかった「就職のため」という外発的動機づけを最初から持っていることが分かった。

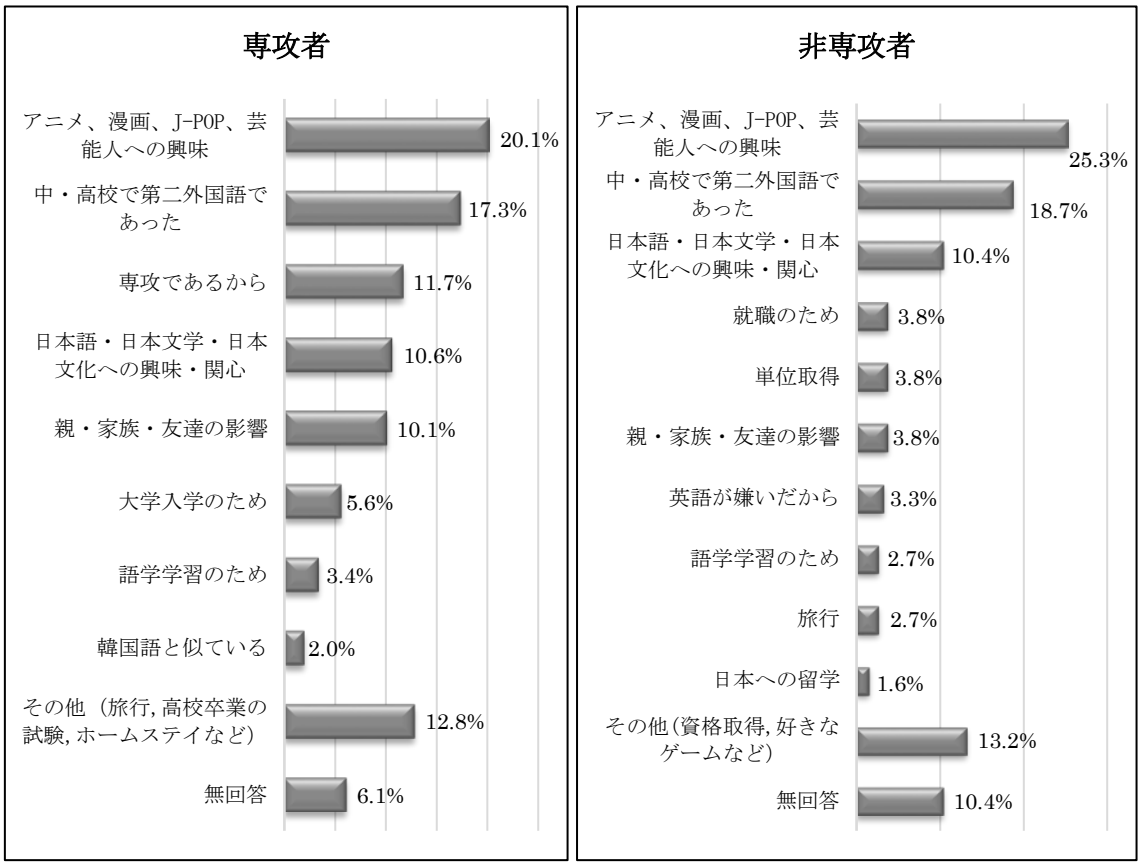

図 12　日本語学習を始めた理由（専攻者及び非専攻者）

このように、「日本語学習を始めた理由」については、それぞれの理由が見られた。次は、現在「日本語学習を継続している理由」について、以下の図 13 に示す。

6.3　日本語学習を継続している理由

図 13 の「日本語学習を継続している理由」について分析する。対象者全体の回答数（複数回答可）は、計 377 であった。

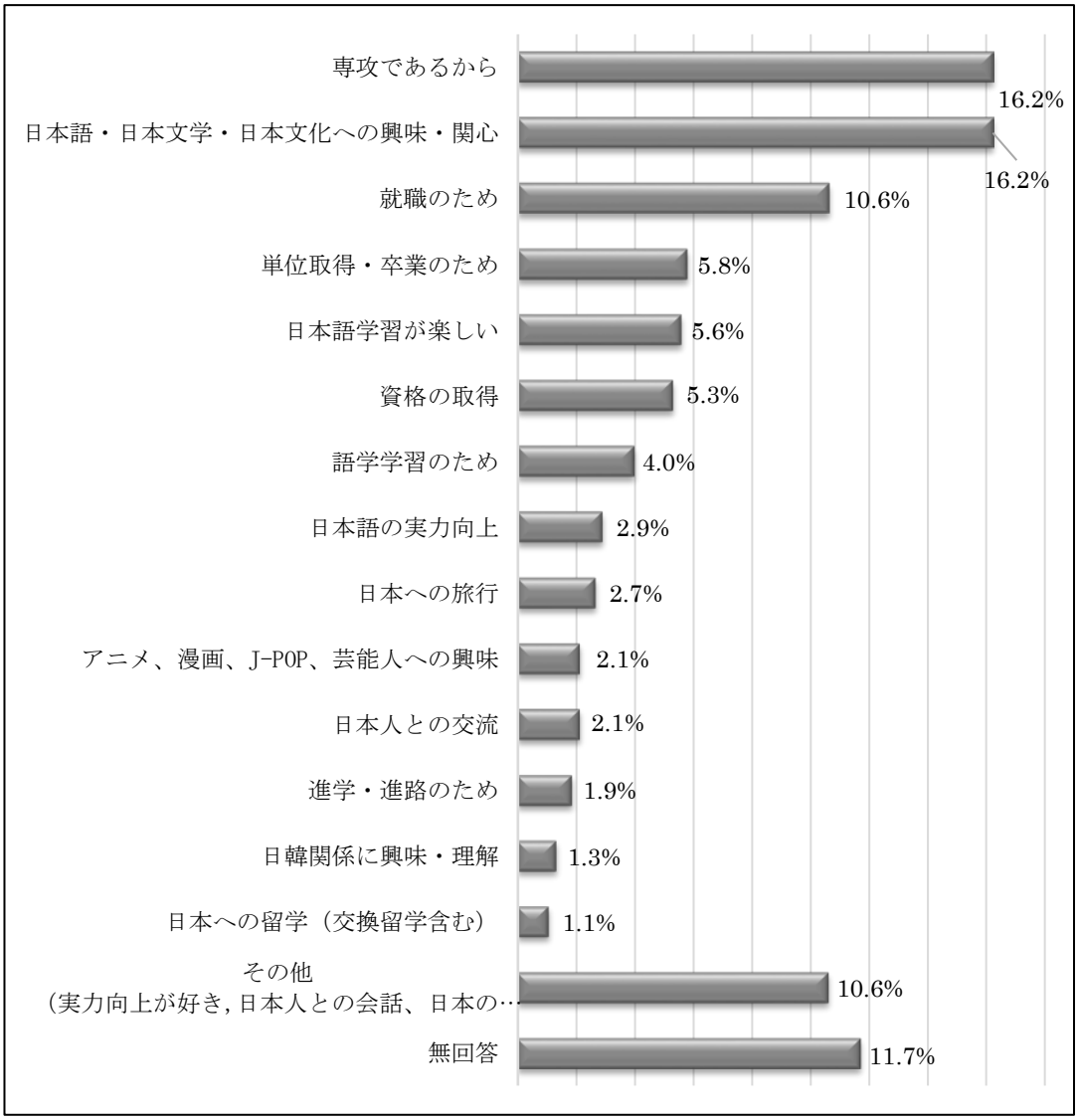

図 13　日本語学習を継続している理由（対象者全体）

結果として、「専攻であるから」（61 答、16.2%）と「日本語・日本文学・日本文化への興味・関心」（61 答、16.2%）がともに最も多い回答であった。続いて、「就職のため」（40 答、10.6%）、「単位取得・卒業のため」（22 答、5.8%）、「日本語学習が楽しい」（21 答、5.6%）、「資格の取得」（20 答、5.3%）、「語学学習のため」（15 答、4.0%）、「日本語の実力向上」（11 答、2.9%）、「日本への旅行」（10 答、2.7%）、「アニメ、漫

画、J-POP、芸能人への興味」と「日本人との交流」がそれぞれ（8 答、2.1%）、「進学・進路のため」（7 答、1.9%）の順であった。また、「その他」（40 答、10.6%）、「無回答」（44 答、11.7%）であった。

続いて、「日本語学習を継続している理由」について、専攻者と非専攻者に分けた回答の結果を図 14 に示す。

図 14 に示した専攻者と非専攻者別の「日本語学習を継続している理由」について、両者の比較を行う。回答数（複数回答可）は専攻者と非専攻者それぞれ計 188 であり、両群の回答内容は顕著に異なっていた。まず、専攻者の場合は「専攻であるから」（61 答、32.4%）という回答が最も多かった。続いて、「日本語学習が楽しい」（21 答、11.2%）、「就職のため」（20 答、10.6%）、「日本語・日本文学・日本文化への興味・関心」（14 答、7.4%）、「語学学習のため」（9 答、4.8%）、「単位取得・卒業のため」（8 答、4.3%）、「進学・進路のため」（7 答、3.7%）、「資格の取得」（5 答、2.7%）、「日本人との交流」（4 答、2.1%）、「アニメ、漫画、J-POP、芸能人への興味」（4 答、2.1%）であった。その他（24 答、12.8%）では、「交換留学のため」、「日本人との交流」、「自己満足のため」、「日本についてもっと知りたい」、「将来日本に行く計画があるから」、「日本での生活のため」、「趣味として」、「日本留学のため」、「日本に滞在の準備」、「大学に入学したから」、「もっと知りたくて」、「他に得意なものがない」などがあり、「無回答」（11 答、5.9%）もあった。

非専攻者の場合は、「日本語・日本文学・日本文化への興味・関心」（47 答、25.0%）が最も高かった。続いて、「就職のため」（20 答、10.6%）、「資格の習得」（15 答、8.0%）、「単位の取得」（13 答、6.9%）、「日本語の実力向上」（10 答、5.3%）、「日本への旅行・趣味のため」（9 答、4.8%）、「語学学習のため」（6 答、3.2%）、「日韓関係に興味・理解」（5 答、2.7%）、「日本への留学」（4 答、2.1%）、「日本人との交流」（4 答、2.1%）、「アニメ、漫画、J-POP、芸能人への興味」（4 答、2.1%）であった。その他（18 答、9.6%）では、「試験のため」、「卒業のため」、「日本に住みたい」、「適性がある」、「友達の勧め」、「日本語能力がまだ足りなくて」、「旅行」、「ラジオを聞くため」、「日韓両国の理解のため」、「日本に対してもっと知りたくて」、「習慣」、「価値があるから」、「日本料理を学びたい」、「将来日本語を使いたい」、「彼女が日本人だから」、「日本人友達作り」、「英語より易しい」、「ワーキングホリデーのため」、「字幕なしにアニメ・J-POP を見たい」などがあり、「無回答」（33 答、17.6%）もあった。

以上の結果から、専攻者の場合には「日本語学習を始めた理由」とは大きく異なり、

「専攻である」という外発的動機づけが最も多い理由であった。また、「日本語学習を始めた理由」には見られなかった「就職のため」、「進学・進路」の項目が見られた。非専攻者は、「日本語・日本文学・日本文化に興味・関心」という内発的動機づけに次いで「就職のため」という外発的動機づけの回答から、非専攻者は就職について、日本語学習の開始から維持されていることが分かった。

このように、専攻者と非専攻者の「日本語学習を継続している理由」はそれぞれ異なっている。次は、「日本語学習を将来にどう活かしたいか」について述べていく。

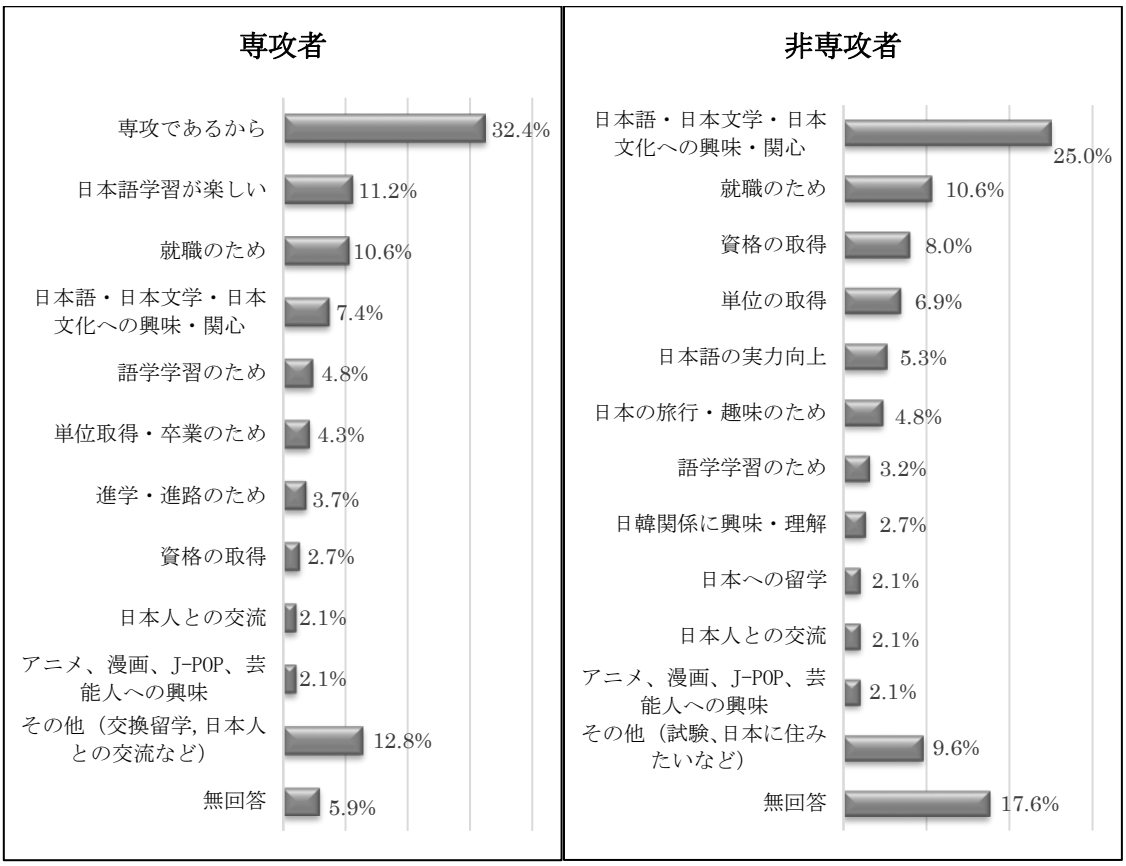

図 14　日本語学習を継続している理由（専攻者及び非専攻者）

6.4　日本語学習を将来にどう活かしたいか

図 15 に示した「日本語学習を将来にどう活かしたいか」についての回答を分析する。対象者全体の回答数（複数回答可）は計 404 であった。結果として、最も多かった回答は「就職のため」（219 答、54.2%）である。続いて、「趣味（旅行）」（41 答、10.1%）、「日本人との交流」（25 答、6.2%）、「進学」（19 答、4.7%）、「日本への留学（交換留

学含む)」(10 答、2.5%)、「日本に住みたい」(8 答、2.0%)、「資格の取得」(5 答、1.2%)、「ワーキングホリデー」(4 答、1.0%) の順であった。また、「その他」(29 答、7.2%)、「無回答」 (44 答、10.9%) であった。

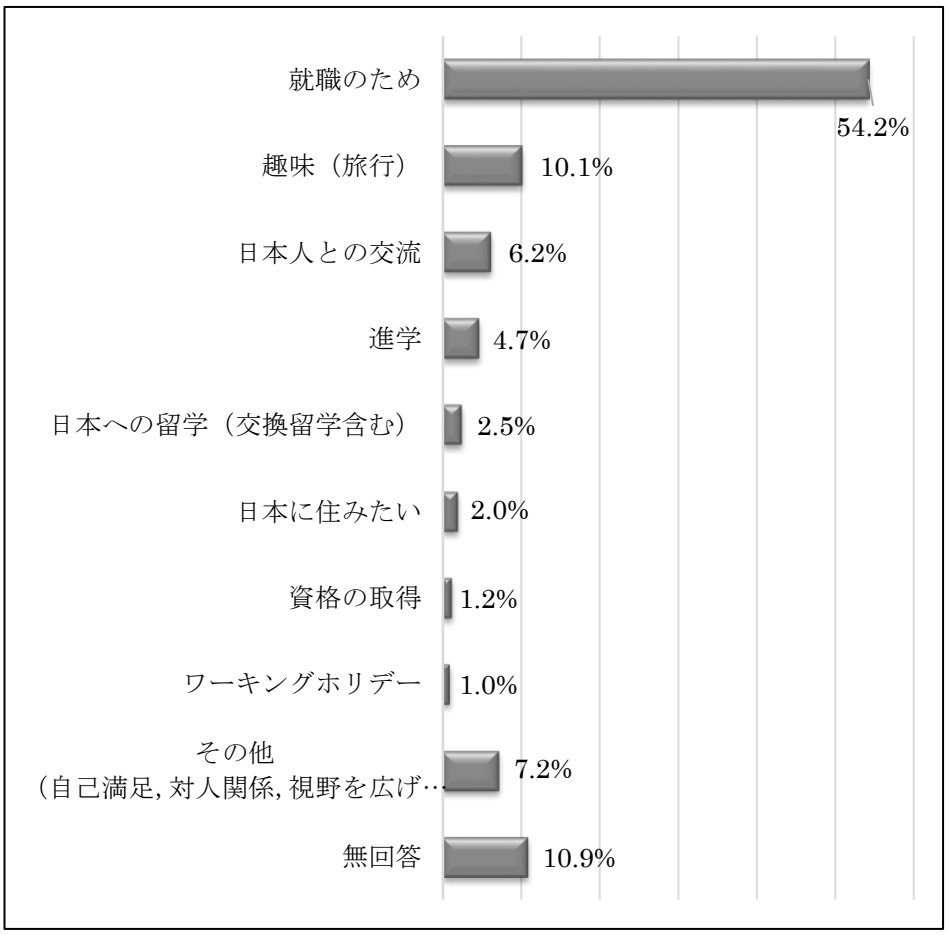

図 15　日本語学習を将来にどう活かしたいか（対象者全体）

続いて、「日本語学習を将来にどう活かしたいか」について、専攻者と非専攻者の比較を行った結果を図 16 に示す。

図 16 における「日本語学習を将来にどう活かしたいか」について、専攻者の回答数（複数回答可）は計 199、非専攻者は計 205 である。両群とも「就職のため」という回答が圧倒的に多く、専攻者は 119 答 (59.8%)、非専攻者は 100 答 (48.8%) であった。続いて、専攻者は「進学 (大学院など)」(15 答、7.5%)、「趣味 (旅行、読書)」(13 答、6.5%)、「日本人との交流」(12 答、6.0%)、「短期滞在 (交換留学など)」(6 答、3.0%)、「日本に住みたい」(3 答、1.5%) の順であった。その他 (16 答、8.0%) では、「日韓

関係を改善するため働きたい」、「日韓関係に関して正しく理解したい」、「資格の習得」、「自己満足のため」、「日本人女性と結婚希望」、「読み、書きのため」、「ただの言語学習」、「考えたことがない」、「旅行」、「活用ができればいい」、「日本の映画を見たい」、「活用しない」、「特にない」などがあり、「無回答」（15 答、7.5%）もあった。

非専攻者の場合は「就職のため」に次いで、「趣味（旅行）」（28 答、13.7%）、「日本人との交流」（13 答、6.3%）、「日本に住みたい」（5 答、2.4%）、「日本への留学」「ワーキングホリデー」「資格取得のため」（4 答、2.0%）、「進学」（3 答、1.5%）などであった。その他（15 答、7.3%）では、「対人関係のため」、「視野を広げるため」、「個人能力向上のため」、「円滑な会話のため」、「日本の文化コンテンツ利用（映画漫画など）」、「結婚のため」、「移住のため」、「音楽に活かしたい」、「多くの人に会いたい」、「ただの知識」、「活用価値はない」などがあり、「無回答」（29 答、14.1%）もあった。

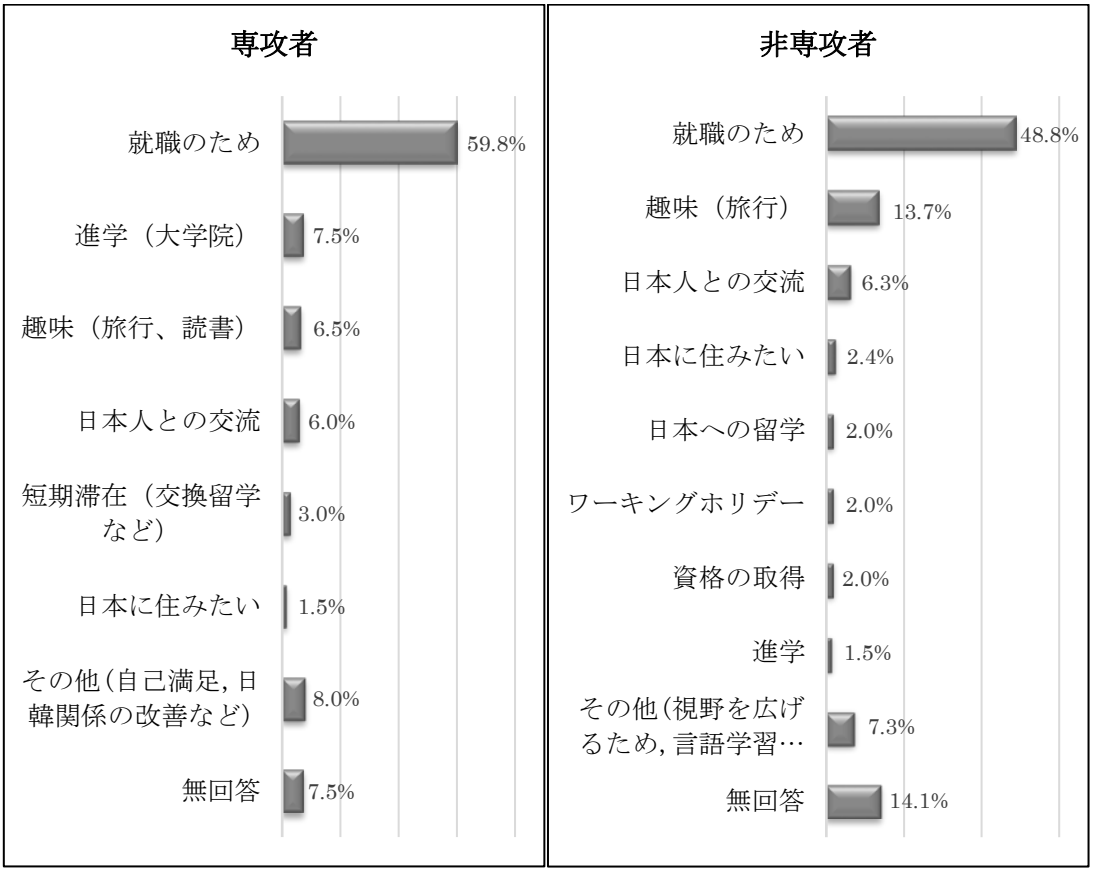

図 16　日本語学習を将来にどう活かしたいか（専攻者及び非専攻者）

以上の結果から、専攻者と非専攻者の両群とも「就職のため」という外発的動機づけの回答が 5 割前後と非常に多く、特に、両群とも「日本企業に就職あるいは日本で就職

希望」という回答が多かった。続いて、専攻者の回答では「進学」が多い傾向があるのに比べ、非専攻者は「趣味（旅行）」として活かしたいという回答が多く、専攻者とは異なる傾向が見られる。専攻者の場合は、日本語を専攻として就職と進学に繋げようとするのに対し、非専攻者の場合は、教養科目として受講していることから、日本語学習を就職以外にも趣味（旅行）などに役に立てるという意味合いが強く、日本語学習の将来の目的が専攻者とは少し異なることがうかがえる。

6.5　本章のまとめ

まず、韓国人学習者が持つ日本語学習動機づけについて、「日本を旅行したい」、「日本語の実力向上が嬉しい」、「日本人と交流をしたい（友達作りなど）」、「日本をより理解したい」、「日本に留学したい（短期留学、交換留学など）」、「日本語の学習が楽しい」などという内発的動機づけの下位項目の割合が高かった。これにより、韓国人学習者は「日本・日本人・日本語への興味・関心」から日本語学習を内発的に動機づけられていることが分かった。このような結果は、石塚（2007）の「日本語学習開始時の動機」として、「日本関連動機（日本、日本人、日本語、日本文化への興味）」が最も多かった結果と同様である。

日本語学習動機づけの結果について注目された点は、「地震・放射能に関係なく、日本語学習が好き」という回答が 7 割以上にのぼっていることである。この点からは、第 4 章の「2011 年以降の韓国人学習者や専攻者などの減少要因」として、「地震・放射能の問題」が最も大きい要因であったものの、3.11 から 7 年経過した現在は、その「災害への不安」が退行していることがうかがえる。

また、「親・友達の影響」が弱かったことは、第 4 章の 4.1.3 における 2015 年調査結果を念頭に置くと、この結果は予想外である。2015 年調査の対象者のインタビューでは「特に韓国では、親の意見が重要であり、反対している親を説得し、日本へ留学をするのが非常に難しい」、「韓国では、儒教思想を持っており、親の意見が非常に重要であると思います」などのように、親の意見が強い韓国社会の特徴を反映した内容が見られる。2 つの調査の時間差はあまり大きくはないものの、親の意見より自分の意志で判断する現在韓国の若者像を反映しているのではないかと考えられる。他方、「漫画・アニメ・J-POP」などが日本語学習に動機づけられていることに比べ、「新聞・雑誌」のような紙媒体は動機づけとしては弱く、インターネットの発達が著しい現代の韓国社会においては、何でもネットで処理する若者の行動様式がうかがえる。

続いて、専攻者と非専攻者の比較について、「道具的志向」と「日本への憧れ」という因子は、専攻者が非専攻者より有意に高く、特に「道具的志向」の下位項目である「専攻であるから」、「大学に入学するため、必要であった」、「資格取得のためである」、「卒業のための必修科目である」という項目の割合が高く、日本語学習を内発的ではなく、何かの目的達成のため、道具として外発的に動機づけていることが見られた。これは、専攻者の場合、「大学修学能力試験[23]の成績に合わせて日本語学科に入学」という道具として日本語学習を始めたという回答からもうかがえる。

次に、日本語学習動機づけと関連して「日本語学習を始めた理由」については、専攻者と非専攻者の両群とも「アニメ・漫画、J-POP、芸能人への興味」の回答が最も多く、日本語学習を始める時には「日本の大衆文化」に最も影響を受けやすいことが分かった。これは、齊藤（2004）の日本と日本人に対するイメージの形成の「日本映画、アニメ」の影響が最も高かったことと、加賀美（2014）の日本イメージの肯定的なカテゴリーの中で「大衆文化の豊かさ」が最も多かったこととも一致する。続いて、2 番目に多かった回答は「中・高校で第二外国語であった」であるが、これは、中・高校で第二外国語として学習したため、大学に入っても続けやすかったことがうかがえる。そして、「日本語・日本文学・日本文化への興味・関心」という回答が 3 番目に多かったが、これは、南（2009）の日本語を学ぶ目的として「日本語に興味があるから」、上田・瀧口・永野・山田（2014）の「日本語に関心を持った契機」として「日本に興味があった」、日本語専攻の理由として「日本語が好きで」がそれぞれ最も高かったこととは異なる結果であった。また、専攻者のみに見られた理由である「専攻であるから」は、前述した「大学修学能力試験の点数に合わせて日本語学科に入学したから」という項目と合わせて考えると、日本語学習を始めた理由を道具として動機づけていることが見られる。そして、非専攻者のみに見られた理由である「就職のため」という動機づけから、非専攻者の場合は、日本語学習を始める目的として最初から就職に焦点を当てていることもうかがえる。

続いて、「日本語学習を継続している理由」については、専攻者の場合は「専攻であるから」という外発的な理由が最も多かった。つまり、「アニメ・漫画、J-POP、芸能人への興味」を、日本語学習を始めた理由とした内発的動機づけから、外発的動機づけ

---

[23] 「大学修学能力試験」とは、1994 年度から韓国の大学入学の評価に導入された試験であり、この用語は「大学で修学できる能力を評価する試験」を意味する。

に変化しているのである。対象者の「もう始まったから」、「大学に入学したから」などという回答から見ると、専攻であるから今後も続けるしかないこと、または今後も頑張るなどという動機づけの変化が起こっている。一方、非専攻者は「日本語・日本文学・日本文化への興味・関心」という内発的な理由が最も多い点から、日本語を専攻する者と教養科目として授業を受けている者では動機づけが異なることがうかがえる。このような結果は、石塚（2007）の「現在の学習動機」として、「実用関連動機（成績、資格、就職、進学のため）」という回答が最も多かった結果とは多少異なる。そして、「進学・進路のため」のカテゴリーについては専攻者のみに見られ、「日本の旅行・趣味のため」は非専攻者にのみ見られた。また、「就職のため」については両群とも回答が見られたが、特に専攻者の場合は「日本語学習を始めた理由」では見られなかったが、学習の過程で自分の専攻分野を将来に活かしたいという調整が行われ、非専攻者は自分の専攻以外に外国語を習得して、就職する際にアピールができる点から就職に有利という判断が働いていることがうかがえる。加えて、日本語学習を始めた理由として「アニメ、漫画、J-POP、芸能人に興味」という回答が最も多かった結果に比べ、学習を継続している理由では、専攻者と非専攻者の両群ともわずか 0.2 割程度で、非常に低い割合へ変化していることが分かった。これは、日本語の学習が進むと、「アニメ、漫画、J-POP、芸能人への興味」より、「日本語・日本文化」、「就職」などへの関心がより深くなっていくのではないかと考えられる。

最後に、「日本語学習を将来にどう活かしたいか」については、専攻者（約 6 割）と非専攻者（約 5 割）の両群とも「就職のため」という外発的動機づけの回答が圧倒的に多かった。これは、「就職のため」について専攻者はもちろん非専攻者も「日系企業に就職あるいは日本での就職」という志望が多く見られたことから、「就職難」である現在の韓国社会の状況を反映していることが考えられる。続いて、専攻者は大学院などへ「進学」、非専攻者の場合は「趣味（旅行）」という回答が多かった。この結果から、専攻者の場合は、自分の専攻を大学院でも続けようとする意志が見られるが、非専攻者の場合は、日本語は自分の専攻の以外の教養科目として学習した言語であるため、旅行などの趣味として活かしたいということが考えられる。このように、「日本語学習を将来にどう活かしたいか」については、両群の目的が非常に異なっていることが分かった。

以上のように、韓国人学習者が持つ日本語学習動機づけについて分析考察した。このような動機づけは、第 5 章の韓国人学習者が持つ対日イメージから、果たしてどのように影響を受けているのであろうか。これについて、次の章で明らかにしていく。

第 7 章　対日イメージが日本語学習動機づけに与える影響

本章では、第 5 章と第 6 章において行った因子分析の結果を用いて、まず、対日イメージと日本語学習動機づけとの関連性を明らかにするため、相関分析を行う。次に、日本及び日本人に対するイメージが日本語学習動機づけに与える影響を分析するために重回帰分析を行う。その上で、韓国人学習者が持つ否定的な対日イメージが日本語学習動機づけに与える影響は何かについて明らかにする。また、自由記述から得た対日イメージが日本語学習を始める時に与える影響と、日本語学習開始の前と後における対日イメージの変化について分析を行う。

7.1　日本イメージが日本語学習動機づけに与える影響

7.1.1　日本イメージと日本語学習動機づけの関連性

日本イメージと日本語学習動機づけの関連性を明らかにするために、相関分析と重回帰分析を行った。まず、相関分析を行った結果を表 24 に示す。

表 24　日本イメージと日本語学習動機づけの相関分析の結果

	統合的志向	キャリア志向	日本文化・文学への興味	道具的志向	日本への憧れ	日本語学習志向
信頼性	**.349****	.131*	**.223****	.052	**.291****	**.282****
日本への違和感	.045	.085	.091	.117*	.026	-.093
環境の良さ	**.265****	.147**	.118*	.012	**.361****	.194**
災害への不安	.031	.079	-.004	.124*	.043	.010
個性重視	.087	.109*	.003	.087	.109*	.130*

*p<.05　**p<.01　***p<.001

表 24 に示した結果より、日本イメージの「信頼性」は、日本語学習動機づけの「統合的志向」（r=.349，p<.01）、「日本文化・文学への興味」（r=.223，p<.01）、「日本への憧れ」（r=.291，p<.01）、「日本語学習志向」（r=.282，p<.01）と弱い正の相関が見られた。

また、「環境の良さ」は、「統合的志向」（r=.265，p<.01）、「日本への憧れ」（r=.361，p<.01）と弱い正の相関が見られた。一方、日本イメージの「日本への違和感」、「災害への不安」、「個性重視」、日本語学習動機づけの「キャリア志向」と「道具的志向」は、因子別の相関が見られなかった。

次に、上述した相関分析の結果を基に、「日本イメージが日本語学習動機づけに与える影響」について重回帰分析（第 4 章と第 5 章の因子分析の結果において、因子間に相関関係が見られたため、ステップワイズ回帰分析法[24]を用いた）を行った。また、日本イメージが日本語学習動機づけに与える影響を見るため日本イメージの因子を説明変数にして、日本語学習動機づけの因子を従属変数として分析を行った。その結果を表 25 に示す。

表 25 における結果を見ると、日本イメージの「信頼性」は、日本語学習動機づけの「統合的志向」（β=.289，p<.001）、「日本文化・文学への興味」（β=.228，p<.001）、「日本への憧れ」（β=.176，p<.01）、「日本語学習志向」（β=.282，p<.001）、「日本への違和感」は「キャリア志向」（β=.110，p<.05）、「日本文化・文学への興味」（β=.103，p<.05）、「環境の良さ」は、「統合的志向」（β=.151，p<.01）、「キャリア志向」（β=.164，p<.01）、「日本への憧れ」（β=.291，p<.001）、「災害への不安」は「道具的志向」（β=.124，p<.05）にそれぞれ正の影響が見られた。また、日本イメージの「信頼性」、「日本への違和感」、「環境の良さ」、「災害への不安」は、日本語学習動機づけの「統合的志向」、「キャリア志向」、「日本文化・文学への興味」、「道具的志向」、「日本の憧れ」、「日本語学習志向」のそれぞれに対して、14%（決定係数（R^2））、3%、6%、2%、16%、8%を説明している。

以上の結果から、日本語を学習するにあたって、日本に対する「信頼性」と「環境の良さ」のような肯定的なイメージは学習動機づけに影響が多く見られるが、「日本への

---

[24] ステップワイズ法とは、「一段一段」という意味である。すなわち、最初から全部の予測変数を用いて回帰式を求めるのでなく、1 変数ずつ、その重み（編回帰係数）の有意性を確認しながら回帰式のなかへ入れてゆくのである（山際勇一郎・田中敏（1997）『ユーザーのための心理データの多変量解析法：方法の理解から論文の書き方まで』p.226）。ステップワイズは、モデルの説明変数を説明力が弱かったら減らしたり、モデルの当てはまり具合が悪かったら説明変数を増やしたりしながら、モデルを作成していく方法である（米川・山崎（2010）『超初心者向け SPSS 統計解析マニュアル統計の基礎から多変量解析まで』p.91）。

違和感」と「災害への不安」という否定的なイメージも、弱いものの学習動機づけに影響力があることが分かった。

表 25　日本イメージが日本語学習動機づけに与える影響の重回帰分析の結果
（ステップワイズ回帰分析による標準偏回帰係数（β）[25]と決定係数（R²）[26]）

説明変数	統合的志向	キャリア志向	日本文化・文学への興味	道具的志向	日本への憧れ	日本語学習志向
信頼性	.289***	.086	.228***	.026	.176**	.282***
日本への違和感	.086	.110*	.103*	.098	.083	-.078
環境の良さ	.151**	.164**	.036	-.005	.291***	.098
災害への不安	-.057	.039	-.080	.124*	-.039	-.056
個性重視	-.005	.084	-.051	.069	.021	.068
決定係数（R²）	.141***	.033**	.060***	.015*	.156***	.080***

*p<.05　**p<.01　***p<.001

7.1.2　日本イメージが日本語学習を始める時に与える影響

「日本イメージはあなたが日本語学習を始める時に影響を与えましたか」という質問について、対象者全体と専攻者・非専攻者別に分析を行った。その結果を図 17 と図 18

[25] 標準偏回帰係数（β）は、モデルに投入された変数のうち、それぞれが目的変数（従属変数）に与えている影響を総合に比較する場合の指標である（石川・前田・山崎（編）(2010)『言語研究のための統計入門』p.126)。標準偏回帰係数（β）は、重回帰分析において独立変数の影響力の強さを表す値であり、大きい標準偏回帰係数を持つ独立変数は、強く従属変数に影響を与えている（田中，2012：70)。

[26] 決定係数（R²）とは、重相関係数（R、回帰式によって得られた予測値と実際に観測された目的変数との相関の強さを示す値で、複数の説明変数を持つ重回帰分析から得られる相関係数なので「重」相関係数と呼ぶ）の 2 乗値のことで、データ（正確には「変動」）のうち回帰式で説明される割合を示し、一般に「説明力」や「寄与率」と呼ばれる値である（石川・前田・山崎（編）(2010)『言語研究のための統計入門』p.123)。

に示す。

図 17 では、日本イメージが日本語学習を始める時に与える影響の有無についての回答結果である。その内訳は、「影響あり」(83 名、23.4%)、「影響なし」(235 名、66.2%)、「無回答」(37 名、10.4%) もあった。その理由について回答した者の計 148 名 (41.7%) においては、「影響あり」は 67 名 (18.9%)、「影響なし」は 81 名 (22.8%) となった。理由の具体的な内容については、図 18 において、専攻者と非専攻者の比較の際に述べる。まず、図 17 の結果において、日本語学習を始める時に日本イメージが与える影響は 「影響あり」が対象者全体の 4 分の 1 弱に比べ、「影響なし」が 3 分の 2 で、影響がないと考える者の割合が非常に高かった。

。

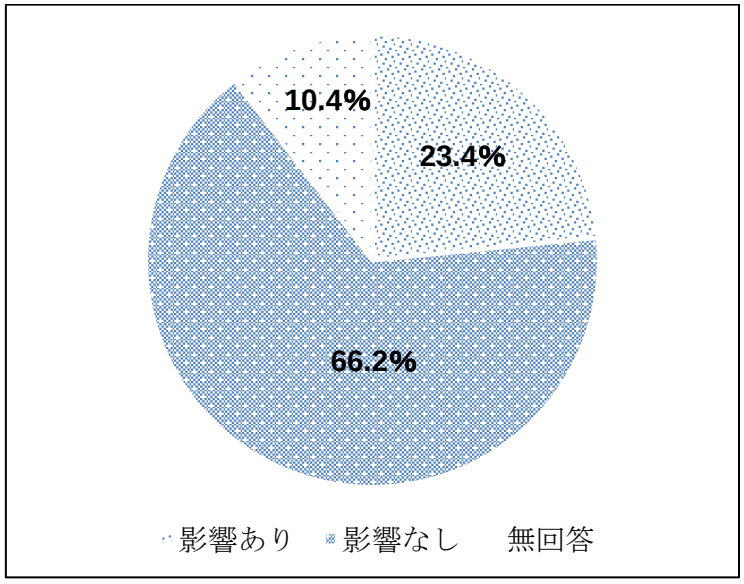

図 17　日本イメージが日本語学習を始める時に与える影響（対象者全体）

次に、図 18 の専攻者・非専攻者別の日本イメージが日本語学習を始める時に与える影響について、専攻者の場合は「影響あり」（47 名、26.7%）、「影響なし」（115 名、65.3%）、「無回答」（14 名、8.0%）であり、非専攻者の場合は「影響あり」（36 名、20.1%）、「影響なし」（120 名、67.0%）、「無回答」（23 名、12.9%）であった。

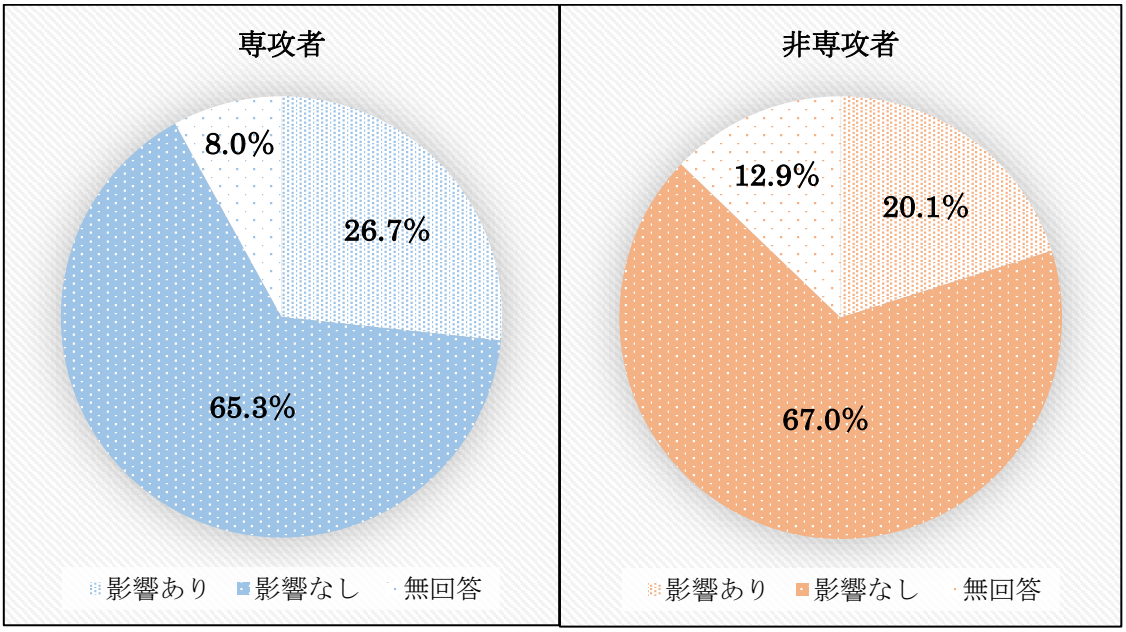

図 18　日本イメージが日本語学習を始める時に与える影響（専攻者及び非専攻者）

専攻者の場合、その理由について回答した計 80 名（45.5%）において、「影響あり」は 37 名（21.0%）であった。具体的な内容を見ると、「放射能と地震のため、日本語を学習しても意味がないかと思っていた」、「自然災害が頻発しているが、対応が上手であるというイメージ」、「歴史問題に敏感だから不安なところがあった」、「日本のイメージは日本語学習に影響を与えるというしかない」、「言語とその国に対するイメージは密接な関係があるから」、「言語を学ぶ際には社会環境も重要だと思ったから」、「日本の文化から影響を得た」、「日本の大衆文化に関心があった」、「アニメが面白くて気楽に勉強を始めた」、「留学先として生活環境が良い」、「初めて日本に旅行した際、きれいな道や親切さが忘れられない」、「建物の設備・施設が良く、独創的である」、「日本の企業に入社したい」などであった。

「影響なし」の理由について回答した者は 43 名（24.4%）であった。具体的な理由は、「成績に合わせて入学したから」、「大学に入学してから日本語を勉強し始めたので、自発的ではなかった」、「高校の第二外国語であったから」、「義務だったから」、「イメージが形成される前、日本語学習を始めたから」、「子供の頃から日本文化を体験したから」、「日本語学習を始めた後に日本のイメージが変化したから」、「日本語を始めた時には地震や放射能の問題がなかった」、「日本語の勉強を始める際には、日本に対する知識をあまり持ってなかった」、「言語に対する知的好奇心として勉強を始めた」、「日本の国家のイメージは日本語学習に影響していない」、「日本語それ自体

が好き」、「ただ日本語学習が楽しかったから」、「言語を学ぶことに対して影響は多くない」、「日本に対するイメージよりゲームなどのコンテンツに関心があった」、「日本のメディア媒体を通じて学んだのでイメージはあまり関係がない」などであった。

非専攻者の場合、その理由について回答した計68名（38.0%）において、「影響あり」の理由について回答した者は30名（16.8%）であった。具体的な理由は、「日本での就職や留学を希望できる」、「日本は就職率が高いので日本で就職したい」、「韓国より先進国だから」、「社会システムが良い」、「良いイメージの国の言語を学習したい」、「建物や自然環境の調和を見て」、「落ち着いている雰囲気」、「先進国でアニメが好き」、「漫画が好きで日本語も学びやすいと思った」、「日本文化を楽しみたかった」、「食文化に関心」、「楽しいことが多く、趣味生活のため」、「旅行、道がきれい」などであった。

「影響なし」の理由について回答した者は 38 名（21.2%）であった。その理由は「英語より日本語がやさしいため」、「英語はしたくなくて」、「学習しやすい言語だから」、「ただ自分の日本語の発音が良かったから」、「言語自体に魅力がある」、「そもそも良いイメージであった」、「日本語学習と日本イメージは関係ない」、「韓国の報道と実際は異なるため」、「自分の意志ではなかったから」、「漫画で日本語に接したから」、「祖父の影響」、「好きな人の影響だったから」、「気にならない」などであった。

以上のように、「日本イメージはあなたが日本語学習を始める時に影響を与えましたか」という質問については、専攻者と非専攻者の両群とも、「影響なし」は6割以上に上り、「影響あり」に比べ圧倒的に高い割合を占めた。しかし、「影響あり」として、「地震・放射能」、「日韓関係（歴史問題）」、「日本の文化」などを理由にした専攻者と、「日本での就職希望」、「旅行（趣味）」などを理由としている非専攻者の、両群の意見は異なっていた。また、「影響なし」については両群とも外発的な理由が見られた。

7.1.3　日本語学習開始の前と後における日本イメージの変化

韓国人学習者の日本語学習開始の前と後における日本イメージの変化について、対象者全体と専攻・非専攻者別に分析を行った。その結果を図 19 と図 20 に示す。

まず、図 19 における日本語学習開始の前と後における日本イメージの変化の対象者全体の内訳は、「変化あり」（64 名、18.0%）、「変化なし」（262 名、73.8%）、「無回答」（29 名、8.2%）もあった。この結果から、日本語を学習し始めた後の日本に対するイ

メージの変化は少ないことが分かった。具体的な内容については、図 20 における専攻者と非専攻者の比較の際に述べる。

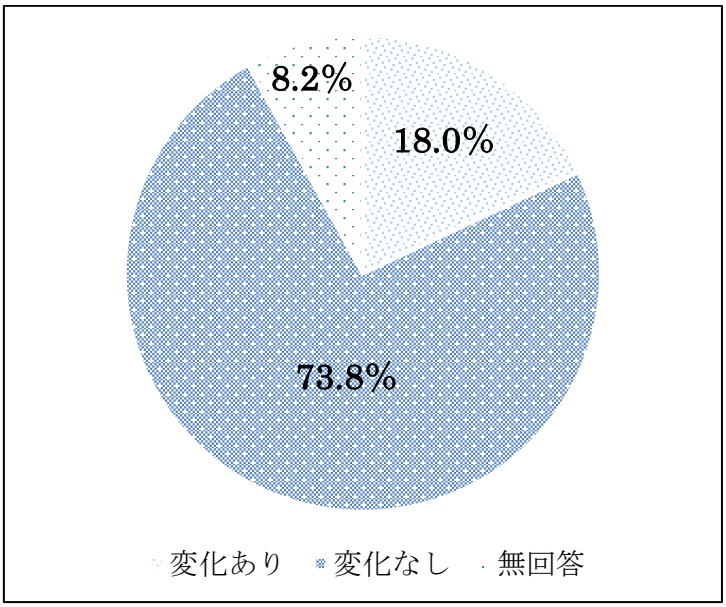

図 19　日本語学習開始の前と後における日本イメージの変化（対象者全体）

次に、図 20 に示すように、専攻者・非専攻者別の日本語学習開始の前と後における日本イメージの変化について、専攻者の場合は「変化あり」（43 名、24.4%）、「変化なし」（119 名、67.6%）、「無回答」（14 名、8.0%）であり、非専攻者の場合は「変化あり」（21 名、11.7%）、「変化なし」（143 名、79.9%）、「無回答」（15 名、8.4%）であった。

専攻者の場合、その理由について回答した計 73 名（41.5%）において、「変化あり」は 35 名（19.9%）であった。具体的な内容を見ると、「メディアからの影響で否定的であったが、日本語学習後、日本の新しい面を発見するようになって肯定的に変わった」、「メディアを通じて否定的な面や肯定的な面に接したから」、「ニュースや記事など多様な要素」、「歴史問題が気になったが、なくなった」、「政治的な面だけ見ていたが、全体的な観点から見るように変わった」、「勉強をする中で歴史や他の関連知識に触れたから」、「社会・政治について勉強した後、先進国だと変化」、「先進国だと言っているが、実際はそうではないという SNS 上での様々な話を聞いて変化」、「昔は悪い国だと思っていた」、「日本に対する新しい事実を学んだから」、「日本について勉強すればするほど、韓国と文化が大きく異なる」、「日本語授業の時間で日本について学びながらイメージが

変わった」、「日本文化を学ぶようになって」、「文化的に良い国だと思う」、「身近な国」、「否定的から肯定的に変化」、「思ったより見習うことが多い」、「広告などから見える独創性・芸術性を見て、こんな感じもあるんだと分かるようになった」、「イメージが変わったというより多くの情報を得るようになった」、「日本への旅行が多かったから」、「行きたい場所が多くできた」、「少し肯定的に変わった」、「思っていたよりもっと利己的な国」などであった。

「変化なし」の理由について回答した者は 38 名（21.6%）であった。具体的な理由を見ると、「政治的・歴史的問題であまり変わっていない」、「地震と放射能、歴史問題がある国だと認識される」、「日本に対する固定観念は変わらない」、「子供の頃から受けてきた教育から形成された固定観念なので変わらない」、「ニュースの報道をよく見ているので、それが日本語学習をしたところでイメージは変わらない」、「内閣は変わったが、日韓問題で大きく変わったことはない気がする」、「私が知っていたイメージとあまり変わらなかった」、「以前から持っていたイメージと同じ」、「日本イメージより、社会科学や歴史書籍が最も影響を与える」、「最初、日本語を様々な面から一人で勉強して、偏見はあまりなかったから」、「日本語を勉強したばかりである」、「まだよく分からない」、「言語だけを学んだのでイメージの変化には影響がない」、「日本語学習では分からない」、「いつも大好き」などであった。

非専攻者の場合、その理由について回答した計 69 名（38.6%）において、「変化あり」の理由について回答した者は 18 名（10.1%）であった。その具体的な理由を見ると、「日本語学習後、政治・社会についてもっと分かるようになった」、「日本人の先生との対話や授業で変わった」、「日本語学習後、多くのことが分かるようになった」、「文化教育も受けるのでイメージが変わる契機になった」、「歴史問題のために否定的だったが、日本文化と接触して肯定的に変わった」、「韓国のメディアの報道が間違っているところが多かった」、「ニュースを通して」、「価値観が明確になった」、「長所もある国だと思う」、「好き嫌いはなかったが、今はもっと知りたくなった」、「漢字の国だ」、「過去を見ない国には未来はない」などであった。

「変化なし」の理由について回答した者は 51 名（28.5%）である。その具体的な理由を見ると、「固定観念を大きく持っているから」、「メディアで接したそのままである」、「政治的なイメージはまだ否定的である」、「歴史的事実と政治関連の発言は変わらないから」、「歴史歪曲、独島問題をめぐる紛争の継続」、「思ったことと変わらない」、「これまで聞いているイメージと同じ」、「基本的に常識そのままでの印象である」、「日本につ

いて勉強がもっと必要である」、「もっと分かるようになったが認識が変わるほどではない」、「日本語を学んだが、日本について学んだわけではない」、「日本に行ったことがない」、「経験があまりない」、「変わるきっかけがなかった」、「深く考えたことがない」、「よく分からない」、「学習とイメージとは関係ない」、「日本語学習は日本文化教育ではない、日本に関する資料は多い」、「日本語だけ学習」、「肯定的から肯定的に」、「周りで日本は悪い国であると考える傾向があるが、私は私なりに考えたい」などであった。

以上のように、日本語学習開始の前と後における日本イメージの変化については、専攻者（2.5 割程度）は非専攻者（1 割程度）より、日本語学習を通して日本イメージを変化させており、非専攻者（約 8 割）は専攻者（約 7 割程度）に比べ、日本語学習を通した日本イメージの変化はないことが分かった。これについては、日本という国に対して「日韓関係（歴史・政治の問題）」、「メディアからの影響」、「日本に対する固定観念」、「日本語授業の影響」などの理由が多く見られた。また、日本イメージに対して「変化あり」の理由について、専攻者（約 2 割）か非専攻者（1 割）より 2 倍程度回答しており、両群の共通点としては、「歴史・政治」、「日本文化」などに対して、肯定的イメージへの変化が否定的イメージへの変化より多く見られた。

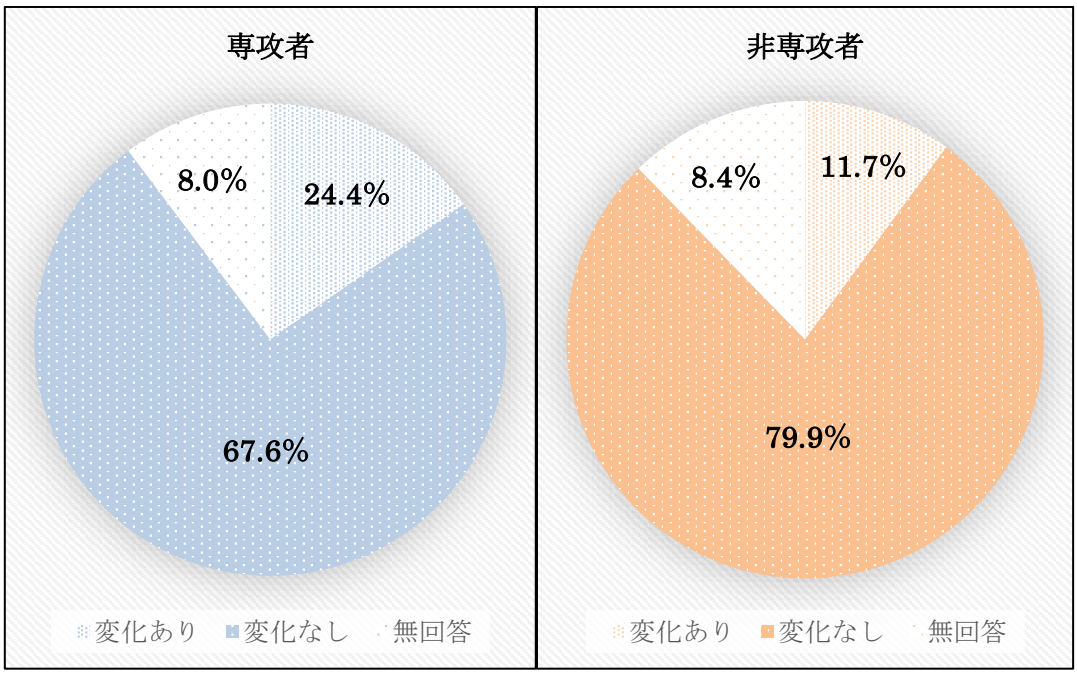

図 20　日本語学習開始の前と後における日本イメージの変化（専攻者及び非専攻者）

7.2　日本人イメージが日本語学習動機づけに与える影響

7.2.1　日本人イメージと日本語学習動機づけの関連性

日本人イメージと日本語学習動機づけの関連性について、相関分析を行った結果を表26に示す。

表26に示す結果では、日本人イメージの「信頼性」は、日本語学習動機づけの「統合的志向」(r=.315, p<.01)、「日本への憧れ」(r=.216, p<.01)、「日本語学習志向」(r=.286, p<.01）と、「二面性」は、「統合的志向」（r=.284，p<.01)、「日本への憧れ」（r=.215, p<.01）とそれぞれ弱い正の相関が見られた。「興味・関心」は、「統合的志向」(r=.602, p<.01)、「日本文化・文学への興味」(r=.408, p<.01)、「日本への憧れ」(r=.427, p<.01)、「日本語学習志向」（r=.490，p<.01）と中程度の正の相関が見られた。

表 26　日本人イメージと日本語学習動機づけの相関分析の結果

	統合的志向	キャリア志向	日本文化・文学への興味	道具的志向	日本への憧れ	日本語学習志向
信頼性	.315**	.062	.173**	-.003	.216**	.286**
冷たさ	-.098	.105*	-.034	.180**	.014	-.121*
二面性	.284**	.116*	.149**	.144**	.215**	.085
興味・関心	.602**	.128*	.408**	-.002	.427**	.490**

*p<.05　**p<.01　***p<.001

以上の結果から、日本人イメージの「信頼性」、「二面性」、「興味・関心」は日本語学習動機づけと相関が見られ、特に「興味・関心」は他のイメージよりやや高い相関があることが分かった。一方、日本語学習動機づけの「キャリア志向」と「道具的志向」とは相関が見られず、日本人イメージの「冷たさ」も日本語学習動機づけのすべての因子に相関がないことが分かった。

次に、前述した相関分析の結果を基に、「日本人イメージが日本語学習動機づけに与える影響」について重回帰分析（第4章と第5章の因子分析の結果で、因子間に相関関係が見られたため、ステップワイズ回帰分析法を用いた）を行った。日本人イメージが日本語学習動機づけに与える影響を見るため、日本人イメージの因子を説明変数にして、

日本語学習動機づけの因子を従属変数として分析を行った。その結果を表 27 に示す。

表 27　日本人イメージが日本語学習動機づけに与える影響の重回帰分析の結果
（ステップワイズ回帰分析による標準偏回帰係数（β）と決定係数（R²））

説明変数	統合的志向	キャリア志向	日本文化・文学への興味	道具的志向	日本への憧れ	日本語学習志向
信頼性	-.038	-.008	-.053	.009	-.041	.043
冷たさ	-.074	.127*	.029	.180**	.040	-.048
二面性	.160***	.052	.063	.096	.127**	-.024
興味・関心	.567***	.148**	.408***	.025	.400***	.490***
決定係数（R²）	.386***	.032**	.167***	.032**	.198***	.241***

*p<.05　**p<.01　***p<.001

表 27 に示す結果では、日本人イメージの「冷たさ」は日本語学習動機づけの「キャリア志向」（β=.127，p<.05）、「道具的志向」（β=.180，p<.01）、「二面性」は、「統合的志向」（β=.160，p<.001）と「日本への憧れ」（β=.127，p<.01）、「興味・関心」は、「統合的志向」（β=.567，p<.001）、「キャリア志向」（β=.148，p<.01）、「日本文化・文学への興味」（β=.408，p<.001）、「日本への憧れ」（β=.400，p<.001）、「日本語学習志向」（β=.490，p<.001）に正の影響が見られた。また、日本人イメージの「冷たさ」、「二面性」、「興味・関心」は、日本語学習動機づけのそれぞれに対して、39%（決定係数（R²））、3%、17%、3%、20%、24%を説明している。

以上の結果から、特に、日本人イメージの「興味・関心」は、日本語学習動機づけの「道具的志向」以外の全因子に影響が見られ、JFL 環境における日本語学習者は、日本人への興味・関心に学習が強く動機づけられていることが明らかとなった。さらに、注目すべき点として、日本人イメージの「信頼性」は日本語学習動機づけと相関が見られたが、重回帰分析を行った結果では日本語学習動機づけに影響が見られなかったことが挙げられる。そして、日本人に対する否定的なイメージだと思われる「冷たさ」と「二面性」は、日本語学習動機づけに正の影響が見られることが分かった。

7.2.2　日本人イメージが日本語学習を始める時に与える影響

「日本人イメージはあなたが日本語学習を始める時に影響を与えましたか」という質問について、対象者全体と専攻者・非専攻者別に分析を行った。その結果を図 21 と図 22 に示す。

まず、図 21 における日本人イメージが日本語学習を始める時に与える影響の有無について対象者全体の内訳は、「影響あり」(45 名、12.7%)、「影響なし」(270 名、76.1%)、「無回答」(40 名、11.3%) であった。その理由について回答した者の計 98 名 (27.6%) において、「影響あり」は 32 名（9.0%)、「影響なし」は 66 名（18.6%）であった。具体的な内容については、図 22 における専攻者と非専攻者の比較の際に述べる。

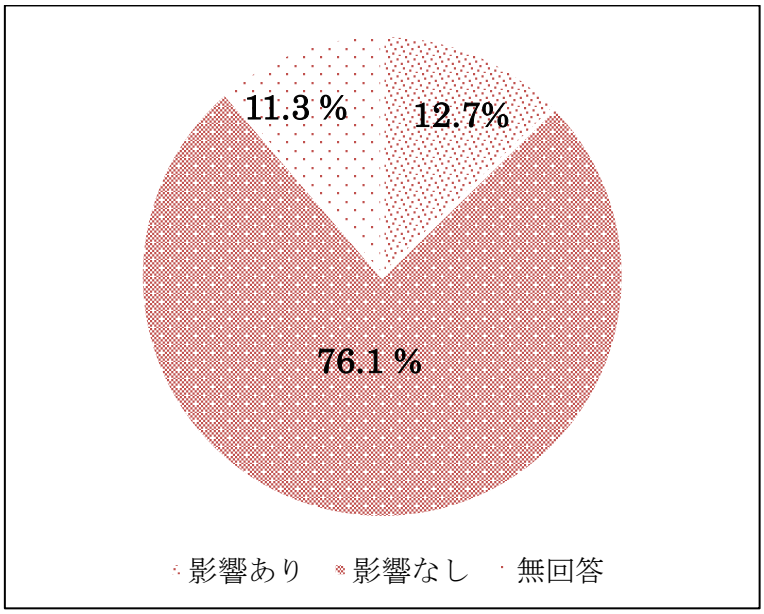

図 21　日本人イメージが日本語学習を始める時に与える影響（対象者全体）

続いて、図 22 に示すように、日本人イメージが日本語学習を始める時に与える影響について、専攻者の場合は「影響あり」(27 名、15.3%)、「影響なし」(131 名、74.4%)、「無回答」（18 名。10.2%）であり、非専攻者の場合は「影響あり」（18 名、10.1%)、「影響なし」（139 名、77.6%)、「無回答」（22 名、12.3%）であった。

専攻者の場合、その理由について回答した計 49 名（27.8%）において、「影響あり」は 18 名（10.2%）であった。その具体的な内容を見ると、「親切な日本人に会って会話ができて良かったから」、「日本人の優しさで旅行が楽しかった」、「韓国人より日本人の方が礼儀正しい」、「親切なイメージから」、「仕事や生活に徹底的でしっかりしているこ

とを見習うべきだと考えた」、「日本文化を持っている日本人と親しくなりたかったから」、「日本人の友達と親しくなったから」、「日本人についてもっと知りたくて」、「二面的な人が多いと聞いたことがあるから」、「日本語の表現で曖昧な表現が多く、日本人に対する固定観念ができた」などであった。

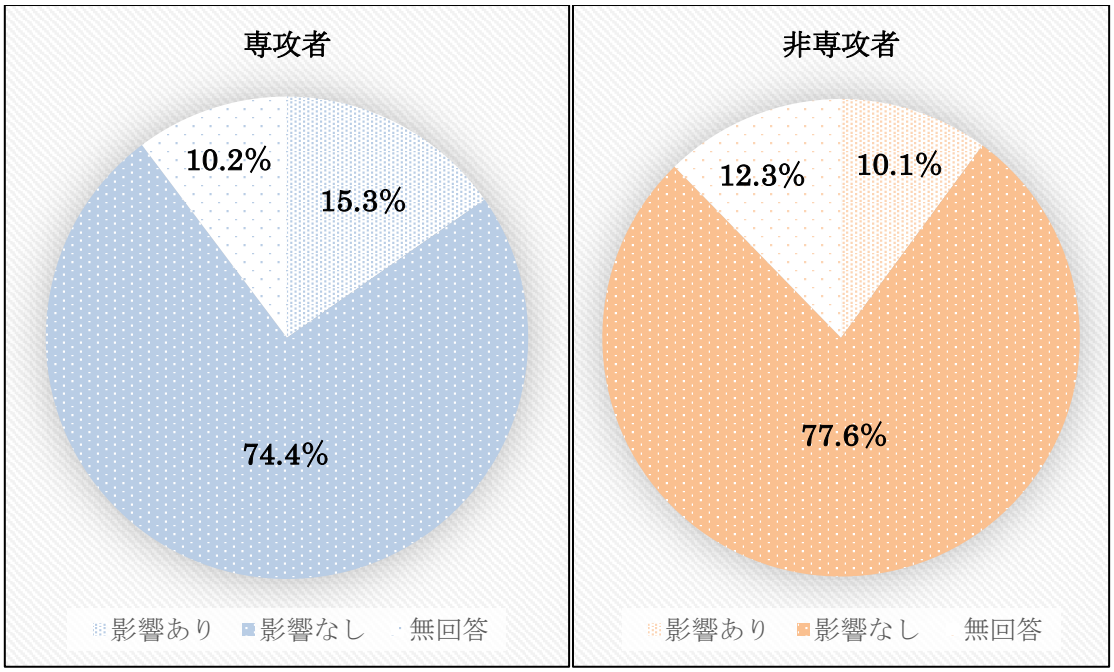

図 22　日本人イメージが日本語学習を始める時に与える影響（専攻者及び非専攻者）

「影響なし」の理由について回答した者は 31 名（17.6%）で具体的な理由は、「試験の成績をもとに日本語専攻に決めたから」、「他の言語が学びたくて、専攻を選択したから」、「日本語学習は学校の教科であったから」、「実際に日本で生活した後、イメージが変わったから」、「日本語学習を始めた後、具体的なイメージを持つようになったから」、「日本人より日本文化に関心を持っていた」、「偏見なく始めた」、「日本語を始めた際には日本人に対する知識がなかったから」、「まだ、日本人と交流したことがない」、「ただ日本語が面白かったから」、「日本人イメージは日本語学習に影響しない」、「イメージと日本語を学ぶのはあまり関係がないと考えた」などであった。

非専攻者の場合、その理由について回答した計 49 名（27.4%）において、「影響あり」の理由について回答した者は 14 名（7.8%）であった。具体的な理由を見ると、「人と言語はお互いに影響を与える」、「日本人に日本語を学んでイメージが良かったから」、「日本にホームステイした時の日本人の親切さが影響した」、「礼儀正しく、相手に配慮

する」、「旅行中、日本人の親切さを経験して」、「日本人は気配り上手で、旅行した際に日本人と話したかったから」、「日本人の友達と親しくなりたい」、「日本は韓国より先進的だという意識を持っており、親切であるが、建前的な面もある」、「映画で見られる日本人の性格」、「自分の性格と合うから」などであった。

「影響なし」の理由について回答した者は 35 名（19.6%）であった。その具体的な理由は「日本語学習開始前は日本人に会ったことがない」、「普段日本人との接触の機会が少ない」、「日本語学習後に日本人について分かるようになった」、「日本語学習を始めてから旅行した後、分かった」、「漫画で日本語に接したから」、「ただ日本語が面白かったから」、「日本語自体に関心があったから」、「日本人に会いたくて学習するわけではない」、「人間関係は学習目的ではない」、「日本人のイメージは日本語学習と関係ない」、「イメージと日本語勉強を関連して考えたことはない」、「肯定や否定の感情がなかった」などであった。

以上のように、日本人イメージが日本語学習を始める時に与える影響として、「影響あり」については、両群の共通点として日本人との接触を通した日本人の親切さ、やさしさ、礼儀正しいなどが多く見られた。「影響なし」については、専攻者の場合は外発的な理由の他、日本語学習を始める時点では日本人イメージが形成されていなかったことが理由とされている。非専攻者の場合は日本人との接触機会が少なく、また日本語学習開始前には日本人と日本語学習を結び付けていないなどの理由が見られた。

7.2.3　日本語学習開始の前と後における日本人イメージの変化

韓国人学習者の日本語学習開始の前と後における日本人イメージの変化について、対象者全体と専攻者・非専攻者別に分析を行った。その結果を図 23 と図 24 に示す。

まず、図 23 の日本語学習開始の前と後における日本人イメージの変化の有無について、対象者全体の内訳は、「変化あり」（95 名、26.8%）、「変化なし」（232 名、65.3%）、「無回答」（28 名、7.9%）であった。その理由について回答した者の計 155 名（43.7%）において、「変化あり」は 79 名（22.3%）、「変化なし」は 76 名（21.4%）であった。具体的な内容については、図 24 における専攻者と非専攻者の比較の際に述べる。

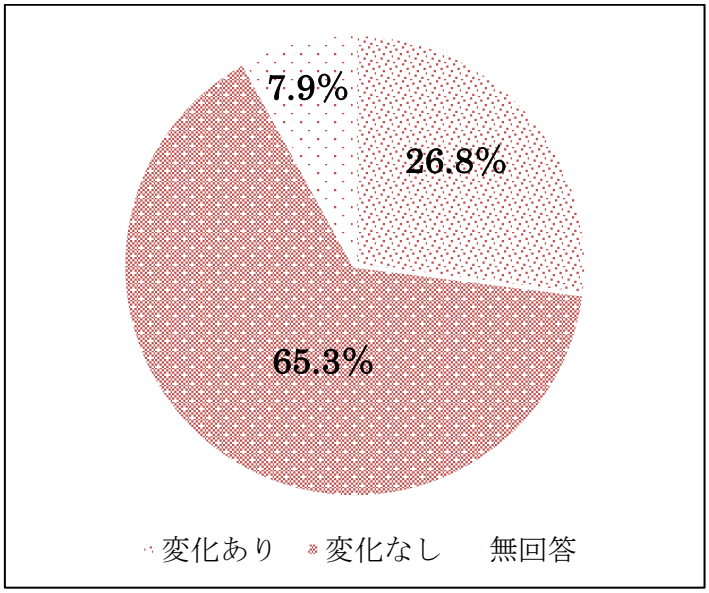

図 23　日本語学習開始の前と後における日本人イメージの変化（対象者全体）

続いて、図 24 に示すように、日本語学習開始の前と後における日本人イメージの変化について、専攻者の場合は「変化あり」（63 名、35.8%）、「変化なし」（99 名、56.3%）、「無回答」（14 名、7.9%）であり、非専攻者の場合は「変化あり」（32 名、17.9%）、「変化なし」（133 名、74.3%）、「無回答」（14 名、7.8%）であった。

専攻者の場合、その理由について回答した計 84 名（47.7%）において、「変化あり」は 52 名（29.5%）であった。その具体的な内容を見ると、「ニュースで嫌韓が多かったが、実際には可愛くて親切」、「嫌韓の話を聞いていたので怖かったが、実際旅行してみると、親切な人が多かった」、「冷淡だと思ったが優しい人が多かった」、「以前はよく分からなかったが、思ったより親切でやさしい」、「親切さを感じた」、「外国人に親切」、「思ったより温かい」、「思ったよりやさしい」、「日本語学習前は先入観と聞いた体験談だけだったが、直接会ってみたら良いイメージであった」、「日本語学習後、日本人との会話ができ、日本人に対するイメージが変わった」、「日本語学習を通して、日本人に対する偏見を多数修正した」、「韓国人と似ている面が多いと思う」、「意外に韓国人と変わらない」、「日本人の友達とたくさん付き合うようになったため」、「韓国で活動する芸能人をみて」、「日本人に世話になったことがある」、「韓国人のように歴史問題に敏感だと思ったが、全然関心がなかった」、「日本人は悪い人だと思っていたが、日本人と交流するうちに肯定的に変わった」、「静かな人が多いと思ったが、韓国人と差があまりない」、「親しくなった」、「日本人との直接経験を通してイメージが変わった」、「日本に対する

認識が変わったので日本人に対する認識も変わった」、「さまざまな日本人論を学びながら少し変わった」、「思ったより日本人はもっと一生懸命生活をしているようだ」、「日本について勉強すればするほど、考えが深くなり国民性を分かるようになると思う」、「もっと理解するようになり、肯定的に変わった」、「日本の男性は良くない、映画とドラマを見ると良くない主人公が多い」、「やさしいが、本音が分からない」、「表と裏が異なり、正直に言えない」、「優しいと思ったが、裏では何を考えている分からないと思うようになった」、「表現を直接しない」、「日本人はみんな親切だと思ったが、韓国人とあまり変わらない」、「親切ではないところもある」、「いつも優しいわけではないことをたくさん感じた」などであった。

「変化なし」の理由について回答した者は 32 名（18.2%）であった。具体的な理由は、「いつも親切」、「そもそも日本人が好き」、「そもそも良いイメージ」、「偏見がない、多くの日本人と接触したい」、「イメージが変わるほどの経験ができなかった」、「知っていることと接触して知ったイメージは多く変わらない」、「冷たいイメージ」、「学習によってイメージは変化しない」、「親切であるが、個人的に日韓関係のような敏感なところに触れたくない」、「まだ分からないところが多い」などであった。

非専攻者の場合、その理由について回答した計 71 名（39.7%）において、「変化あり」の理由について回答した者は 27 名（15.1%）であった。その具体的な理由は、「メディアのイメージとは異なり、実際にはとても親切で教養がある」、「日本人との直接経験を通して」、「否定的イメージであったが、日本に旅行した後、親切な日本人に出会い、肯定的に変わった」、「日本人と接触してもっと良いイメージに変わった」、「とても親切で良い人だと思い」、「とても親切で気配りするイメージから人間的なイメージに変わった」、「親切である」、「日本人の先生が面白いから」、「日本人の先生を見ると、肯定的に変化した」、「会話をしてみて認識が変わった」、「静かだと思ったが、活発である」、「地域別の多様な性格」、「話し方が異なると感じる」、「男女の言葉が異なり、言葉を見ると女性の地位が低いと思う（女は私だけ、男性は俺もある）」、「日韓関係を改善しようとする日本人がいるから」、「ドラマを通して日本人のイメージは変わった」、「日本人全体の問題ではなく、国のトップレベル（政治家など）に問題がある」、「政治家と一般人は立場が異なる」などであった。

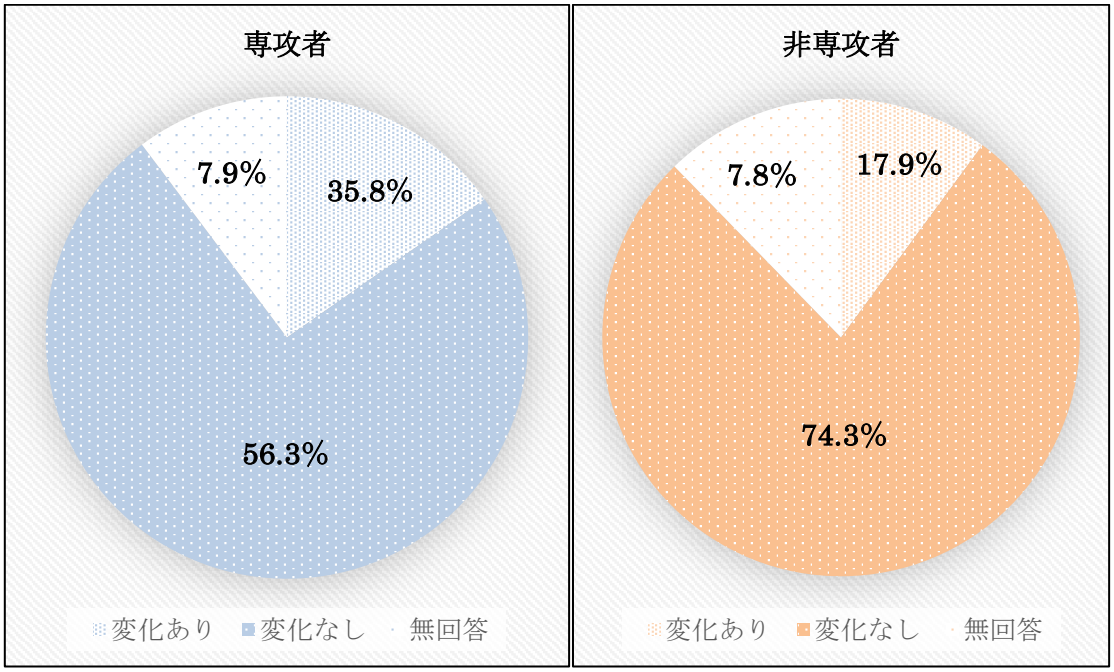

図 24　日本語学習開始の前と後における日本人イメージの変化（専攻者及び非専攻者）

「変化なし」の理由について回答した者は 44 名（24.6%）であった。その具体的な理由は「肯定的から肯定的に」、「そもそも良いイメージ、今も同じ」、「同じで変わっていない」、「思った通りだった」、「日本人に会ったことがない」、「日本人について良く分からない」、「深く考えたことがない」、「そもそも日本人に対するイメージを持っていなかった」、「日本人に関心がない」、「日本語学習とイメージは異なる」、「言語だけを学んだのでイメージに影響はない」、「学習によって変化しない」、「言語学習だけであるため」、「どんな国でも人によって異なるから」、「日本人のイメージは良いが、たまに政治的な面で残念なことが多い」などであった。

以上、日本語学習開始の前と後における日本人イメージの変化については、専攻者は非専攻者に比べ、日本語学習を通して日本人イメージが変化しており、その変化の理由について回答した者も専攻者は非専攻者の 2 倍であった。日本人に対して否定的なイメージに変化している者もいるものの、肯定的なイメージに変化している場合が多かった。「変化あり」について専攻者の場合は、親切・やさしいなどという肯定的なイメージへの変化が多く見られる一方で、表と裏が異なり、本音が分からないなどという否定的なイメージへの変化も見られた。非専攻者の場合は、日本人との直接経験や、日本人教師との接触などから肯定的なイメージへの変化があった。また、「変化なし」については、専攻者の場合は日本人に対する肯定的あるいは否定的な固定観念から変化がないこと

が見られた。非専攻者の場合は、日本人との出会いがなく、知識や情報などが少ないことや、言語学習だけであるためイメージとは関連がない、言語学習とイメージを結ぶ付けていないことなどが分かった。

7.3　本章のまとめ

本章では、第 5 章と第 6 章における対日イメージと日本語学習動機づけについて行った因子分析の結果を用いて、「対日イメージが日本語学習動機づけに与える影響」について分析を行った。また重回帰分析の結果では、肯定的なイメージはもちろん、否定的なイメージも日本語学習動機づけに正の影響が見られ、これについては図 25 に示す。

図 25 の「対日イメージが日本語学習動機づけに与える影響」について説明する。まず、日本イメージと日本語学習動機づけについて相関分析を行った結果、日本語学習動機づけと最も相関が多く見られた日本イメージは「信頼性」であり、日本語学習動機づけの「統合的志向」、「日本文化・文学への興味」、「日本への憧れ」、「日本語学習志向」に相関が見られ、重回帰分析の結果でもその影響が見られた。また、「環境の良さ」は、「統合的志向」、「キャリア志向」、「日本への憧れ」に影響が見られた。

その一方で、日本に対する否定的なイメージとして考えられる「日本への違和感」と「災害への不安」は、日本語学習動機づけと相関が見られなかったが、重回帰分析による結果では、「日本への違和感」は「キャリア志向」と「日本文化・文学への興味」に、「災害への不安」は「道具的志向」に弱いものの正の影響が見られることが分かった。この点について、特に日本に対する否定的なイメージが就職に関連する「キャリア志向」を動機づけていることは、学習者は日本で就職することを考え、「外国人に対して偏見や差別」、「手続きが複雑（書類など）」などの「日本への違和感」というイメージを心構えとして受け入れ、学習動機づけに逆に肯定的な影響を与えているのではないかと考えられる。また、地震や放射能などの「災害への不安」という否定的なイメージを持っているものの、学習者は地震・放射能についてすでに知識や情報を得た上で、「専攻であるから」、「卒業のため」、「大学に入学するため」などの「道具的志向」がそのイメージより重要だということに、正の影響を与えることが考えられる。

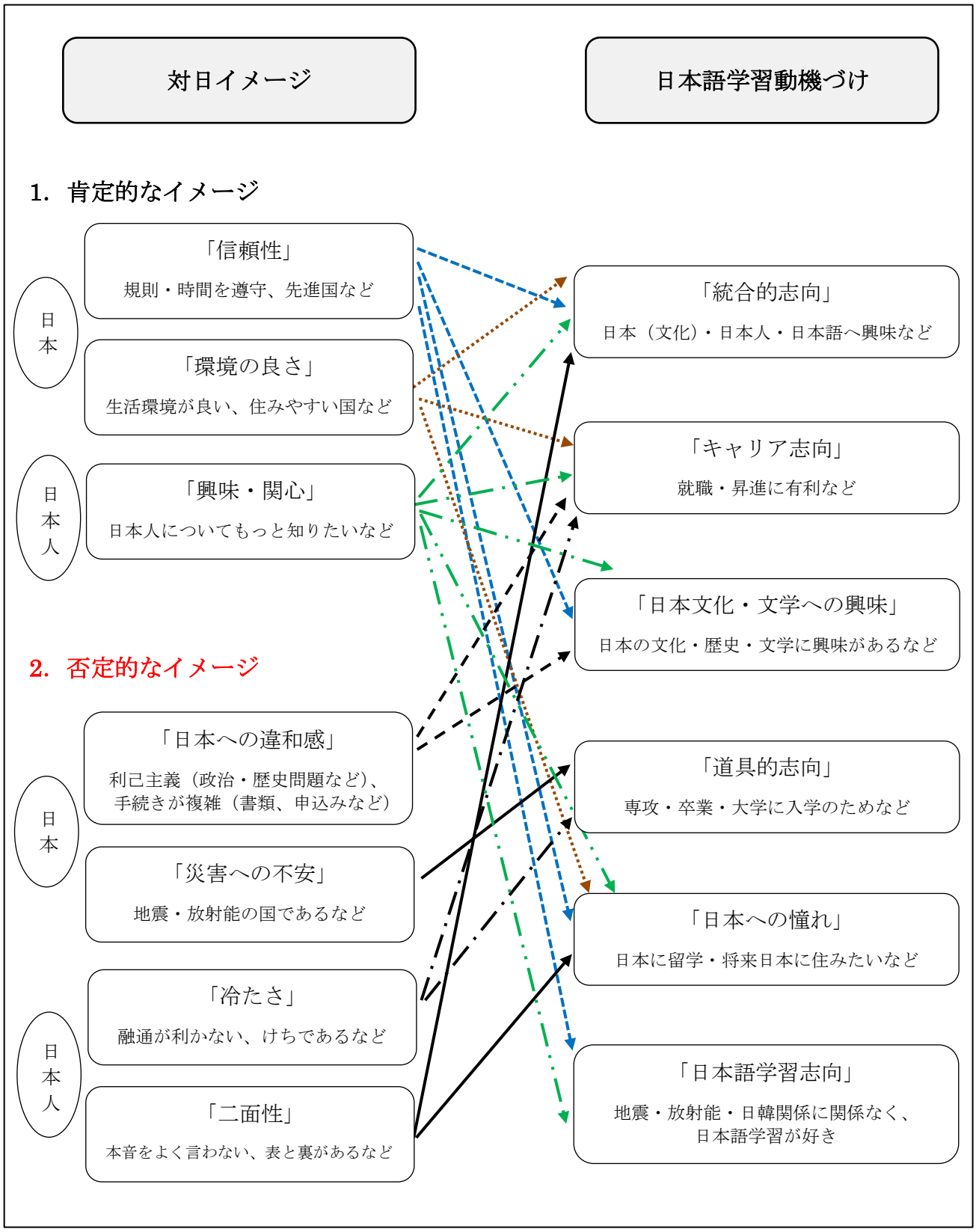

図 25　対日イメージが日本語学習動機づけに与える影響

続いて、日本人イメージと日本語学習動機づけについて、相関分析を行った結果、日本人イメージの「信頼性」は日本語学習動機づけの「統合的志向」、「日本への憧れ」、「日本語学習志向」に、「二面性」は「統合的志向」と「日本への憧れ」に相関が見られた。しかし、重回帰分析による結果では、「信頼性」は、日本語学習動機づけに影響が見られないという結果となった。また、「興味・関心」は「統合的志向」、「日本文化・文学への興味」、「日本への憧れ」、「日本語学習志向」という日本語学習動機づけに最も多く相関が見られた。そして、重回帰分析による結果でも、日本語学習動機づけの「道具的志向」以外すべての因子に影響が見られたことから、日本語学習の初期段階である学習者は日本人への「興味・関心」というイメージが最も受け入れやすいことがうかがえる。

そこで、注目されることは、否定的と思われる「冷たさ」というイメージは日本語学習動機づけの「キャリア志向」と「道具的志向」に、「二面性」は、「統合的志向」と「日本への憧れ」に正の影響が見られた点である。このようなイメージが否定的だと思われるのは、「二面性」について例を上げると、金（2016）の対象者のインタビューでは、「学校で日本人友達の本音が分からず、関係が難しい」、「本気で私と親しくなりたいから私に会うのか、形式的に会うのか本音の区別ができず、ショックを受けて心を傷つけられた」と述べている。このことから、韓国人と比較し、日本人の「二面性」という否定的なイメージで捉えていることがうかがえる。

「冷たさ」の下位項目である「融通が利かない」、「けちである」、「親しみにくい」などというイメージと、「二面性」の「本音をよく言わない」、「二面的である」、「表現があいまい」というイメージについて韓国人学習者は、韓国と異なる日本の文化的な面として捉え、このような否定的なイメージと葛藤しながら合理的に調整して、学習動機づけに肯定的な影響を与えているのではないかと考えられる。文化的な面として捉えていることについては、例えば「融通が利かない」ということについて、金（2016）の対象者のインタビューから見ると、「韓国の場合は、できないこともできるようにする融通が利くが、日本ではできないことについては、はっきりできないと言っているため、融通が利かない」ことである。また、「二面的である」については、「日本人の特徴で、表と裏が異なる二面的なところもあると思うため、韓国人に比べられる」と述べていることから、韓国と異なる文化的な面として捉えられていることが見られる。

他方、日本イメージの「信頼性」は日本語学習動機づけに影響を与えていたが、日本人イメージの「信頼性」は学習動機づけに影響を与えていなかった。この点に関しては、

韓国人学習者は日本という国と日本人を分けて捉えていることが考えられる。

次に、自由記述から得た「対日イメージが日本語学習を始める時に与える影響」と、「日本語学習開始の前と後における対日イメージの変化」について分析を行った。「日本イメージはあなたが日本語学習を始める時に影響を与えましたか」という質問についての自由記述の結果では、専攻者と非専攻者の両群とも「影響なし」が 6 割以上で割合が非常に高かった。理由として「影響あり」については、専攻者の場合は「地震・放射能」、「日韓関係（歴史問題など）」、「社会環境の良さ」、「日本の大衆文化」などであり、非専攻者の場合は「就職」、「日本に対する先進性（社会システムなど、建物など）」、「趣味（旅行など）」、「日本の文化（食文化、大衆文化）」などの影響があるとの回答があった。また、「影響なし」については、専攻者の場合は「大学入学のため」、「成績をもとに専攻を決めたから」、「自発的ではない」、「義務」などの外発的動機づけが見られ、また「日本語学習後にイメージ形成」、「日本語・日本語学習に興味・関心」、「知識が少ない」などがあった。非専攻者の場合は、韓国社会の英語中心の外国語教育を背景として「英語と日本語の比較」、「イメージと日本語学習は関係ない」、「周囲の影響」などの回答があった。このように、日本イメージが日本語学習を始める時に影響を与えるかどうかについては、専攻者と非専攻者は異なることが分かった。

また、「日本人イメージはあなたが日本語学習を始める時に影響を与えましたか」という質問については、専攻者と非専攻者の両群とも「影響なし」が 7 割以上で非常に高かった。「影響あり」について、専攻者の場合は「日本人への興味・関心」が多く、非専攻者の場合は、特に日本人の「親切さ」、「やさしさ」、「気配り」などの回答が多く見られた。「影響なし」については、前述した日本イメージと同様に専攻者の場合は日本語学習の開始を内発的ではなく道具という外発的として動機づけていること、日本語学習開始の後や日本での生活経験の後などに影響が見られた。非専攻者の場合は、日本語学習を始める前には日本人に対して関心や直接経験が少ないことなどを理由に挙げている。このような点から、日本及び日本人のイメージが日本語学習を始める時に影響を与えていないというより、対日イメージと日本語学習開始を結び付けて捉えていないのではないかと考えられる。

次に、「日本語学習開始の前と後における日本イメージの変化」については、「変化なし」は専攻者 6 割以上、非専攻者約 8 割であり、「日本人に対するイメージの変化」については、「変化なし」は専攻者 5 割以上、非専攻者 7 割以上にのぼった。「変化あり」

では、両群とも「メディア」、「学校教育」などから既に形成された固定観念を持っていたが、日本語学習開始後、メディアの情報が誇張されている点に気づいたり、日本及び日本人との直接経験、日本語の授業を通して日本に対するイメージが肯定的に変化したりしている。この点については、第 1 章で示した図 5 の対日イメージの形成理論において、メディアなどを通した「固定的イメージ化の段階」の固定観念から、日本及び日本人との直接経験や日本語授業での学習などで「流動的イメージ化の段階」を通じて肯定的に変化していると考えられる。また、非専攻者の場合は、日本語学習の初期段階の学生が多く、自分の専攻ではなく教養科目として受講しているため、日本及び日本人に対する知識や情報が少ないことから、イメージについて深く考えていないことも考えられる。しかしながら、日本語学習開始の前と後における対日イメージの変化について、大江（2012）では、学習開始前には「植民地支配」というイメージが最も高かったが、学習開始後にはそのイメージが非常に減少したことを報告している。また、齊藤（2004）では、日本語を学習している学生は、学習していない学生に比べ、日本と日本人に対して良いイメージを持っている。さらに、学習期間が長くなるほどイメージは比較的によくなる傾向が見られたという結果のように、長期間日本語学習している学習者の場合は、日本語学習を通してイメージへの変化が起きることも指摘されている。

このように、先行研究では、日本語学習開始の前と後の変化が見られているが、本研究における結果では「変化なし」の方が「変化あり」より非常に多く、特に非専攻者の方が専攻者より日本語学習によるイメージの変化は少なかった。この点について、大江（2012）と齊藤（2004）の対象者の場合は、中上級者・長期間の学習者が多いことから対日イメージの変化が見られたと考えられる。つまり、本研究の場合は日本及び日本人に対する知識や接触経験などが少ない対象者も多いことから、変化がまだ大きく見られていないのではないかと考えられる。また、既に形成されているイメージについては、先行研究のように長期間の学習では変化が見られるかもしれないが、短期間の日本語学習で変わるのは難しいことが示唆される。

以上、第 5 章・第 6 章・第 7 章において、本研究の課題に対して実施した調査の結果をもとに分析考察を行った。次の章では、本研究の課題に対するそれぞれの結果について総合的考察を行い、本研究の結論を述べる。

第 8 章　総合的考察及び結論

本章では、第 5 章から第 7 章にかけて述べた本研究の課題についての分析結果をもとに、総合的考察を行う。まず、第 4 章の「2011 年以降の韓国人学習者や専攻者などの減少要因」について、2015 年の調査結果と 2017 年から 2018 年にかけて行った調査の分析結果にもとづいて考察を述べる。その上で、第 5 章の「韓国人学習者が持つ対日イメージとその影響要因」と第 6 章の「韓国人学習者が持つ日本語学習動機づけ」についての考察を行う。続いて、第 7 章の「対日イメージが日本語学習動機づけに与える影響」について考察を行う。最後に、これらの総合的考察を踏まえ、結論を述べる。また、本研究で課題として残された点については、今後の課題として述べる。

8.1　総合的考察

8.1.1　2011 年以降の韓国人日本語学習者や日本語・日本関連専攻者などの減少要因

本研究の背景となったのは、韓国人学習者や専攻者などが 2011 年以降年々減少し続けていることである。この事実に注目して、2015 年に行った「2011 年以降の日本の韓国人留学生の減少原因」と 2017 年から 2018 年にかけて行った「2011 年以降の韓国人学習者や専攻者などの減少要因」の調査の結果、共通して最も多かった要因は「3.11・放射能の問題」であった。

2015 年の「2011 年以降の日本の韓国人留学生の減少原因」についての調査結果では、特に「3.11・放射能」に関する「韓国メディアの報道やインターネット」による悪い影響が深刻であり、Facebook や 20 代の女性専用のインターネット上のサイトなどで、放射能の影響についての噂が多く出回っていた。これについて、インターネットをよく利用している若者たちが放射能についての好ましくない情報に接触すると、日本への留学は確かに困難になることが考えられる。さらに、家族や周囲からの反対も主な理由の一つであった。特に家族が高齢者の場合は、1910 年～1945 年の 35 年間日本に支配された植民地時代の経験や、その歴史問題について口伝された様々な話などから持っている反日感情があり、3.11・放射能の問題と相まって、日本に対するイメージがさらに悪化していることがうかがえる。つまり、3.11 と福島原発事故に関する「韓国のメディアの報道・インターネット上での悪い影響」、「家族・周囲の反対」などは、韓国人が日本に留学するにあたり、負の影響を強く及ぼしていることが注目される。加えて、「3.11・放射能」の影響から「日本は留学先のリストから除外」、「日本留学はリスクが大きい」、

「日本留学のメリットの減少」などから、日本への韓国人留学生が減少していると考えられる。

続いて、2017 年から 2018 年にかけて行った「2011 年以降の韓国人学習者や専攻者などの減少要因」についての調査結果でも、2011 年の 3.11 から 7 年経過しているにもかかわらず、「地震・放射能」という「災害への不安」を現在も強く持っていることが明らかになった。これは、韓国では比較的に地震が少ないため、3.11 と原発事故のような大災害について、少なくないショックを受けているためではないかと考えられる。他方、「中国語志向の影響」、「日韓関係の問題（政治・歴史・慰安婦問題など）」、「日本語学習のメリットの減少」、「就職の問題」、「日本人の嫌韓」、「英語中心の社会」などが減少の要因として多かった。「日韓関係の問題」については、政治・歴史などの問題が従来から続いていることから、世代が変わっても依然として解決するのは難しい敏感な問題であり続けていることがうかがえる。「中国語志向の影響」については、近年韓国では中国語学習のブームと言っても過言ではない。これは、中国経済の急成長や中国企業への就職とも関連があり、また 2011 年以降の「日本語学習と日本留学のメリットの減少」に伴い、中国への関心がさらに高まっていることとも併せて考える必要がある。

就職に関連して、現在韓国社会において若者たちが置かれている「就職難」は非常に深刻であり、日本語の影響力が比較的弱い韓国社会での日本語専攻者の就職状況はさらに厳しくなると考えられる。特に、韓国社会では英語に非常に力を入れているため、外国語は英語を基本にして、プラスアルファとして中国語、日本語などのいくつかの外国語を流暢に駆使する、いわゆる SPEC[27]が高い若者が非常に多い。このような SPEC は就職の際、採用成否を左右する重要な要素であり、韓国の大学における日本語関連専攻者はそのような「就職戦争（生存競争）」で不利となる恐れから、さらに専攻者の数が減少していると推察される。韓国の教育統計サービスによる「韓国の大学における日本語・日本文学系専攻への志願者数」は、2011 年以降 2018 年現在まで、依然として年々

[27] 「SPEC」とは、韓国で通用する言葉として、英語単語の Specification の略語である。SPEC は、職を求める人々の間で、学力・単位・TOEIC の点数・海外での経験などを合わせたものを指す言葉である。この単語は、2004 年、「国立国語院」から発行した「新語資料集」に登録されている。これらは、求職者自身の能力を共通の基準で証明できる要素である。したがって、ほとんどの企業は SPEC をもとに入社志願者を評価する。

減少が続いている。

しかしながら、このような就職難の状況をめぐり、最近新たな動向も見られる。第1章の図3において述べたように、日本の法務省の「在留外国人統計（旧登録外国人統計）の『都道府県別在留資格別在留外国人』」によると、2017年以降から日本の「留学」の資格を持つ韓国人留学生が2018年6月末の統計では17,097人になり、前年に比べ約1%増加に転じている。このような新たな動向について、韓国の大学における韓国人日本語教員1名、大学3年生3 名、2018年の新卒1名を対象としてインタビュー[28]を行った。その結果、現在韓国社会における若者たちが置かれている「就職難」が非常に深刻である現状を反映して、韓国に比べ就職の可能性が高い日本に就職するため、2017年から日本語学習者（特に非専攻者）が増加に転じた現象が見られた。すなわち、「日本での就職」のために非専攻者が日本語学習を開始するケースが多く見られるのである。しかしながら、インタビューの中でもあるように、韓国の大学における大学生が日本に就職できても問題が少なからず起こっていることが示唆され、これについては今後の課題として調査を行う必要性があると考える（具体的なインタビューの内容は、資料1を参照）。

8.1.2　韓国人日本語学習者が持つ対日イメージとその影響要因

韓国の大学における日本語学習者が持つ対日イメージについては、まず、日本に対する「地震が多い国である」（95.6%）というイメージを最も多く持っていた。また、「放射能の国である」（73.3%）についても少なくなかった。これに関連して、「地理・自然環境が良い」（29.4%）に対して「そう思わない・全然そう思わない」という回答が最も顕著に見られた。以上の結果は、韓国人学習者や専攻者などの減少要因として最も多かった「地震・放射能の問題」という要因と一致している。このように、韓国人学習者は3.11 から 7 年経過している現在も「災害への不安」というイメージを少なからず持っ

[28] インタビューの対象者は計 5 名で、韓国の又松大学（大田市）の又松語学センターの韓国人日本語教員G先生、東義大学（釜山市）の日本語学科3年生のJさんとKさん、釜山外国語大学（釜山市）の経営学科に入学後、日本語学科に転科した3年生のHさん、2018年2月東義大学（釜山市）の日本語学科の卒業後日本で就職したOさんである。インタビューについては、研究者と調査対象者が韓国語母語話者であるため、韓国語でインタビューを行い、データについてはまず韓国語で文字化した上で、さらに日本語に翻訳した。

ていることが明らかになった。また、「地理・自然環境が良い」については、加賀美・守谷・岩井（2014）と加賀美・守谷・岩井・朴・沈（2008）では、中立的イメージという結果であり、また中国人学習者を対象としている見城・三村（2010）では日本の「自然環境」（7 割）が肯定的なイメージとして高かった。これらの先行研究が示す日本の地理・自然環境に対する日本イメージと、「地理・自然環境が良くない」という本研究の結果とは異なる。この点については、特に 3.11 と原発事故の以降の数年間で形成された固定観念となっているためではないかと考えられる。

他方、韓国人学習者は、日本に対する「規則・時間を遵守する」（91.0%）、「先進国である」（89.9%）、「生活環境が良い」（80.3%）、「留学するにあたって良い国である」（70.2%）などという肯定的なイメージを多く持っていた。この点は、「韓国のメディアの情報」から判断し日本に対して否定的なイメージが形成されている傾向もあるが、日本と韓国を比較し、日本に対して否定的なイメージより肯定的なイメージをより多く持っていることがうかがえる。

次に、日本人に対して「迷惑をかけない」（94.4%）というイメージを最も多く持っており、続いて「礼儀正しい」（89.6%）、「親切・やさしい」（87.6%）、「日本人に見習うことが多い」（84.0%）などの肯定的なイメージを多く持っていることが分かった。一方、「本音をよく言わない」（78.4%）、「表現があいまい」（68.5%）、「二面的（表と裏がある）」（68.0%）という否定的なイメージも少なからず持っている。この点については、先行研究でも最も多い日本人イメージとして、呉（2008a,b）では「二面的、本心がわからない」がそれぞれ 5 割以上、大江（2012）では日本語学習開始後のイメージとして「二面的」が挙げられている。また、本研究の第 5 章の表 18 に示したように「二面性」については専攻者が非専攻者より有意に高かった。これは、専攻者の場合は非専攻者に比べ、日本人との接触機会が比較的多いことから、日本人との直接経験を通して形成されたイメージであることが示唆された。この点について、岩男・萩原（1982）では韓国の大学生は日本に関する豊富な知識を持っていればいるほど日本に対して否定的な評価をする傾向があり、批判的である指摘している。特に、日本に対する否定的な評価については、台湾、タイ、アメリカより韓国が最も高かった点から、これは韓国の特徴ではないかと考えられる。

以上のような「対日イメージに与えている影響要因」としては、「日本の漫画、アニメ」（75.6%）が最も大きい要因であり、続いて「日韓関係（政治・歴史など）」（74.2%）、「日本語・日本関連授業」（72.7%）、「日本語のドラマ、映画、音楽（J-POP）」（71.9%）

などが影響を与えていた。これは、齊藤（2004）の日本と日本人に対するイメージを形成する際に与える影響の要因として「日本映画、アニメ」が最も高く、続いて「過去の日韓関係」が高かった結果と同様である。呉（2008a）の日本人イメージ全般の形成要因について、学習者の場合「日本のドラマ」が最も高く、続いて「日本の漫画、アニメ」が高かったこととも同様の結果であった。他方、対日イメージに与える影響要因として、「地震」と「放射能」がそれぞれ 5 割以上の回答があった点から、前述した「災害への不安」という影響が少なくないことが注目された。

8.1.3　韓国人日本語学習者が持つ日本語学習動機づけ

まず、日本語学習動機づけについて、最も多かった回答は「日本を旅行したい」（89.6%）であり、続いて「日本語の実力向上が嬉しい」（86.5%）、「自分の視野を広げるために良い」（78.1%）、「日本人と交流をしたい（友達作りなど）」（77.8%）、「日本をより理解したい」（73.3%）などであり、内発的動機づけである「統合的志向」の下位項目の割合が多かった。この点は、中川・神谷・李（2006）、石塚（2007）、上田・瀧口・永野・山田（2014）などの日本語学習の動機として「統合的」という回答が最も多かった結果と同様である。

そこで、本研究の「日本語学習志向」の下位項目である「地震に関係なく、日本語学習が好き」と「放射能に関係なく、日本語学習が好き」について「そう思う・とてもそう思う」の回答が多く、日本は自然災害が多いという一見日本語学習に不利な要素があるにも関わらず、日本語学習を志向していることが注目された。これは、第 4 章における「2011 年以降の韓国人学習者や専攻者などの減少要因」として最も多かった「地震・放射能の問題」という要因による影響が、日本語学習動機づけの観点からは徐々に退行していることがうかがえる。他方、8.1.1 で述べたように、韓国では親の意見が非常に影響力を持っているが、日本語学習動機づけとして「親・友達の影響があった」については最も弱かった。これは、親の意見より自分の意志が強い現在の韓国の若者像を反映していることと考えられる。

次に、日本語学習動機づけと関連して「日本語学習を始めた理由」についての自由記述の結果、専攻者と非専攻者の両群とも「アニメ・漫画、J-POP、芸能人への興味」の回答が最も多く、日本語学習を始める時には「日本の大衆文化」からの影響を受けやすいことがうかがえる。これについて、対象者の自由記述の中で特に多かった回答は「アニメ」であり、日本のアニメは韓国に比べはるかに発展していることから、子供の頃か

ら中・高・大学生や男女を問わず人気があるため、接触しやすいと思われる。このように、アニメは誰でも接触しやすいものであるため、接触するとその言語への興味や関心がより深くなる可能性が考えられる。続いて、「中・高校で第二外国語であった」については、中・高校で第二外国語であったため、大学でも続けやすかったことと考えられる。また、専攻者のみ見られた「専攻であるから」という回答は、「日本・日本人・日本語への興味・関心」のような内発的動機づけではなく、「修学能力試験の点数をもとに大学専攻を選択」などという外発的動機づけと同類のものであると考えられる。逆に、専攻者では見られず、非専攻者のみ見られた回答として「就職のため」があり、非専攻者は日本語学習を最初から就職を視野に入れていることが分かる。

続いて、「日本語学習を継続している理由」については、専攻者では「専攻であるから」という外発的動機づけ、非専攻者では「日本語・日本文学・日本文化への興味・関心」という内発的動機づけが最も多く、両群には大きい差が見られた。この点について、専攻者の場合、前述した日本語学習を始めた理由として、「アニメ・漫画、J-POP、芸能人への興味」という内発的動機づけから、「専攻であるから」という外発的動機に変化している。一方、非専攻者の場合は、日本語の授業を教養科目として受講していることから、日本語学習を始めた理由と同様に日本という国や日本人、日本語などに興味を持ち楽しみながら継続していることがうかがえる。これは、学習者は就職や道具的などの動機づけだけでなく、日本語を学習しながら、日本の文化・文学、日本人への興味などを持つようになる場合も多いことから、このような内発的動機づけに合わせた学校側の指導も必要であると考えられる。他方、「就職のため」について、専攻者の場合、日本語学習を始めた理由では見られなかったが、日本語学習を継続している理由として10.6%の回答があった。これは、日本語学習を継続するうちに、自分の専攻を仕事と繋げようとする気持ちが徐々に生じていることがうかがえる。これに対し、「アニメ、漫画、J-POP、芸能人に興味」については、両群ともわずか0.2割程度で非常に低い結果であった。この点に関しては、日本語学習を進めるにしたがって、「日本大衆文化」から「日本文化・日本人・日本語」へ興味・関心が移っていくからではないかと考えられる。

最後に、「日本語学習を将来にどう活かしたいか」については、専攻者と非専攻者の両群とも「就職のため」という回答が専攻者約6割、非専攻者約5割で圧倒的に多く、日本語学習の最終的な目標は就職であり、両群とも「日本企業に就職あるいは日本で就職希望」という回答が多く見られた。特に、非専攻者は日本語を専攻していないにも拘

らず、日本語学習の開始時点から、日本で就職することを学習動機づけとし、現在韓国社会で深刻な「就職難」を背景に就職の問題を優先的に考えた学習動機づけをもたらしているものと考えられる。

以上の日本語学習を始めた理由、継続している理由、将来にどう活かしたいかについて、第１章で示した表１の「自己決定理論」をもとに考察を行う。まず、「日本語学習を始めた理由」については、専攻者と非専攻者の両群とも「アニメ・漫画、J-POP、芸能人への興味」という理由が最も多いことから、面白い・楽しい・関心などがあるからという自己決定理論の「内発的調整」という内発的動機づけに当てはまる。しかしながら、「日本語学習を継続している理由」については、専攻者と非専攻者では大きく異なる。専攻者の場合は「専攻であるから」という理由が最も多いことから、しなくてはいけないといった義務的な感覚という「取入れ的調整」と、自分にとって重要だから・将来のために必要だからという「同一視的調整」により外発的動機づけに変化していると考えられる。一方、非専攻者の場合は、「日本語・日本文学・日本文化への興味・関心」という理由から、「内発的調整」により内発的動機づけを強化するようになると考えられる。したがって、日本語学習を継続している理由について、専攻している立場とそうではない立場の違いは大きく異なる。また、「日本語学習を将来にどう活かしたいか」については、上述した日本語学習を継続している理由とは異なり、専攻者と非専攻者の両者とも「就職のため」という外発的動機づけが最も多かった。つまり、専攻者の場合は日本語学習を始める時には内発的に動機づけられていたものが、日本語学習開始以降は外発的動機づけに変化していた。一方、非専攻者の場合は、始めから継続までは内発的動機づけが堅持されているが、最終的には外発的動機づけに変化していることがわかった。これは、韓国の大学に在籍している日本語学習者を対象としたインタビュー調査（資料１を参照）の結果でも、就職問題が非常に深刻であることから、現在の韓国社会における「就職難」の深刻さが学習動機づけにも如実に反映されていると考えられる。

8.1.4　対日イメージが日本語学習動機づけに与える影響

まず、「日本イメージが日本語学習動機づけに与える影響」について、日本イメージの「信頼性」は、日本語学習動機づけの「統合的志向」、「日本文化・文学への興味」、「日本への憧れ」、「日本語学習志向」に、「環境の良さ」は、「統合的志向」と「日本への憧れ」に相関が見られ、重回帰分析による結果でも影響があることが見られた。一方、相関分析の結果では見られなかった日本イメージの「日本への違和感」は、日本語学習

動機づけの「キャリア志向」と「日本文化・文学への興味」に、「災害への不安」は、「道具的志向」に正の影響が見られた。「日本への違和感」については、日本は手続きが複雑で厳しいというシステムや日本の職場文化などの否定的イメージと、「キャリア志向」や「日本文化・文学への興味」との間で、学習者は葛藤しながら自己調整して、学習動機づけに逆に肯定的な影響に転換していると考えられる。また、第 4 章と第 5 章で述べたように、3.11 から 7 年経っているにも拘らず、韓国人学習者は「災害への不安」について、現在も少なからず意識しており、日本語学習動機づけの「道具的志向」にも弱いながら正の影響が見られた。これは、「道具的志向」は、第 1 章で示した表 1 の「自己決定理論」における外発的動機づけの「取入れ的調整」と「同一視的調整」に該当することが考えられる。つまり、日本語学習を始める段階で、「災害への不安」という否定的なイメージが「道具的志向」に影響を与えるのは、JFL 環境において日本語を学習している学習者は「災害への不安」と葛藤しながらも、その不安なイメージより外発的動機づけである「専攻であるから」、「大学入学のため」、「卒業のため」などという道具的な目的に焦点を当てて動機づけられていることが考えられる。加えて、8.1.1 において述べたように、現在の韓国社会における若者たちが置かれている「就職難」の深刻さを背景に、学習者は就職のために、「災害への不安」という否定的なイメージを抑制、または合理的に調整しているとも考えられる。

次に、「日本人イメージが日本語学習動機づけに与える影響」について、特に「興味・関心」は、日本語学習動機づけの「統合的志向」、「日本文化・文学への興味」、「日本への憧れ」、「日本語学習志向」に相関が見られ、重回帰分析による結果では、「道具的志向」の以外の「統合的志向」、「キャリア志向」、「日本文化・文学への興味」、「日本への憧れ」、「日本語学習志向」に正の影響が見られた。また、日本人に対する「冷たさ」という否定的なイメージは、日本語学習動機づけと相関が見られなかったが、重回帰分析による結果では、「キャリア志向」と「道具的志向」に影響が見られた。その理由として、日本人イメージの下位項目である「融通が利かない」と「けちである」を例に、具体的に考えてみる。例えば、「融通が利かない」とは、できないことは絶対にできないということを融通が利かないと捉えているが、これは規則を守るという仕事上の問題と捉えることによって、「キャリア志向」に肯定的な影響を与えているのではないかと考えられる。また、「けちである」ということについては、友人と食事をした場合などに、一人が食事代をもつことが多い韓国とは異なり、割り勘やそれぞれの食事代を払う日本のやり方を指しているが、これを異文化として捉えることにより、学習動機づけに肯定

的な影響を与えているのではないかと考えられる。「道具的志向」については、日本人に対する「冷たさ」というイメージを持っているものの、このイメージより道具的な目的に焦点を当てて日本語学習に動機づけられているのではないかと考えられる。また、日本人の否定的なイメージと思われる「二面性」は、日本語学習動機づけの「統合的志向」と「日本への憧れ」に相関が見られ、重回帰分析による結果でもこの 2 つの因子に対して影響が見られた。これは、「二面性」の下位項目である「本音をよく言わない」、「表現があいまい」について韓国とは異なる日本の文化的な面としても捉え、逆に興味・関心を寄せていることが考えられる。また、7.2.2 の「日本人イメージが日本語学習を始める時に与える影響」において対象者の自由記述である「二面的な人が多いと聞いたことがあるから」、「日本語の表現で曖昧な表現が多く、日本人に対する固定観念ができた」のように、学習者はその否定的なイメージに対しても興味・関心を持つことが見られる。

他方、日本人イメージの「信頼性」は日本語学習動機づけの「統合的志向」、「日本への憧れ」、「日本語学習志向」に相関が見られたが、重回帰分析による結果では影響が見られなかった。つまり、日本に対する「信頼性」は日本語学習動機づけに影響が見られる一方で、日本人に対する「信頼性」は影響が見られないのである。したがって、韓国人学習者は、日本という「国」と「日本人」へのイメージを分けて捉えていると考えられる。また、国と国民については両方とも大きな課題であるため、この点の具体的な検討については、今後の課題とする。

続いて、「日本及び日本人のイメージが日本語学習を始める時に与える影響」については、自由記述の結果、専攻者と非専攻者の両群とも「影響なし」がそれぞれ 6 割以上、7 割以上で非常に多かった。これは、日本及び日本人のイメージと日本語学習開始は関連がないということより、日本語学習を始めたのは、対日イメージが形成される前でもあり、またイメージと日本語学習を結び付けて考えず、個人のそれぞれの状況から学習を始めたからだと考えられる。

まず、「日本イメージはあなたが日本語学習を始める時に影響を与えましたか」という質問に対して、「影響あり」と回答した理由について、専攻者の場合は「地震・放射能」、「日韓関係（歴史問題など）」、「言語とイメージの密接な関係」、「目標言語の国の社会環境の良さ」、非専攻者の場合は「就職」、「先進性」、「日本文化への興味」、「趣味（旅行など）」などであった。この点から、災害への不安、日韓両国の関係などの目標言語とその国のイメージの関係について、専攻者は非専攻者より結び付けて考える傾向

があり、非専攻者は教養科目として受講している点から、専攻者より結び付ける傾向が強くないものと考えられる。「影響なし」と回答した理由については、専攻者の場合は「大学入学のため」、「成績に合わせて大学に入学」、「内発的ではない」、「中・高校での第二外国語」、「イメージが形成される前、日本語学習の開始」などが見られた。つまり、日本語学習に対する外発的動機づけや、日本語学習開始後のイメージ形成により、日本語学習開始は日本イメージからの影響を受けていないと見られる。非専攻者の場合は、「英語と日本語の比較」、「周囲の影響」などの回答があった。つまり、日本語と他の言語との比較や、日本語という言語自体への関心が見られることから、日本イメージが日本語学習を始める時に影響がないということではなく、「日本語学習開始の時にはイメージと学習を結び付けて考えていない」と考えられる。

また、「日本人イメージはあなたが日本語学習を始める時に影響を与えましたか」という質問に対して、「影響あり」と「影響なし」のそれぞれのケースを、専攻者と非専攻者に分けて考察する。まず、「影響あり」については、専攻者の場合は「日本人への興味・関心」、「日本人との接触を通して」などが理由として挙がっている。非専攻者の場合は、日本人の「配慮的」、「旅行を通した経験」などが理由である。つまり、両群とも日本語学習を始める時、日本人に対する「親切さ」、「やさしさ」、「礼儀正しい」などという肯定的なイメージから影響を受けやすいことがうかがえる。そこで、注目されるのが一見否定的と思われる「二面的な日本人が多い」という日本人イメージが日本語学習を始める時に影響を与えている点である。この点から、JFL 環境において日本語を学習する学習者は日本人との直接的な接触が限られているだけに、たとえ、このような一見否定的なイメージであったとしても、それが逆に学習者の興味や関心を喚起し、その国の言語を学習する動機づけに結びつく場合が示されたと言える。一方、「影響なし」については、専攻者の場合は「試験の成績をもとに専攻を選択」、「他の言語が学びたくて専攻を選択」、「学校の教科であった」、「ただ日本語に興味」、「日本人より日本文化に関心」など、非専攻者は「日本人と接触の機会が少ない」、「日本人に対する情報がなかった」などが理由として挙げられている。両群の共通点としては、「日本語学習を始める前には日本人に対する知識や交流などがなかった」という回答が多かった。つまり、上述したように日本語学習を始める時にはイメージと学習をあまり結びつけておらず、特に日本人イメージは日本イメージより日本語学習に影響を与えていなかった。この点につき、JFL 環境にある学習者はメディアやインターネットなどで日本に関する報道やニュースなどの接触は多いが、日本人に接触する機会は限られているからだと考えら

れる。

最後に、「日本語学習開始の前と後における日本及び日本人のイメージの変化」について考察する。自由記述の結果では、日本イメージの「変化なし」が専攻者の 6 割以上、非専攻者の約 8 割であり、日本人イメージの「変化なし」は、専攻者の 5 割以上、非専攻者 7 割以上で、日本語学習を通したイメージの変化は大きくなかった。このような結果について、「日本及び日本人に対する知識が少ない」ということや、「韓国のメディアによるイメージの定着」、「日本及び日本人に対する固定観念」などから、既に形成されているイメージについては短期間の日本語学習で変化するのは難しいことが考えられる。特に、日本人の「親切さ」、「やさしさ」、「迷惑をかけない」、「二面性」などというイメージは、岩男・萩原（1982）、呉（2008a,b）、南（2009）、大江（2012）などの従来の研究から 2018 年の本研究に至るまで大きな変化はなく、日本人という「人」に対するイメージは大きく変わらないと言える。一方、メディアと学校教育などから既に形成されている「固定観念」は、日本語の授業や日本語学習を通してこれまで間違っていた情報に気づき、否定的なイメージから肯定的なイメージに変化している場合もあった。この点について、第 1 章で示した図 5 における対日イメージの形成理論に従えば、メディアやインターネットなどから形成された固定観念という「固定的イメージ化の段階」から、日本語の授業や日本語学習、または日本人との接触などを通じて「流動的イメージ化の段階」に移り、対日イメージが今後変化することが考えられる。

8.2　結論

本研究の結論は、JFL 環境における日本語学習の阻害要因となると考えられる「否定的な対日イメージは学習者によって調整され、日本語学習動機づけに肯定的な影響を与えている」ということである。

まず、本研究の課題における結論を述べるに先立ち、本研究の背景となっている「2011 年以降の韓国人日本語学習者や日本関連専攻者、日本の韓国人留学生の減少要因」について、2015 年 JSL 環境で行ったインタビュー調査と 2017 年から 2018 年にかけて JFL 環境で行った質問紙調査の結果、次のことが明らかとなった。JSL 環境或いは JFL 環境を問わず、2011 年以降の韓国人日本語学習者の減少は、2011 年 3 月 11 日に起こった東日本大震災のような「地震・放射能の問題」が減少要因だと考えている韓国人学習者が最も多く、その他「日韓関係の問題（政治・歴史など）」、「中国語志向の影響」、「日本語学習のメリットの減少」などが続く。つまり、2011 年から 7 年経過

しているにも拘らず、現在も 3.11 と原発事故のような「災害への不安」を韓国人学習者が少なからず意識している実態は否定できないと言える。

次に、研究課題 1 の「韓国人日本語学習者が持つ対日イメージとその影響要因は何か」について、日本に対しては「信頼性」と「環境の良さ」という肯定的なイメージが強い一方で、「災害への不安」という否定的なイメージもいまだ根強い。日本人に対しては「信頼性」と「興味・関心」という肯定的なイメージが優勢でありながらも、「二面性」という否定的なイメージも少なからず持っていることが明らかになった。また、そのイメージに与える影響要因としては、「日本の漫画、アニメ」、「日本語・日本関連授業（日本語教師の話や教材など）」、「日本のドラマ、映画、音楽（J-POP）」という肯定的な要因が影響している一方、「日韓関係（政治・歴史など）」、「地震」、「放射能」という否定的な要因の影響力も少なくないことがわかった。

研究課題 2 の「韓国人日本語学習者が持つ日本語学習動機づけは何か」については、内発的動機づけにより日本語学習が動機づけられている傾向にある。ただし、日本語を専攻している立場とそうではない立場は、日本語学習を継続している動機づけは大きく異なる。しかし、最終的には「就職のため」という外発的動機づけへと収束し、両者の日本語学習の目的は同様となることが明らかになった。

研究課題 3 の「否定的な対日イメージが日本語学習動機づけに与える影響は何か」について、従来の研究で肯定的な対日イメージが日本語学習動機づけと関連があるということは指摘されてきたが、本研究では否定的な対日イメージもまた日本語学習動機づけに肯定的な影響を与えていることが明らかになった。つまり、「災害への不安」というイメージは、日本語学習を継続している理由という文脈においては、「道具的志向」という外発的動機づけに弱いながら正の影響を与えていることがわかった。また、「日本への違和感」、「冷たさ」、「二面性」というイメージもまた日本語学習動機づけに肯定的な影響を与えていることが分かり、学習者がこのような否定的なイメージを「日本文化への興味・関心」などへ調整していることが考えられる。

以上の結論を踏まえ、最後に「否定的な対日イメージと日本語学習動機づけの関係を示すモデル」を図 26 に示す。

図 26 は、「否定的な対日イメージは学習者によって調整され、日本語学習動機づけに正の影響を与える」という可能性を示している。日本の「災害への不安」については、韓国のメディアの放送やインターネットなどを通して「日本は地震及び放射能の国」という固定的イメージが形成されたものとみられる。これに対し学習者は、「災害への不

安」という否定的イメージと葛藤しながら、「取入れ的調整」及び「同一視的調整」によって動機づけを変化させ、「道具的志向」に正の影響を与えることが考えられる。

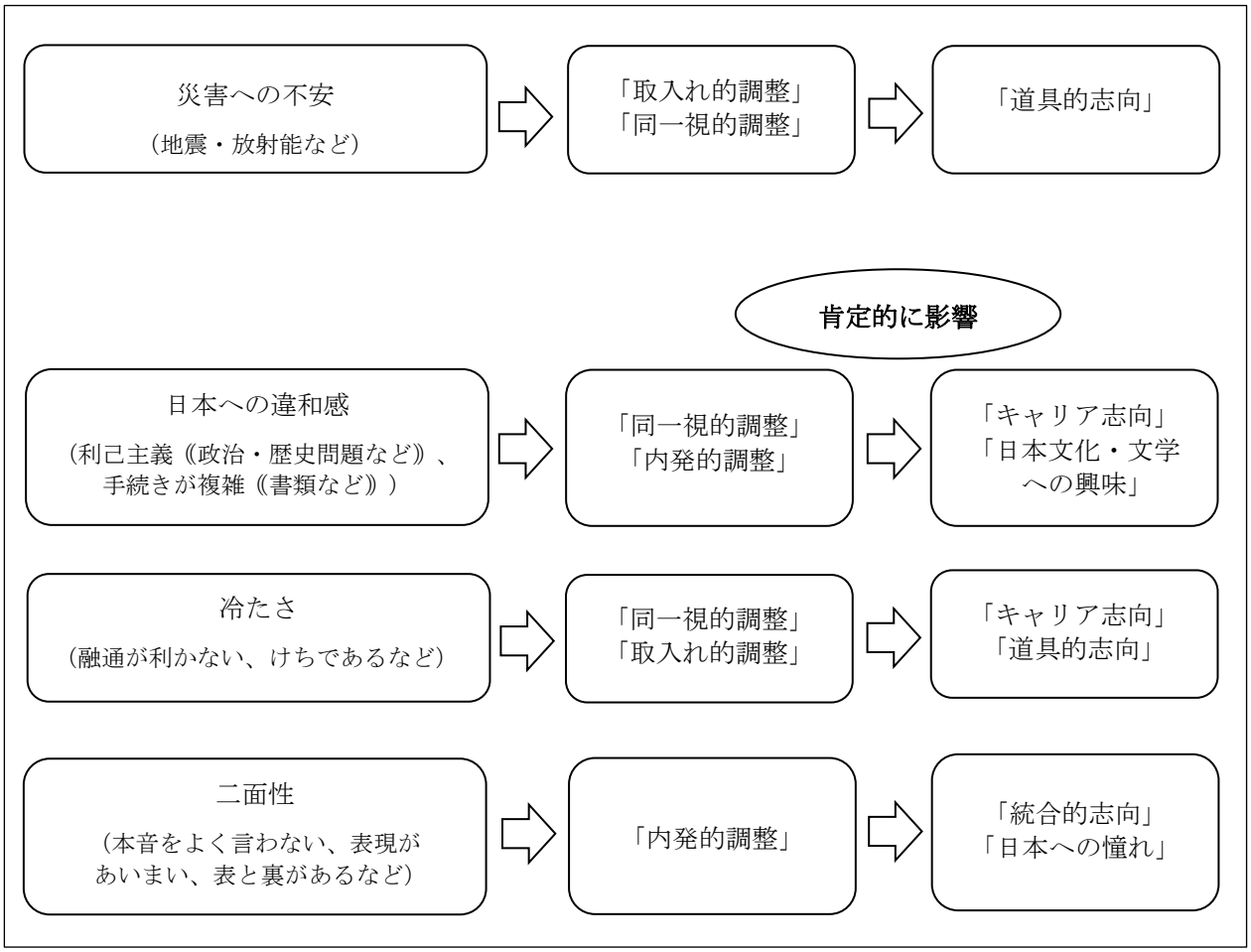

図 26　否定的な対日イメージと日本語学習動機づけの関係を示すモデル

「日本への違和感」については、メディアなどを通して政治・歴史問題などにより形成された「日本は『利己主義』」という固定観念は、日本語学習を開始した後の日本や日本人との接触機会によって流動化し、新しいイメージが形成されると考えられる。また、「手続きが複雑である（書類、申込みなど）」というイメージは、インターネットなどでも手続きが簡単にできる場合が多い韓国に比べ、日本は手続きが複雑であることから生じた対日イメージである。しかし、手続きが複雑である一面、結果的には失敗する可能性が低く、仕事を確実に遂行するという点から、学習者は日本のシステムや職場文化という面として捉え、肯定的に調整するのではないかと考えられる。このように「日本への違和感」について学習者は、「同一視的調整」によって「キャリア志向」に、ま

た「内発的調整」によって「日本文化・文学への興味」に肯定的な影響を与えていると考えられる。

そして、一見すると日本人の否定的なイメージと思われる「冷たさ」については、仕事と関連して「キャリア志向」に肯定的な影響を与えていると考えられる。このように、学習者は「冷たさ」というイメージを「同一視的調整」によって「キャリア志向」に、「取入れ的調整」及び「同一視的調整」によって「道具的志向」に肯定的な影響を与えていると考えられる。「二面性」については、「本音をよく言わない」「表現があいまい」などを韓国とは異なる文化的な面として捉えて合理的に調整し、「内発的調整」によって「統合的志向」と「日本への憧れ」に肯定的な影響を与えているものと考えられる。

つまり、JFL 環境における日本語学習者は、日本及び日本人の否定的なイメージについて、自国の文化とは異なる点として葛藤をしながら、その否定的な面を、日本語を学習するにあたり肯定的に調整し、学習動機づけに肯定的な影響を与えていると考える。言い換えれば、「統合的志向」、「日本への憧れ」、「日本文化・文学への興味」という内発的動機づけ或いは「道具的志向」と「キャリア志向」という外発的動機づけが強ければ、日本及び日本人に対する否定的なイメージが肯定的に調整されやすいと考えられる。

以上の点から、学習者は韓国と日本との違いについて不安や違和感などを抱きつつも、日本語学習を通してそれを合理的に解釈或いは、興味・関心へと変換・調整することにより、学習を継続させていることが示唆される。したがって、JFL 環境における学習者は、目標言語の国に対する不安や否定的なイメージを合理的な解釈や調整を通して学習動機づけと関連づけることにより、学習を継続していくものと考えられる。

以上の結論をもとに、本研究の意義を二点述べる。一つ目は、JFL 環境における学習者が日本語を習得するにあたり、目標言語の国に対する否定的なイメージをどのように受け止め、学習を持続するためにそのイメージをどのように処理するのかを理解することで、JFL 環境での日本語教育に新しい知見を提供できると考える。また、JFL 環境の現場で教えている日本語教員は、本研究で明らかになったような対日イメージを、韓国と異なる日本の文化的な面に繋げて指導を行うことで、学習者の否定的な対日イメージが学習動機づけに与える可能性のある負の影響を最小限に食い止めるにとどまらず、それを正の影響へ転換できることを示した。

二つ目は、本研究のような否定的な対日イメージと日本語学習動機づけの研究は、韓国のみならず、日本人英語学習者のアメリカに対する否定的なイメージと英語学習動機づけ、日本人中国語学習者の中国に対する否定的なイメージと中国語学習動機づけなど

のように、他の国や言語にも応用ができると考える。

8.3　今後の課題

本研究では、韓国の大学における日本語学習者が持つ対日イメージと日本語学習動機づけに関して研究を行った。2011 年以降、韓国人学習者や専攻者などが年々減少する現象が続いていたが、2017 年からは日本語学習者（特に非専攻者）の数が徐々に増加している傾向が見られる。その理由としては本稿で述べたように、現在の韓国社会は「就職難」が非常に深刻な状況であるため、大学生の間で「日本への就職が有利」という言説が影響し、日本関連専攻者ではなく非専攻者の日本語学習開始の増加が見られる。

このような点から、今後の課題としては、対日イメージと日本語学習動機づけに対する日本語・日本関連分野の専攻者ではなく、非専攻者の「日本への就職に対する動向」についてより具体的に注視していく必要がある。また、徐々に増加が見られる韓国人学習者数を維持する方略の検討へと繋げる必要性があると考える。

参考文献

岩井朝乃·朴志仙·加賀美常美代·守谷智美（2008）「韓国「国史」教科書の日本像と韓国人学生の日本イメージ」『言語文化と日本語教育』第 35 号，pp.10-19

岩男寿美子・萩原滋（1982）「韓国人大学生の対日イメージ」『慶応義塾大学新聞研究所年報』18，pp.23-35

石川慎一郎・前田 忠彦・山崎誠（編）（2010）『言語研究のための統計入門』くろしお出版

石塚健（2007）「韓国人大学生の日本語学習動機と自律性−学年別の動機づけと自己決定の段階性を中心に−」『日語日文學』第 36 輯，pp.141-157

李受香（2003）「第 2 言語および外国語としての日本語学習者における動機づけの比較ー韓国人日本語学習者を対象としてー」『世界の日本語教育』13, pp.75-92

李美淑（2013）「3.11 以降の韓国の日本語教育の現状と課題」『日本學報』第 97 輯，pp.55-69

上田章子・瀧口惠子・永野亜季・山田幸子（2014）「韓国における日本語専攻者の日本語学習意識ー大邱(テグ)・慶北地域の大学生を対象にー」『徳島大学国語国文學』27, pp.87-103

大西由美（2014）「日本語学習者の動機づけに関する縦断的研究 - 日本語接 触機会が少ない環境の学習者を対象にー」北海道大学大学院， 博士学位論文

纓坂英子・奥山洋子（2001）「韓国人の対日観と日本語学習動機の検討ー大学生群と成人群の世代間比較ー」『日本学報』第 47 輯，pp.77-91

纓坂英子・奥山洋子（2003）「韓国人大学生の対日観と日本語学習動機形成要因の検討」『日本学報』54，pp.187-198

纓坂英子・内藤伊都子・泉千春・奥山洋子（2008）「韓国の日本語教育状況の変化と大学生の日本語学習ー日本語学習動機と日本・日本人イメージの検討ー」『日本學報』75 輯，pp.299-309

纓坂英子（2008）「韓流と韓国・韓国人イメージ」『駿河台大学論叢』36 号，pp.29-47

纓坂英子（2011）「大学生の日本語学習動機と対日本イメージの検討-香港と中国間の比較ー」『研究発表：日本語教育/異文化研究と日本語教育』pp.1-8

大江惠子（2012）「韓国人日本語学習者の対日イメージ」『東京女子大学言語文化研究』20，pp.16-29

大関浩美（2010）、白井恭弘（監修）『日本語を教えるための第二言語習得論入門』くろしお出版
呉正培（2005）「韓国人大学生の日本人に対するステレオタイプ研究：日本語学習との関係」『文化』69（1/2），東北大学文学会，pp.80-93
呉正培（2006）「韓国人大学生の日本人ステレオタイプに関する質的研究：日本語学習の影響を中心として」『日語日文学研究』第 59 輯，1，pp.275-296
呉正培（2008a）「日本語学習者の日本人イメージにみられる特徴とその形成要因－韓国の大学における学習者と非学習者の比較－」『世界の日本語教育』18，pp.35-55
呉正倍（2008b）「日本人イメージの形成に対する直接経験の影響－韓国人大学生の場合－『言語科学論集』第 12 号，pp.61-72
呉正培（2008c）「韓国人大学生の日本人イメージに関する社会心理学的研究－日本語学習の影響を中心に－」東北大学大学院，　博士学位論文
王軼群（2017）「中国人大学生の対日認識と日本語学習動機づけ－L2 Motivation Self System の観点から－」『2017 年度日本語教育学会春季大会』予稿集，pp.227-232
海保博之・楠見孝（監修）、佐藤達哉・岡市廣成・遠藤利彦・大渕憲一・小川俊樹（編）（2014）『心理学総合事典 新装版』朝倉書店
加賀美常美代（2008）「日韓の女子大学生の国際交流意識とキャリア形成の比較：お茶の水女子大学の国際意識調査から」『お茶の水女子大学人文科学研究』4,pp.107-123
加賀美常美代・守谷智美・岩井朝乃・朴志仙・沈貞美（2008）「韓国における小・中・高・大学生の日本イメージの形成過程一「9 分割統合絵画法」による分析から『異文化間教育』28 号，pp.60-73
加賀美常美代・朴志仙・守谷智美・岩井朝乃（2010）「韓国における小学生・中学生・高校生･大学生の日本イメージの形成過程:日本への関心度と知識と関連から（佐々貴儀式（佐々木嘉則）先生追悼記念号）」『言語文化と日本語教育』第 39 号，pp.41-49
加賀美常美代・岡村佳代・小松翠・朴エスター（2013）「東日本大震災 1 年後の東京近郊の留学生のメンタルヘルスと支援ニーズ」『高等教育と学生支援：お茶の水女子大学教育機構紀要』4，pp.39-49
加賀美常美代･守谷智美 ･岩井朝乃（2014）「韓国における 20 代の日本語上級話者の日本イメージ」『お茶の水女子大学人文科学研究』10，pp.69-82
片田康明（2016）「日本語を学ぶ動機と日本に対する意識について－留学生へのアンケ

ート調査結果からー」『外国語教育 ： 理論と実践』42，pp.67-99
郭俊海･大北葉子（2001）「シンガポール華人大学生の日本語学習の動機づけについて『日本語教育』110 号，pp.130-139
郭俊海･全京姫（2006）「中国人大学生の日本語学習の動機づけについて」『新潟大学国際センター紀要』第 2 号, pp.118-128
夏素彦（2010）「中国における日本語専攻学習者の日本人イメージ：日本語学習動機との関連を中心に」『言語文化と日本語教育』 pp.112-121
葛文綺（1999）「留学生の異文化適応に関する研究ー来日目的，対日イメージと適応度との関連を中心にー」『名古屋大学教育部紀要，心理学』46，pp.287-297
川端一光・岩間徳兼・鈴木雅之（2018）『R による多変量解析入門 データ分析の実践と理論』オーム社
北澤美樹（2011）「留学生活への期待と満足：短期留学特別プログラム参加生の声」『待兼山論叢 』45, pp.65-82
金恩淑（2009）「韓国人の日本認識と歴史教育」『探究』第 20 号，愛知教育大学社会科教育学会 pp.6-13
金元正（2016）「日本の韓国人留学生受入れ促進戦略への提言ー対日イメージと韓国の大学をめぐる現状に焦点を当ててー」九州大学大学院，修士論文
金元正（2018a）「対日イメージと日本語学習動機づけー韓国人日本語学習者及び日本関連専攻者の減少と関連してー」『日語日文學研究』第 105 輯 1 券，pp.107 - 129
金元正（2018b）「韓国における大学生の日本語学習動機づけの検討ー日本語関連専攻者と非専攻者の比較ー」『日本文化學報』第 79 輯，pp.279 - 298
金元正（2019）「日本語学習者の対日イメージとその影響要因ー韓国の大学を事例としてー」『地球社会統合科学研究』第 10 号，pp.1 - 8
見城悌治・三村達也（2010）「現代中国における大学生の『日本』イメージー日本語専攻生、日本語学習生、日本語非学習生の比較ー」『国際教育』第 3 号，pp.1-38
小池伸一（2012）「動機づけ理論と学生指導への応用ー自己決定理論の援用ー」『保健医療技術学部論集』6，pp.65 - 78
小林明子（2008）「日本語学習者のコミュニケーション意欲と学習動機の関係」『広島大学大学院教育学研究科紀要』第二部　第 57 号，pp.245-253
小林由子（2018）「JFL 環境における日本語学習者を対象とした内発的動機づけ研究の可能性ー香港における日本のポピュラーカルチャーをきっかけとする学習者の検

討からー」『国際広報メディア・観光学ジャーナル』27，pp.157-172
近藤安月子・小森和子（編）（2012）『研究社　日本語教育事典』研究社
喬穎（2014）「中国の日本語教育と大学日本語専攻生の対日認識の形成に関する研究－日本語教育における「個人」の意義－」早稲田大学大学院日本語教育研究科，博士学位論文
グリム L.G. ＆ ヤーノルド P.R.（編）・小杉考司（監訳）（2016）『研究論文を読み解くための多変量解析入門：重回帰分析からメタ分析まで』北大路書房
齊藤朋美（2004）「韓国の大学生の日本、日本人、日本語に対する意識とイメージ形成に影響を與える要因について」『日本語文学』21，韓国日本語文学会 pp.35-56
齊藤朋美（2008）「韓国の大学生の日本、日本語に対するイメージ－親しい日本人がいるか否かを中心にして－」『동북아 문화연구』제 17 집，pp.535-553
齊藤朋美（2016）「日本語学習者と中国語学習者の学習動機とイメージ研究－韓国の大学生を対象としたアンケート調査の結果からみえるもの－」『日本語教育研究』第37 輯，pp.81-100
鈴木寿子（2014）「女性の大学院留学生はどのように日本留学を開始、継続、終結するのか」『高等教育と学生支援 ：お茶の水女子大学教育機構紀要』4，pp.8-19
関根紳太郎（2013）「東日本大震災報道にみる対日イメージとその評価に関する研究」『Media, English and communication：a journal of the Japan Association for Media English Studies』3，pp.13-30
田中洋子（2012）「韓国人大学生の日本語学習動機づけに関する研究」韓国外国語大学校大学院，博士学位論文
田中詩子・岡村郁子・加賀美常美代（2015）「日本における台湾出身者の日本イメージ：日本語上級話者を対象に」『お茶の水女子大学人文科学研究』11, pp.27-41
辻野裕紀（2011）「韓国における日本語教育の現況について－大学と高等学校を中心に－」『外国語教育研究』14，pp.97-113
寺島拓幸・廣瀬毅士（2015）『SPSS によるデータ分析』東京図書
譚紅艶・渡邉勉・今野裕之（2011）「在日外国人留学生の異文化適応に関する心理学的研究の展望」『目白大学心理学研究』7，pp.95-114
中川かず子・神谷順子・李俊鎬（2006）「韓国における日本語学習者の日本と日本文化に対する意識（1）－大学の日本語専攻・非専攻生に対する調査から」『北海学園大学人文論集』第 35，pp.41-69

中沢和子（1979）『イメージの誕生－0 歳からの行動観察－』（NHK ブックス）日本放送出版協会
中山亜紀子（2008）「韓国人留学生のライフストーリーにみる留学の満足－大学生活に対する期待との関わりから－」『阪大日本語研究』20, pp.197-223
日本語教育学会（編）（2005）『新版　日本語教育事典』大修館書店
縫部義憲・狩野不二夫・伊藤克浩（1995）「大学生の日本語学習動機に関する国際調査－ニュージーランドの場合－」『日本語教育』86 号，pp.162-172 日本語教育学会
南相瓔（2009）「韓国人大学生の日本及び日本人に対する認識：日本語学習者と日本語非学習者の比較を中心に」『言語文化論叢』13，pp.129-150
萩原滋・岩男寿美子（1998）「在日留学生の対日イメージ（11）日本人の好む外国人」『慶応義塾大学新聞研究所年報』31，pp.35-52
萩原滋・岩男寿美子（1998）「在日留学生の対日イメージ（14）：帰国留学生調査（1995）の枠組みと結果の概要」『メディア・コミュニケーション：慶応義塾大学メディア・コミュニケーション研究所紀要』48，pp.75-103
林日出男（2014）「動機づけ視点で見る日本人の英語学習－内発的・外発的動機づけを軸に－」平成 26 年 9 月授与 関西大学審査学位論文
藤原三枝子（2012）「自己決定理論に基づく第二言語習得研究の動機づけ研究」『南山言語科学=Nanzan studies in language science』7，pp.17-32
朴世稀（2007）「日本語学習者の社会文化的要因と動機付けについて－韓国人学習者とのインタビュー内容を中心に－」『間谷論集』（1），pp.49-71
山口俊雄（2011）「震災・世界観・想像力－3.11 東日本大震災被災者に聞く」『愛知県立大学日本文化学部論集・国語国文学科編』3，pp.1-28
山際勇一郎・田中敏（1997）『ユーザーのための心理データの多変量解析法：方法の理解から論文の書き方まで』教育出版
山下順子（2016）「日本語学習における動機づけと自己調整学習ストラテジーの関係」『CAJLE Annual Conference Proceedings』pp.303-310
李受香（2003）「第 2 言語および外国語としての日本語学習者における動機づけの比較：韓国人日本語学習者を対象として」『世界の日本語教育．日本語教育論集』13，pp.75-92
米川和雄・山崎貞政（2010）『超初心者向け SPSS 統計解析マニュアル統計の基礎から多変量解析まで』北大路書房

김행영（2019）「일본어 학습 동기 및 대일 이미지와 학업성취도와의 관련성 연구 : 서울지역 고등학생을 대상으로」고려대학교 교육대학원，석사학위논문

장유정（2016）「초급 일본어 학습자의 학습 동기 및 동기 상실 요인 : 한국 고등학생을 중심으로」고려대학교 교육대학원，석사학위논문

최소영（2014）「일본어 학습자의 학습동기와 상급 학습자에 대한 태도－제 2 언어 동기적 자아체계의 관점에서－」『日語日文學研究』89 집，pp.391-411

Deci, E. L.（1975）Intrinsic motivation. NY: Plenum Press.（安藤延男・石田梅男訳『内発的動機づけ－実験社会心理学的アプローチ』誠信書房）

Deci, E. L. & Ryan, R. M.（2002）Handbook of self-determination research. Rocherter, NY: University of Rochester Press

Dörnyei, Z.（2003）Attitudes, orientation, and motivations in language learning: Advances in theory, research, and applications. Language Learning, 53 (sup.), pp. 3-32

Dörnyei, Z. & Chan, L（2013）Motivation and Vision: An Analysis of Future L2 Self Images, Sensory Styles, and Imagery Capacity Across Two Target Languages Language Learning, 63, 437-462

Gardener, R. C. & W. E. Lambert（1959）Motivational variables in second language Acquisition, Canadian Journal of Psychology, 13，pp. 266-72

Gardner, R. C. & Lambert, W. E.（1972）Attitudes and motivation in second language learning. Rowley，MA: Newbury House.

法務省「在留外国人統計（旧登録外国人統計）の『都道府県別在留資格別在留外国人』」http://www.moj.go.jp/housei/toukei/toukei_ichiran_touroku.html （2019 年 7 月 19 日アクセス）

一般財団法人　日本語教育振興協会　「日本語教育機関の概況」https://www.nisshinkyo.org/article/pdf/20190215s.gaikyo.pdf（2019 年 7 月 19 日アクセス）

国際交流基金（2017）『海外の日本語教育の現状 2015 年度日本語教育機関調査より』https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/survey15.html（2019 年 7 月 19 日アクセス）

国際交流基金 「韓国（2017 年度）」『2015 年度日本語教育機関調査結果』https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2017/korea.html#KEKK

（2019 年 7 月 19 日アクセス）
国際交流基金の「日本語教育国・地域別情報　韓国（2014 年度）」）
https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2014/korea.html#SEIDO
（2019 年 7 月 19 日アクセス）
特定非営利活動法人言論 NPO 東アジア研究院 EAI「第 3 回日韓共同世論調査　日韓世論比較結果」
http://www.genron-npo.net/pdf/150529.pdf　（2019 年 7 月 19 日アクセス）
한국의 교육부 국외 고등교육기관 한국인 유학생 통계
（韓国の教育部「国外高等教育機関韓国人留学生統計」）
http://www.moe.go.kr/boardCnts/list.do?boardID=350&m=040103&s=moe
（2019 年 7 月 19 日アクセス）
한국의 교육통계서비스（韓国の教育統計サービス）
http://kess.kedi.re.kr/index　（2019 年 7 月 19 日アクセス）
한국의 ncic 국가교육과정정보센터（韓国の ncic 国家教育課程情報センター）
http://ncic.go.kr/mobile.dwn.ogf.inventoryList.do;jsessionid=4473429FFB7040B9ED0B1D48904961AA#（2019 年 7 月 19 日アクセス）
한국 MBC 뉴스（韓国 MBC ニュース）「大学卒業後、4 年間就職に失敗、自殺」
http://imnews.imbc.com//news/2015/society/article/3755481_17657.html（2019 年 7 月 19 日アクセス）

資料１　現在の韓国社会における「就職難」に関するインタビュー

G 先生：2011 年前までは、日本に対する肯定的なイメージを多く持っていたと思ったが、3.11 の発生後から日本に対する関心が少なくなったと思います。しかし、今は「地震・放射能の問題」に対する不安より、自分の将来を考え、就職ができるのなら日本に行くと思います。特に、自分の専攻を持っている非専攻者たちは、周りから「日本での就職が良い」という情報を得、日本語学習を始めている場合が多いと思います。専攻者の場合は、大学 2・3 年生になってから自分の専攻を活かして就職をどのようにするかを考えているようです。非専攻者たちの方は、1 年生で「就職」に関する情報を得て、2・3 年生から日本語学習を始める学生が多いと思います。特に、これまで日本でビザを得ることが厳しかった「外食」、「建築」、「土木」などの分野が、2019 年からはビザ発給条件が緩和されるというニュースから、特に非専攻者は「日本への就職」について関心がさらに高まっています。また、ビザを得るためには JLPT（日本語能力試験）の N2 級が必要ですが、非専攻者の場合はそれが少し厳しいかもしれないにも拘らず、多くの非専攻者は N2 を取得し、現在日本で就職しています。そのため、2017 年後半？くらいから非専攻者の日本語学習者が増加しており、また、日本語学習者が増加していることについては、「日本への就職」に関連づけるしかないと思います。

J さん：　韓国では、企業は経費節減のため、高い SPEC を獲得している 1 人を採用して、3,4 人分の仕事を任せていると思います。それで、すでに就職している人も大変で、就職ができていない人もその問題で大変であるため、韓国での就職は本当に大変だと思います。また、国も就職に関しての対策をあまりしないし…そのため、自殺する人々も多いと思います。
また、先輩に聞いたのですが、日本語専攻者でもない貿易学科の学生も就職のために、JLPT の N1 級を取得して、またそれが SPEC になると。もし、日本に就職ができなかった場合にも、SPEC として履歴書に書けるため、とりあえず、JLPT の資格を取得しておくと思います。それで、日本語学習者が増加しているのは、日本への就職と関連があると思います。周りから「日本へ就職ができた」という話を聞くと、自分もそのようになりたいため、学

習者が増加すると思います。また、大学の先生からも、韓国より「日本への就職」がはるかに易しいと勧められています。そして、2017 年から日本文学の授業があまりないです。学科の名前も「日語日文学科」から「日本語学科」に変更されたことを見ても、日本文学を学んでも就職に役に立たないため、文学の授業は減らして、「就職のための実用的な日本語を集中的」に教えて就職に役に立てるようにしようとする学校側の考えであると思います。でも、私の周りにも日本に就職できている人が増えているのですが、日本に就職しても会社に対する不満や問題がたくさん起こっていることから、日本は外国人労働者を受け入れる準備ができていないのに、人手不足のためにとり合えず採用していることが考えられます。このような点から、日本への就職のため、現在日本語学習者が増加していてもそれは一時的なものかもしれないし、これからもう少し観察して見る必要があると思います。

K さん：　日本の企業は TOEIC の点数が 500 点程度でも採用してくれる会社が多いと思いますが、韓国では 800 点以上の点数を取得していても、そのような高い SPEC を獲得している人が多いため、就職が非常に難しいと思います。さらに、高い SPEC を獲得している人が非常に多いため、TOIEC の点数がそんなに必要でない会社なのに、その中で 1 人を選んで採用するのです。韓国は非常に SPEC 中心の社会であると思います。大学でも、就職のために、非専攻者もプラスアルファとして日本語を学習している学生が多いと先生から言われました。高校生の時は、学校の授業が終わって家に帰ると夜 11 時で、また朝 6 時に起きて学校に行き、土曜日も同じパターンでした。このような繰り返しを高校 3 年間続けて、やっと大学に入学したらまた就職の準備をさせられ、プレッシャーを受けています。昔、お母さんとお父さんの時代では、大学を卒業しなくても就職ができ、さらに一生同じ職場だったけど、今の若者たちはそうではないと思います。就職のために非常に努力して、就職に成功しても非常に不安であり、その会社で仕事が続けられるかも不安であり、最近は正社員としての採用もほとんどないと思います。

H さん：　私は大学の経営学科に入学をしましたが、3 年生の時に日本語の専攻に変更しました。日本への就職が良くできると聞いて、また韓国では就職難で厳し

いと思ったからです。現在、韓国の大学で日本語を専攻して、その専攻を活かして韓国の国内で就職ができている人はほとんど見たことがないです。また、最近公務員の試験を準備している人が多いけど、それはそのくらい韓国では就職難であるということだと思います。日本では、2020 年東京オリンピックが行われるため、外国人の採用が増えるという情報を得ています。そのため、日本語学習者も増加しているのではないかと思います。私の大学でも非専攻者の基礎日本語の授業は、他の外国語の授業より履修登録の締切が早く終わっています。日本語非専攻者は、ほとんど教養科目として授業を受けています。また、日本への就職にあたっても IT の企業に就職が良くできています。そして、地震・放射能についての心配は、以前より現在は薄まっていると思うのは、東京オリンピックもあり、日本への就職も良くできているため、地震・放射能の問題に対するイメージは徐々に改善できていくようです。

O さん： 大学で日本語学習者が増えたことをたくさん感じていました。韓国では、就職難が非常に深刻で、すでに就職している友達の話を聞くと、ロボットのように仕事の量が非常に多くて、会社に適応ができず、自分が会社を辞めても就職を希望する人材が多いため、パワハラが非常に酷いそうです。職場環境が非常に良くないと友達の何人からも聞いています。そのため、このような韓国社会の就職難について良く分かっている日本企業は、韓国の大学で「会社説明会」を頻繁に行っています。これは、就職を希望する学生の立場でも役に立っています。つまり、韓国人大学生も日本で就職ができて良く、日本企業もまじめな韓国人の人材を採用して良く、お互いに良いことであると思います。でも、韓国の大学で「会社説明会」を行う日本企業はブラック会社の可能性が高いと思います。それは、日本は人材不足を埋めるためにとり合えず外国人を採用していて、実際に入社すると、説明会での契約条件と異なると聞きました。つまり、今は日本への就職がブームになっているけど、このブームは時間が経つとなくなるかもしれないと思います。

資料 2-1（予備的調査：韓国語版）

한국인대학생의 일본어학습동기와 대일이미지 조사

<조사 협력의 부탁말씀>

안녕하세요? 저는 일본 큐슈대학대학원 박사과정에 재학중인 김원정 이라고 합니다. 저는 현재, "한국인대학생의 일본어학습동기와 일본에 대한 이미지"를 연구하고 있으며, 그 일환으로 설문조사를 실시하고 있습니다. 여러분께서 답변해 주시는 내용은, 한일간의 상호이해를 증진시키기 위한 본 연구의 귀중한 자료가 됩니다.

바쁘신 중에 대단히 죄송합니다만, 여러분의 협력을 부탁드리겠습니다.

답변내용은 연구이외의 목적으로는 절대 사용하지 않습니다. 그리고, 앙케이트 결과는 통계적으로 처리되므로, 개인의 답변을 그대로 누출하는 일도 없습니다. 생각하시는 대로 솔직하게 답변해 주시면 감사하겠습니다.

1. 성별： 남 , 여
2. 연령： 세
3. 전공： 학과, 학년
4. 이메일：
5. 일본어 학습기간： 년 개월 (쉬었던 기간 제외)
6. 일본어 레벨： 초급 / 중급 / 상급

＜답변에 앞서＞

- 설문지는 **A3 양면 1 장**이고, 답변에 걸리는 시간은 **약 10 분~15 분정도** 입니다.
- 기입하지 않은곳이 있으면 분석할수 없으니, **모든 질문에 빠짐없이** 답해 주시기 바랍니다.

아울러, 본 조사에 관한 의견이나 질문이 있으시면 아래로 연락 주시길 바랍니다.

＜연락처＞

〒819-0395 九州大学大学院 地球社会統合科学府

博士課程 2 年 金元正

TEL：+81-080-4115-3321

E-mail： kim_wonjung@yahoo.co.jp

Ⅰ. 일본과 일본인에 대한 이미지에 대해서

이하의 내용에, 해당하는 번호를 하나만 골라 ○를 표시해 주세요.
1=전혀 그렇지 않다 2=그렇지 않다 3=어느쪽도 아니다 4=그렇다 5=매우 그렇다

"일본에 대해서"		
1	선진국이다 (경제,산업발전)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
2	능력주의다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
3	개방적□ 자유분방하다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
4	규칙□ 시간을 엄수한다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
5	전통계승을 중시한다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
6	개성을 중시한다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
7	독창적이다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
8	신뢰감이 있다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
9	생활환경이 좋다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
10	사회 시스템이 좋다 (복지,서비스등)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
11	지리□ 자연환경이 좋다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
12	취직율이 높다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
13	유학하기 좋은 나라다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
14	외국인이 살기 편하다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
15	편견이 있다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
16	이기주의다 (정치, 역사문제등)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
17	물가가 높다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
18	지진 (3.11 동일본대지진 등) 의 나라다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
19	방사능의 나라다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
20	일본의 이미지는 나의 일본어학습동기에 영향을 준다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
"일본인에 대해서"		
1	친절하고 상냥하다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
2	예의가 바르다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
3	근면하고 성실하다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
4	일할 때 세밀하고 철저하다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
5	신뢰를 할 수 있다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
6	친구로 사귀고 싶다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
7	일본인에 대해 더 알고 싶다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
8	남에게 폐를 끼치지 않으려 한다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
9	나름 본받을 점이 많다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
10	이면적이다 (겉과 속이 다름)	1 - 2 - 3 - 4 - 5

11	표현이 애매하다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
12	본심을 잘 말하지 않는다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
13	친해지기 힘들다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
14	정이 없고 냉정하다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
15	융통성이 없다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
16	고정관념이 있다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
17	일본인의 이미지는 나의 일본어학습동기에 영향을 준다	1 - 2 - 3 - 4 - 5

Q. 일본어학습을 시작하기 전과 후에 "일본・일본인" 에 대해 이미지가 어떻게 바뀌었습니까?

(　　)

Ⅱ. 대일이미지의 영향요인에 대해서

이하의 내용에, 해당하는 번호를 하나만 골라 ○를 표시해 주세요.

1=전혀 그렇지 않다 2=그렇지 않다 3=어느쪽도 아니다 4=그렇다 5=매우 그렇다

1	부모의 영향	1 - 2 - 3 - 4 - 5
2	중□ 고교의 학교교육 (역사 등)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
3	한국 TV 의 뉴스, 시사프로	1 - 2 - 3 - 4 - 5
4	한국의 패션잡지, 서적	1 - 2 - 3 - 4 - 5
5	한국의 소설, 드라마, 영화	1 - 2 - 3 - 4 - 5
6	인터넷에 올라온 일본 동영상	1 - 2 - 3 - 4 - 5
7	인터넷 게시판의 일본 경험담	1 - 2 - 3 - 4 - 5
8	일본의 TV 방송 (NHK 등)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
9	일본의 패션잡지, 서적	1 - 2 - 3 - 4 - 5
10	일본 만화나 애니메이션	1 - 2 - 3 - 4 - 5
11	일본 드라마, 영화, 음악	1 - 2 - 3 - 4 - 5
12	일본어수업 혹은 일본에 관련된 수업 (일본어 선생님의 이야기나 교재 등)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
13	일본을 잘 아는 친척이나 친구의 이야기	1 - 2 - 3 - 4 - 5
14	일본 제품을 사용한 경험	1 - 2 - 3 - 4 - 5
15	학교나 거리에서 본 일본인의 인상	1 - 2 - 3 - 4 - 5
16	일본을 여행한 경험	1 - 2 - 3 - 4 - 5
17	일본에서 생활한 경험 (어학연수 등)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
18	일본인과의 교류 경험 (친구사귀기 등)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
19	지진 (3.11 동일본대지진 등)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
20	방사능	1 - 2 - 3 - 4 - 5
21	한일관계 (정치, 역사등)	1 - 2 - 3 - 4 - 5

Q1. 최근, 한국인 일본어학습자와 일본의 한국인유학생이 감소하고 있는데, 그 요인은무엇이라고 생각합니까?

( )

Q2. 귀하가 현재 일본어학습을 계속하고 있는 목적과 이유는 무엇입니까?

( )

Ⅲ. 일본어학습동기에 대해서

이하의 내용에, 해당하는 번호를 하나만 골라 ○를 표시해 주세요.

1=전혀 그렇지 않다 2=그렇지 않다 3=어느쪽도 아니다 4=그렇다 5=매우 그렇다

1	부모님의 영향이 있었다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
2	중□ 고등학교 때 제 2 외국어였다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
3	주위 사람들에게 칭찬 받고 싶기 때문에 공부한다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
4	보다 좋은 직장에 취업하고 싶다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
5	취직과 승진에 유리하니까 배우고 싶다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
6	일본어를 사용할수 있는 직장에서 일하고 싶다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
7	대학입학을 위해서 필요했다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
8	교양의 일환이다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
9	졸업을 위한 필수 과목이다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
10	시험에서 보다 좋은 점수를 받고 싶다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
11	자신의 시야를 넓히기 위해 좋다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
12	일본어를 학습하면 잘할수 있을것이라 생각한다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
13	친구와 일본어로 이야기 하는 것이 즐겁다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
14	일본어 실력이 향상되는 것이 기쁘다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
15	일본어학습을 잘하고 싶지만, 방법을 모르겠다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
16	일본어학습을 하고 싶지만, 시간이 없다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
17	일본어학습을 시작한 이상, 능숙하게 하고싶다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
18	일본어능력을 갖추기 위해 더욱 노력하고 싶다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
19	수업시간에 교수님이 말을 걸어오면 기쁘다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
20	일본어 공부를 하는 것이 즐겁다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
21	한국어와 비슷해서 배우기 쉽다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
22	일본어 수업시간이 즐겁다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
23	지진 (3.11 등) 에 관계없이, 일본어학습이 좋다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
24	방사능 문제와 관계없이, 일본어학습이 좋다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
25	한일관계 (정치□ 역사등) 에 관계없이, 일본어학습이 좋다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
26	일본인과 교류 하고싶다. (친구사귀기 등)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
27	일본을 좀더 이해하고 싶다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
28	일본의 연예인,드라마,영화,만화,애니메이션이좋다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
29	일본 패션이 좋다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
30	일본 음식이 좋다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
31	일본에 여행 가고 싶다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5

32	일본어와 한국어의 차이점을 알고 싶다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
33	일본의 문화, 역사에 관심이 있다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
34	일본 문학에 관심이 있다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
35	일본 신문이나 잡지를 읽고 싶다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
36	장래 일본에 살고 싶다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5

Q1. 귀하가 처음 일본어학습을 시작한 이유는 무엇입니까?

(　　)

Q2. 귀하는 일본어를 공부해서 장래에 어떻게 이용하고 싶다고 생각합니까? (예. 취직, 진학등)

(　　)

이상으로 모든 설문이 끝났습니다. 귀중한 시간 내어 주셔서 대단히 감사드립니다.

資料 2-2（予備的調査：日本語翻訳版）

韓国人大学生の日本語学習動機づけと対日イメージに関する調査

＜ご協力のお願い＞

はじめまして。私は九州大学大学院の博士課程に在籍している金元正と申します。
現在、「韓国人大学生の日本語学習動機づけと対日イメージ」について研究しており、その一環として質問紙調査を行っております。答えていただいた内容は、韓日間の相互理解を深めるための本研究の貴重なデータとなります。お忙しいところ誠に恐縮ですが、ご協力お願い致します。

みなさまの回答は研究以外の目的には決して使いません。また、結果は全て統計的に処理をいたしますので、個人の回答をそのまま使用することもございません。お考えのとおりお答えくださいますようお願い致します。

1. 性別　：　男 /　女
2. 年齢　：　　才
3. 専攻　：　　学科,　　年生
4. メールアドレス：
5. 日本語学習の期間：　　年　　ヶ月（休んでいた期間は除く）
6. 日本語レベル：　初級 / 中級 / 上級

＜回答に先立って＞

- 調査票は全部で A3 の両面 1 枚であり、回答にかかる時間は約 10 分～15 分です。
- 記入漏れがあると分析ができないため、全ての質問にお答えください。

なお、この調査に関してご意見やご質問がございましたら、下記までご連絡ください。

＜連絡先＞
〒819-0395　九州大学大学院　地球社会統合科学府
博士課程 2 年　金元正
TEL：+81-080-4115-3321
E-mail：　kim_wonjung@yahoo.co.jp

Ⅰ． 対日（日本・日本人）イメージについて

下記の内容に当該する数字に○を付けてください。

1＝全然そう思わない　2＝そう思わない　3＝とちらともいえない　4＝そう思う　5＝とてもそう思う

“日本について”		
1	先進国（経済・産業の発展）である	1－2－3－4－5
2	能力主義である	1－2－3－4－5
3	開放的・自由奔放	1－2－3－4－5
4	規則・時間遵守	1－2－3－4－5
5	伝統を継承重視する	1－2－3－4－5
6	個性を重視する	1－2－3－4－5
7	独創的である	1－2－3－4－5
8	信頼できる	1－2－3－4－5
9	生活環境が良い	1－2－3－4－5
10	社会システムが良い（福祉、サービスなど）	1－2－3－4－5
11	地理・自然環境が良い	1－2－3－4－5
12	就職率が高い	1－2－3－4－5
13	留学するにあたって良い国である	1－2－3－4－5
14	外国人が住みやすい国だと思う	1－2－3－4－5
15	偏見がある	1－2－3－4－5
16	利己主義（政治・歴史問題など）	1－2－3－4－5
17	物価が高い	1－2－3－4－5
18	地震（3.11 東日本大震災など）の国である	1－2－3－4－5
19	放射能の国である	1－2－3－4－5
20	日本イメージは、私の日本語学習動機づけに影響を与えている	1－2－3－4－5
“日本人について”		
1	親切・やさしい	1－2－3－4－5
2	儀正しい	1－2－3－4－5
3	勤勉・誠実である	1－2－3－4－5
4	仕事する際、緻密で徹底的である	1－2－3－4－5
5	信頼できる	1－2－3－4－5
6	友達として付き合いたい	1－2－3－4－5
7	日本人について、もっと知りたい	1－2－3－4－5
8	迷惑をかけない	1－2－3－4－5
9	日本人に見習うことが多い	1－2－3－4－5

10	二面的である	1－2－3－4－5
11	表現があいまい	1－2－3－4－5
12	本音をよく言わない	1－2－3－4－5
13	親しみにくい	1－2－3－4－5
14	情がない・冷たい	1－2－3－4－5
15	融通が利かない	1－2－3－4－5
16	固定観念	1－2－3－4－5
17	日本人イメージは、私の日本語学習動機づけに影響を与えている	1－2－3－4－5

Q. 日本語学習開始の前と後に、日本・日本人についてイメージがどう変わりましたか。

（　　）

Ⅱ. 対日イメージに与える影響要因について

下記の内容に当該する数字に○を付けてください。

1＝全然そう思わない　2＝そう思わない　3＝とちらともいえない　4＝そう思う　5＝とてもそう思う

1	親の影響	1－2－3－4－5
2	中・高校の学校教育（歴史など）	1－2－3－4－5
3	韓国のテレビのニュース、時事番組	1－2－3－4－5
4	韓国のファッション雑誌、書籍	1－2－3－4－5
5	韓国の小説、ドラマ、映画	1－2－3－4－5
6	インターネットの日本動画	1－2－3－4－5
7	インターネットの掲示板の日本での体験談	1－2－3－4－5
8	日本のテレビ放送（NHK など）	1－2－3－4－5
9	日本のファッション雑誌、書籍	1－2－3－4－5
10	日本の漫画、アニメ	1－2－3－4－5
11	日本のドラマ、映画、音楽	1－2－3－4－5
12	日本語・日本関連授業（日本語教師の話や教材など）	1－2－3－4－5
13	日本に詳しい親戚や友人の話	1－2－3－4－5
14	日本の製品を使用した経験	1－2－3－4－5
15	学校や街で見かける日本人の印象	1－2－3－4－5
16	日本を旅行した経験	1－2－3－4－5
17	日本で生活した経験(語学研修など)	1－2－3－4－5
18	日本人との交流の経験（友達作りなど）	1－2－3－4－5
19	地震（3.11 東日本大震災など）	1－2－3－4－5
20	放射能	1－2－3－4－5
21	韓日関係（政治・歴史など）	1－2－3－4－5

Q1. 近年、韓国人日本語学習者や日本の韓国人留学生が減少していますが、その要因は何だと思いますか。

（　　）

Q2. あなたが現在、日本語学習を継続している目的や理由は何ですか。

（　　）

Ⅲ.　日本語学習動機づけについて

下記の内容に当該する数字に○を付けてください。

1＝全然そう思わない　2＝そう思わない　3＝とちらともいえない　4＝そう思う　5＝とてもそう思う

1	親から勧められた	1－2－3－4－5
2	中・高校で第二外国語であった	1－2－3－4－5
3	周りの人に賞賛されたいため、学習する	1－2－3－4－5
4	より良い職場に就職したい	1－2－3－4－5
5	就職・昇進に有利だから学習したい	1－2－3－4－5
6	日本語が使える職場で働きたい	1－2－3－4－5
7	大学に入学するため、必要であった	1－2－3－4－5
8	教養の一環である	1－2－3－4－5
9	卒業のための必修科目である	1－2－3－4－5
10	試験でより良い点数をとりたい	1－2－3－4－5
11	自分の視野を広げるために良い	1－2－3－4－5
12	自分が日本語を学習すれば、すぐ上手になる	1－2－3－4－5
13	友達と日本語で話すのが楽しい	1－2－3－4－5
14	日本語の実力向上が嬉しい	1－2－3－4－5
15	日本語を学習したいが、学習の仕方が分からない	1－2－3－4－5
16	日本語を学習したいが、時間がない	1－2－3－4－5
17	日本語を始めた以上、より上手に話したい	1－2－3－4－5
18	日本語能力を身につけるためにさらに努力したい	1－2－3－4－5
19	授業で先生に声をかけられると、嬉しい	1－2－3－4－5
20	日本語を勉強するのが楽しい	1－2－3－4－5
21	韓国語と似ているため、学習しやすい	1－2－3－4－5
22	日本語の授業の時間が楽しい	1－2－3－4－5
23	地震（3.11 など）に関係なく、日本語学習が好き	1－2－3－4－5
24	放射能に関係なく、日本語学習が好き	1－2－3－4－5
25	韓日関係（政治・歴史など）に関係なく、日本語学習が好き	1－2－3－4－5
26	日本人と交流をしたい（友達作りなど）	1－2－3－4－5
27	日本をより理解したい	1－2－3－4－5
28	日本の芸能人・ドラマ・映画・漫画・アニメなどが好き	1－2－3－4－5
29	日本のファッションが好き	1－2－3－4－5
30	日本の食べ物が好き	1－2－3－4－5
31	日本を旅行したい	1－2－3－4－5

32	韓国語と日本語の相違点が知りたい	1－2－3－4－5
33	日本の文化・歴史に興味がある	1－2－3－4－5
34	日本の文学に興味がある	1－2－3－4－5
35	日本の新聞や雑誌を読みたい	1－2－3－4－5
36	将来日本に住みたい	1－2－3－4－5

Q1. あなたが日本語学習を始めた理由は何ですか。

（　　）

Q2. あなたは日本語学習を将来にどう活かしたいと思いますか。(例. 就職、進学など)

（　　）

以上で質問は終わりです。貴重な時間を割いていただき、誠にありがとうございました。

資料 3-1（本調査：韓国語版）

한국인대학생의 대일이미지와 일본어학습동기에 대한 조사

<조사 협력의 부탁말씀>

안녕하세요? 저는 일본 큐슈대학대학원 박사과정에 재학중인 김원정 이라고 합니다. 저는 현재, "한국인대학생의 대일 이미지와 일본어학습동기"에 대해 연구하고 있으며, 그 일환으로 설문조사를 실시하고 있습니다. 여러분께서 답변해 주시는 내용은, 한일간의 상호이해를 증진시키기 위한 본 연구의 귀중한 자료가 됩니다.
바쁘신 중에 대단히 죄송합니다만, 여러분의 협력을 부탁드리겠습니다.

답변내용은 연구이외의 목적으로는 절대 사용하지 않습니다. 그리고, 앙케이트 결과는 통계적으로 처리되므로, 개인의 답변을 그대로 누출하는 일도 없습니다. 생각하시는 대로 솔직하게 답변해 주시면 감사하겠습니다.

1. 성별： 남 , 여
2. 연령： _____세
3. 전공： _____학과, _____학년
4. 이메일： _____
5. 일본어 학습기간： _____년 _____개월 (쉬었던 기간 제외)
6. 일본어 레벨： 초급 / 중급 / 상급 JLPT(일본어능력시험) _____급

＜답변에 앞서＞

- 설문지는 **A3 양면 1 장**이고, 답변에 걸리는 시간은 **약 10 분~15 분정도** 입니다.
- 기입하지 않은곳이 있으면 **분석할수 없으니, 모든 질문에 빠짐없이** 답해 주시기 바랍니다.

아울러, 본 조사에 관한 의견이나 질문이 있으시면 아래로 연락 주시길 바랍니다.

＜연락처＞

〒819-0395 九州大学大学院 地球社会統合科学府

博士課程 2 年 金元正

TEL : +81-080-4115-3321

E-mail : kim_wonjung@yahoo.co.jp

Ⅰ. 일본과 일본인에 대한 이미지에 대해서

이하의 내용에, 해당하는 번호를 하나만 골라○를 표시해 주세요.
1=전혀 그렇지 않다 2=그렇지 않다 3=어느쪽도 아니다 4=그렇다 5=매우 그렇다

"일본에 대한 이미지"		
1	선진국이다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
2	능력주의다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
3	규칙□ 시간을 엄수한다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
4	전통계승을 중시한다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
5	개성을 중시한다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
6	독창적이다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
7	신뢰감이 있다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
8	생활환경이 좋다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
9	사회 시스템이 좋다 (복지,서비스등)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
10	지리□ 자연환경이 좋다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
11	취직율이 높다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
12	유학하기 좋은 나라다 (일상생활, 학교생활등)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
13	외국인이 살기 편하다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
14	이기주의다 (정치, 역사문제등)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
15	일본 사회에 위화감이 있다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
16	경제발전이 정체□ 부진 하고 있다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
17	외국인에 대해 편견과 차별이 있다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
18	절차가 복잡하다 (서류, 신청등)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
19	지진이 많은 나라다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
20	방사능의 나라다	1 - 2 - 3 - 4 - 5

Q. 위와 같은 일본의 이미지는, 귀하가 처음 일본어 공부를 시작할 때 영향을 주었습니까?
(예 / 아니오. 이유:)

"일본인에 대한 이미지"		
1	친절하고 상냥하다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
2	예의가 바르다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
3	근면하고 성실하다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
4	일할 때 세밀하고 철저하다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
5	참을성이 많다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
6	신뢰를 할 수 있다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
7	친구로 사귀고 싶다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
8	일본인에 대해 더 알고 싶다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
9	남에게 폐를 끼치지 않으려 한다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
10	나름 본받을 점이 많다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
11	이면적이다 (겉과 속이 다름)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
12	표현이 애매하다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
13	본심을 잘 말하지 않는다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
14	친해지기 힘들다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
15	정이 없고 냉정하다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
16	융통성이 없다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
17	고정관념이 있다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
18	외국인을 차별한다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
19	결단력이 없다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
20	인색하다	1 - 2 - 3 - 4 - 5

Q. 위와 같은 일본인의 이미지는, 귀하가 처음 일본어 공부를 시작할 때 영향을 주었습니까?
(예 / 아니오.　이유:　　)

Ⅱ. 대일이미지에 미치는 영향요인에 대해서

(일본과 일본인의 이미지에는 무엇이 영향을 미치고 있을까)

이하의 내용에, 해당하는 번호를 하나만 골라○를 표시해 주세요.
1=전혀 그렇지 않다 2=그렇지 않다 3=어느쪽도 아니다 4=그렇다 5=매우 그렇다

1	부모 또는 친구의 영향	1 - 2 - 3 - 4 - 5
2	중□ 고교의 학교교육 (역사 등)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
3	한국 TV 의 뉴스, 신문	1 - 2 - 3 - 4 - 5
4	한국의 패션잡지, 서적	1 - 2 - 3 - 4 - 5
5	한국의 소설, 드라마, 영화	1 - 2 - 3 - 4 - 5
6	인터넷에 올라온 일본 동영상	1 - 2 - 3 - 4 - 5
7	인터넷 게시판의 일본 경험담	1 - 2 - 3 - 4 - 5
8	일본의 TV 방송 (NHK 등)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
9	일본의 패션잡지, 서적	1 - 2 - 3 - 4 - 5
10	일본 만화나 애니메이션	1 - 2 - 3 - 4 - 5
11	일본 드라마, 영화, 음악 (J-POP)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
12	일본어수업 혹은 일본에 관련된 수업 (일본어 선생님의 이야기나 교재 등)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
13	일본을 잘 아는 친척이나 친구의 이야기	1 - 2 - 3 - 4 - 5
14	일본 제품을 사용한 경험	1 - 2 - 3 - 4 - 5
15	학교나 거리에서 본 일본인의 인상	1 - 2 - 3 - 4 - 5
16	일본을 여행한 경험	1 - 2 - 3 - 4 - 5
17	일본에서 생활한 경험 (유학,어학연수,워킹홀리데이 등)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
18	일본인과의 교류 경험 (친구사귀기 등)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
19	지진	1 - 2 - 3 - 4 - 5
20	방사능	1 - 2 - 3 - 4 - 5
21	한일관계 (정치, 역사등)	1 - 2 - 3 - 4 - 5

Q1. 일본어학습을 시작하기 전과 후에 "일본 또는 일본인"에 대한 이미지가 바뀌었습니까?

(1. 일본 : 예 / 아니오. 이유 :

2. 일본인 : 예 / 아니오. 이유 :)

Q2. 최근, 한국인 일본어학습자 · 일본관련전공자 · 일본의 한국인유학생이 감소하고 있는데, 그 요인은 무엇이라고 생각합니까?

( )

Ⅲ. 일본어학습동기에 대해서

이하의 내용에, 해당하는 번호를 하나만 골라○를 표시해 주세요.
1=전혀 그렇지 않다 2=그렇지 않다 3=어느쪽도 아니다 4=그렇다 5=매우 그렇다

1	부모님의 영향이 있었다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
2	중□ 고등학교 때 제 2 외국어였다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
3	전공이기 때문이다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
4	대학입학을 위해서 필요했다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
5	자격증 취득을 위해서이다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
6	졸업을 위한 필수 과목이다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
7	취직과 승진에 유리하니까 배우고 싶다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
8	보다 좋은 직장에 취업하고 싶다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
9	일본어를 사용할수 있는 직장에서 일하고 싶다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
10	시험에서 보다 좋은 점수를 받고 싶다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
11	자신의 시야를 넓히기 위해 좋다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
12	일본어가 좋다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
13	어학학습을 위해서이다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
14	일본어 실력이 향상되는 것이 기쁘다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
15	친구와 일본어로 이야기 하는 것이 즐겁다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
16	일본어를 학습하는 것이 즐겁다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
17	한국어와 비슷해서 배우기 쉽다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
18	일본어 수업시간이 즐겁다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
19	일본인 교수님과의 수업이 즐겁다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
20	지진에 관계없이, 일본어학습이 좋다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
21	방사능 문제와 관계없이, 일본어학습이 좋다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
22	한일관계 (정치□ 역사등) 에 관계없이, 일본어학습이 좋다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
23	일본인과 교류 하고싶다. (친구사귀기 등)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
24	일본을 좀더 이해하고 싶다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
25	일본의 연예인, 드라마, 영화, 음악(J-POP)가 좋다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
26	일본의 만화, 애니메이션이좋다	1 - 2 - 3 - 4 - 5
27	일본 패션이 좋다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
28	일본 음식이 좋다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
29	일본에 여행 가고 싶다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
30	일본어와 한국어의 차이점을 알고 싶다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
31	일본의 문화, 역사에 관심이 있다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
32	일본 문학에 관심이 있다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5

33	일본 신문이나 잡지를 읽고 싶다.	1 - 2 - 3 - 4 - 5
34	일본에서 유학하고 싶다. (단기유학, 교환학생 등)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
35	장래에 일본에 살고 싶다. (취직, 일본인과의 결혼 등)	1 - 2 - 3 - 4 - 5

Q1. 귀하가 처음 일본어학습을 시작한 이유는 무엇입니까?

(　　)

Q2. 귀하가 현재 일본어학습을 계속하고 있는 이유는 무엇입니까?

(　　)

Q3. 귀하는 일본어를 공부해서 장래에 어떻게 이용하고 싶다고 생각합니까? (예. 취직, 진학등)

(　　)

이상으로 모든 설문이 끝났습니다. 귀중한 시간 내어 주셔서 대단히 감사드립니다.

資料 3-2（本調査：日本語翻訳版）

韓国人大学生の対日イメージと日本語学習動機づけに関する調査

＜ご協力のお願い＞

はじめまして。私は九州大学大学院の博士課程に在籍している金元正と申します。
私は現在、「韓国人大学生の対日イメージと日本語学習動機づけ」について研究しており、
その一環として質問紙調査を行っております。答えていただいた内容は、韓日間の相互理解を深めるための本研究の貴重なデータとなります。お忙しいところ誠に恐縮ですが、ご協力お願い致します。

みなさまの回答は研究以外の目的には決して使いません。また、結果は全て統計的に処理をいたしますので、個人の回答をそのまま使用することもございません。お考えのとおりお答えくださいますようお願い致します。

1. 性別　：　男 /　女
2. 年齢　：　＿＿＿＿才
3. 専攻　：　＿＿＿＿＿＿＿＿学科,　＿＿＿＿年生
4. メールアドレス：　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
5. 日本語学習の期間：　＿＿＿＿年　＿＿＿＿ヶ月（休んでいた期間は除く）
6. 日本語レベル：　初級 / 中級 / 上級　　JLPT（日本語能力試験　＿＿＿＿級）

＜回答に先立って＞

- 調査票は全部で A3 の両面 1 枚であり、回答にかかる時間は約 10 分～15 分です。
- 記入漏れがあると分析ができないため、全ての質問にお答えください。

なお、この調査に関してご意見やご質問がございましたら、下記までご連絡ください。

＜連絡先＞
〒819-0395　九州大学大学院　地球社会統合科学府
博士課程 2 年　金元正
TEL：+81-080-4115-3321
E-mail：　kim_wonjung@yahoo.co.jp

Ⅰ． 日本及び日本人のイメージについて

下記の内容に該当する数字に○を付けてください。
1＝全然そう思わない　2＝そう思わない　3＝どちらともいえない　4＝そう思う　5＝とてもそう思う

“日本についてのイメージ”		
1	先進国である	1－2－3－4－5
2	能力主義である	1－2－3－4－5
3	規則・時間を遵守する	1－2－3－4－5
4	伝統を継承重視する	1－2－3－4－5
5	個性を重視する	1－2－3－4－5
6	独創的である	1－2－3－4－5
7	信頼感がある	1－2－3－4－5
8	生活環境が良い	1－2－3－4－5
9	社会システムが良い（福祉、サービスなど）	1－2－3－4－5
10	地理・自然環境が良い	1－2－3－4－5
11	就職率が高い	1－2－3－4－5
12	留学するにあたって良い国である（日常生活、学校生活など）	1－2－3－4－5
13	外国人が住みやすい国だと思う	1－2－3－4－5
14	利己主義（政治・歴史問題など）である	1－2－3－4－5
15	日本社会に違和感がある	1－2－3－4－5
16	経済発展が停滞・不振している	1－2－3－4－5
17	外国人に対して偏見や差別がある	1－2－3－4－5
18	手続きが複雑（書類、申込みなど）	1－2－3－4－5
19	地震が多い国である	1－2－3－4－5
20	放射能の国である	1－2－3－4－5

Q.　このような日本のイメージはあなたが日本語学習を始める時に影響を与えましたか。
（　はい / いいえ　　その理由：　　）

“日本人についてのイメージ”		
1	親切・やさしい	1－2－3－4－5
2	礼儀正しい	1－2－3－4－5
3	勤勉・誠実である	1－2－3－4－5
4	仕事する際、緻密で徹底的である	1－2－3－4－5
5	我慢強い	1－2－3－4－5
6	信頼できる	1－2－3－4－5
7	友達として付き合いたい	1－2－3－4－5
8	日本人について、もっと知りたい	1－2－3－4－5
9	迷惑をかけない	1－2－3－4－5
10	日本人に見習うことが多い	1－2－3－4－5
11	二面的である（表と裏がある）	1－2－3－4－5
12	表現があいまい	1－2－3－4－5
13	本音をよく言わない	1－2－3－4－5
14	親しみにくい	1－2－3－4－5
15	情がない・冷たい	1－2－3－4－5
16	融通が利かない	1－2－3－4－5
17	固定観念がある	1－2－3－4－5
18	外国人を差別する	1－2－3－4－5
19	決断力がない	1－2－3－4－5
20	けちである	1－2－3－4－5

Q.　このような日本人のイメージはあなたが日本語学習を始める時に影響を与えましたか

（　はい / いいえ　　その理由：　　）

Ⅱ．対日イメージに与える影響要因について

（日本及び日本人のイメージには何が影響を与えているのか）

下記の内容に該当する数字に○を付けてください。
1＝全然そう思わない　2＝そう思わない　3＝どちらともいえない　4＝そう思う　5＝とてもそう思う

1	親・友達の影響	1－2－3－4－5
2	中・高校の学校教育（歴史など）	1－2－3－4－5
3	韓国のテレビのニュース、新聞	1－2－3－4－5
4	韓国のファッション雑誌、書籍	1－2－3－4－5
5	韓国の小説、ドラマ、映画	1－2－3－4－5
6	インターネットの日本動画	1－2－3－4－5
7	インターネットの掲示板の日本での体験談	1－2－3－4－5
8	日本のテレビ放送（NHK など）	1－2－3－4－5
9	日本のファッション雑誌、書籍	1－2－3－4－5
10	日本の漫画、アニメ	1－2－3－4－5
11	日本のドラマ、映画、音楽（J-POP）	1－2－3－4－5
12	日本語・日本関連授業（日本語教師の話や教材など）	1－2－3－4－5
13	日本に詳しい親戚や友人の話	1－2－3－4－5
14	日本の製品を使用した経験	1－2－3－4－5
15	学校や街で見かける日本人の印象 h5 ン gy ういえｄｐｓ	1－2－3－4－5
16	日本を旅行した経験	1－2－3－4－5
17	日本で生活した経験（留学、語学研修、ワーキングホリデー.など）	1－2－3－4－5
18	日本人との交流の経験（友達作りなど）	1－2－3－4－5
19	地震	1－2－3－4－5
20	放射能	1－2－3－4－5
21	韓日関係（政治・歴史など）	1－2－3－4－5

Q1. 日本語学習開始の前と後で、日本及び日本人に対するイメージが変わりましたか。

（　1. 日本：　はい / いいえ　　その理由：

　　2. 日本人：　はい / いいえ　　その理由：　　）

Q2. 近年、韓国人日本語学習者や日本関連専攻者、日本への韓国人留学生が減少していますが、その要因は何だと思いますか。　（　　）

Ⅲ.　日本語学習動機づけについて

下記の内容に該当する数字に○を付けてください。
1＝全然そう思わない　2＝そう思わない　3＝どちらともいえない　4＝そう思う　5＝とてもそう思う

1	親・友達の影響があった	1－2－3－4－5
2	中・高校で第二外国語であった	1－2－3－4－5
3	専攻であるから	1－2－3－4－5
4	大学に入学するため、必要であった	1－2－3－4－5
5	資格習得のためである	1－2－3－4－5
6	卒業のための必修科目である	1－2－3－4－5
7	就職・昇進に有利だから学習したい	1－2－3－4－5
8	より良い職場に就職したい	1－2－3－4－5
9	日本語が使える職場で働きたい	1－2－3－4－5
10	試験でより良い点数をとりたい	1－2－3－4－5
11	自分の視野を広げるために良い	1－2－3－4－5
12	日本語が好きだから	1－2－3－4－5
13	語学学習のためである	1－2－3－4－5
14	日本語の実力向上が嬉しい	1－2－3－4－5
15	友達と日本語で話すのが楽しい	1－2－3－4－5
16	日本語の学習が楽しい	1－2－3－4－5
17	韓国語と似ているため、学習しやすい	1－2－3－4－5
18	日本語授業の時間が楽しい	1－2－3－4－5
19	日本人の先生との授業が楽しい	1－2－3－4－5
20	地震に関係なく、日本語学習が好き	1－2－3－4－5
21	放射能に関係なく、日本語学習が好き	1－2－3－4－5
22	韓日関係（政治・歴史など）に関係なく、日本語学習が好き	1－2－3－4－5
23	日本人と交流をしたい（友達作りなど）	1－2－3－4－5
24	日本をより理解したい	1－2－3－4－5
25	日本の芸能人・ドラマ・映画・音楽（J-POP）が好き	1－2－3－4－5
26	日本の漫画・アニメなどが好き	1－2－3－4－5
27	日本のファッションが好き	1－2－3－4－5
28	日本の食べ物が好き	1－2－3－4－5
29	日本を旅行したい	1－2－3－4－5
30	韓国語と日本語の相違点が知りたい	1－2－3－4－5
31	日本の文化・歴史に興味がある	1－2－3－4－5
32	日本の文学に興味がある	1－2－3－4－5

33	日本の新聞や雑誌を読みたい	1－2－3－4－5
34	日本に留学したい（短期留学、交換留学など）	1－2－3－4－5
35	将来日本に住みたい（就職、日本人との結婚など）	1－2－3－4－5

Q1. あなたが日本語学習を始めた理由は何ですか。

（　　）

Q2. あなたが現在、日本語学習を継続している理由は何ですか。

（　　）

Q3. あなたは日本語を学習して、将来にどう活かしたいと思いますか。(例. 就職、進学など)

（　　）

以上で質問は終わりです。貴重な時間を割いていただき、誠にありがとうございました。

謝　　辞

本論文を執筆するに当たり、指導教員松永典子先生（九州大学比較社会文化研究院教授）には、終始手厚いご指導とご支援を賜り、心より厚く御礼申し上げます。松永先生には、修士課程から現在に至るまで 5 年半の間、大変お世話になりました。誠に感謝を申し上げます。また、多くのご指導を賜った井上奈良彦先生（九州大学言語文化研究院教授）、郭俊海先生（九州大学留学生センター教授）、辻野裕紀先生（九州大学言語文化研究院准教授）、三隅一百先生（九州大学比較社会文化研究院教授）に深く感謝を申し上げます。井上奈良彦先生には、修士課程から現在まで長きに渡りご指導をいただきました。郭俊海先生には日本語学習動機づけに関して多数の面談をいただきました。辻野裕紀先生には大変細やかなご指導をいただきました。三隅一百先生には統計分析に関する貴重なご意見とご指導をいただき、心より深く御礼を申し上げます。

そして、本研究の調査に貴重なお時間を割いてご協力くださった韓国の大学の先生方、日本・日本語関連専攻者及び非日本語専攻者の学生方に心より深く感謝の意を表します。皆さまのおかげで、本調査が実現できました。

さらに、本論文が完成できるまで日本語のチェックをしてくださった日本語母語話者の方々、特に修士論文と博士論文に対して丁寧にネイティブチェックをしてくださった柳瀬千恵美さんに御礼を申し上げます。なお、松永ゼミの方々には、本研究に対する率直なご意見やアドバイスをいただき、感謝を申し上げます。

こうして謝辞を書きながら、本研究が完成するまで非常に多くの方々に大変お世話になったことを改めて実感しております。今後は自分が恩返しをしながら生きていきたいと思います。ご指導やご協力をくださった方々に、再度御礼を申し上げます。

本当にありがとうございました。